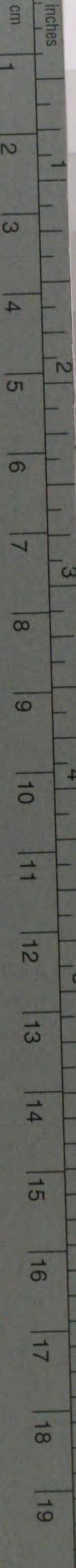


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

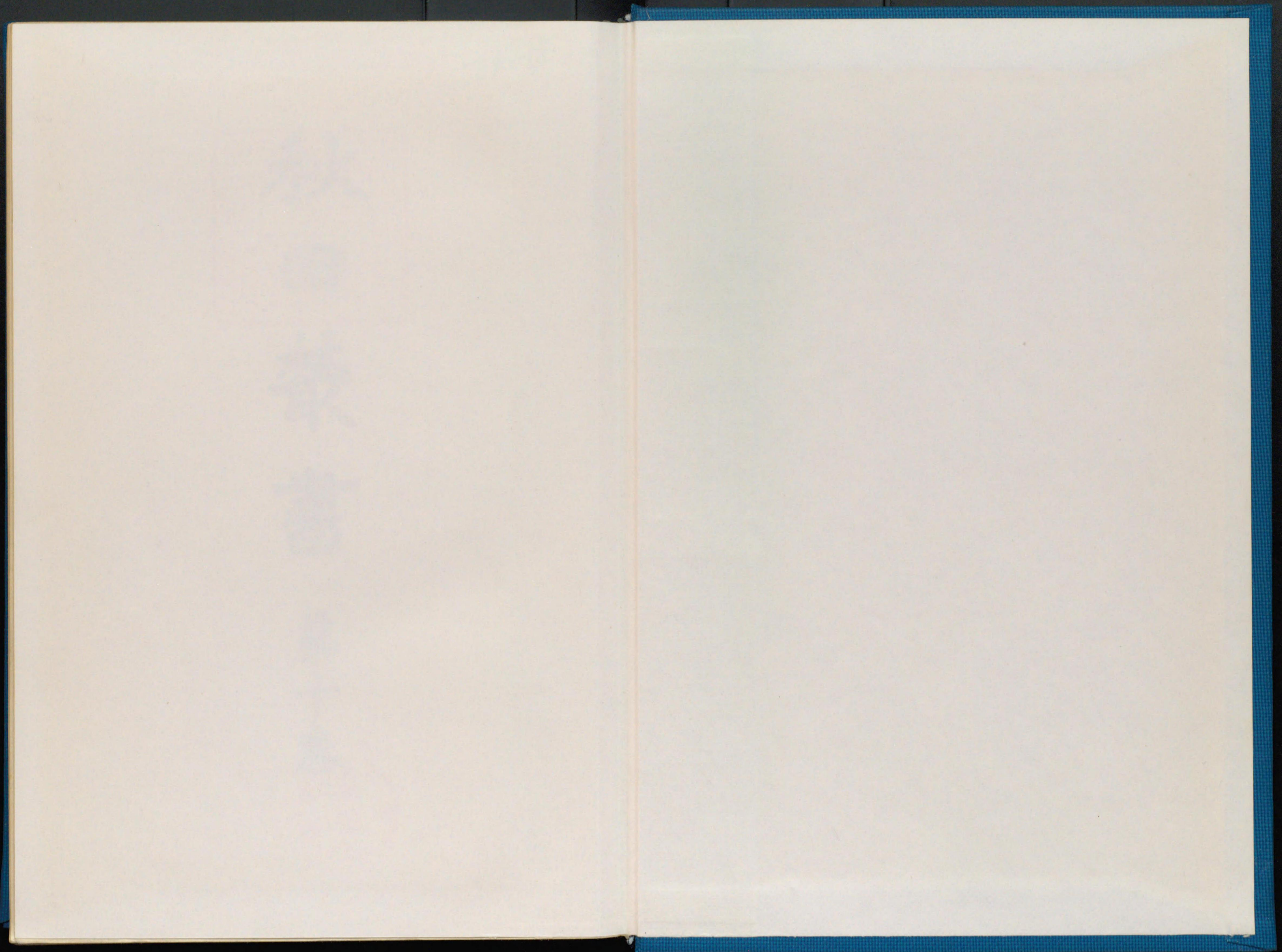
© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black
1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25	26	27



584-14  
1200501523535







IT3N51

584-18



叢書

第十卷





眞澄翁富士の自畫自讃と短冊

(富士の自畫自讃は六郷町本覺寺住職白雲上人に贈られたものである)



六郷町本覺寺住職白雲上人に贈る  
 眞澄翁の自畫自讃  
 吾妻路 春の 梅乃 吾妻  
 戸の 眞澄

六郷町西宗吉氏所藏



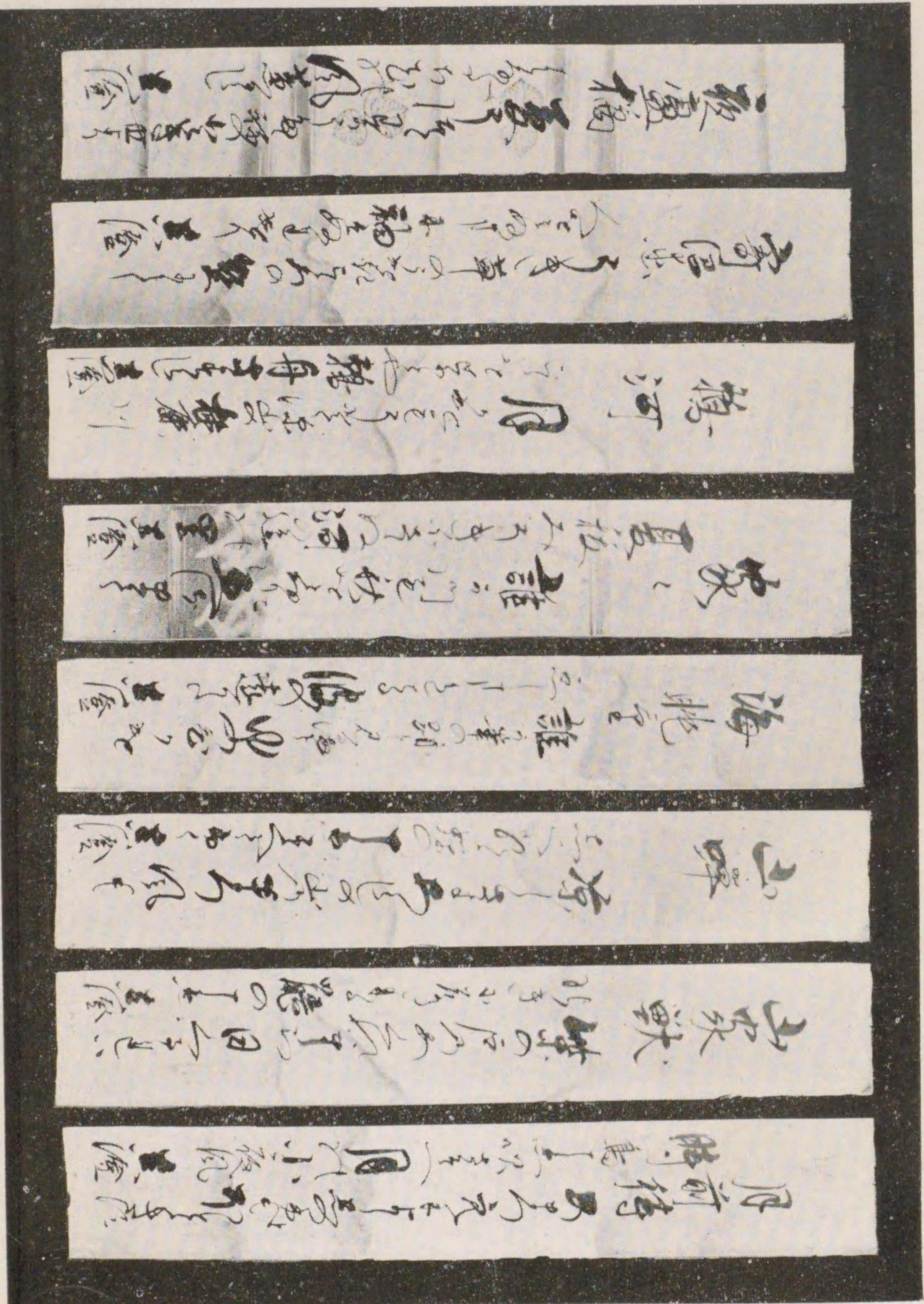
六郷高野といふ處にて年の暮しかは  
雪しろくかうかの林梅のそのつもるたかのにとしそ暮行

眞澄

○  
吾妻路の春とやいはむふしのねの雪より明て霞むあまの戸

眞澄

六郷町熊野神社熊谷家遺るたれさ眞澄翁短冊の一



六郷町熊谷ごう子氏所藏



584-14

秋田叢書第十卷 目次

月出羽道 仙北郡(三)

菅江眞澄著……一

十四卷

六郷東根村……………二	天神堂村……………一六
金澤東根村……………五	野荒町村……………三
中野村……………六	境田村……………三三
安城寺村……………八	佐野村……………三四
畑谷村……………九	上深井村……………三五
羽貫谷地村……………三	岩野町村……………三七
鑓田村……………四	逆高埜村……………三七
野中村……………一五	

十五卷(六郷高野神社部 上)

熊野ノ宮のみ……………三九	日吉宮……………六
神明宮……………七四	

十六卷(六郷高野神社部 下)

……………七九

月前待時鳥  
あまの空によしのふともほとくきすこ吹さそへ月の小夜風  
眞澄

山家歌  
柴の戸のあくれはましろ口くるればのきはのきに落来る躑のこゑ  
眞澄

山 蟬  
涼しさよあらしの山のまつ風もしくるゝ蟬のこゑへてふく  
眞澄

海眺望  
誰か筆の跡と見るまでゆふひかけゑしま色とる波の遠かた  
眞澄

家々夏戯  
誰か門も秋をとなりて更らまでみそきにさしぬ河の邊の里  
眞澄

鵜 河  
月かけもろとく深山の鵜川こゝをせにとや鵜舟さすらし  
眞澄

寄沼戀  
うき草のうけきこゝろの契にて人をみぬまに袖はぬれけり  
眞澄

夜盧橋  
夢うつゝわからたゝねのとき世よりはなたち花の風薫るらし  
眞澄





南諏訪神社

八二

西諏訪社

八三

十七卷(金澤新西根本郷 上)

一七三

金澤新西根邑

一七五

金澤寺田邑

二〇七

金澤本町邑

一八〇

飯詰邑

二一〇

金澤中埜邑

一九三

安本邑

二一六

金澤前郷邑

二〇三

金澤中野新田邑

二二七

十八卷(金澤新西根本郷 中)

二三九

奥州後三年記

二三九

金澤後三年合戦之圖

二五六

十九卷(金澤杜の眞榊 下)

二九一

金澤八幡神社記其他

二九一

二十卷

三四五

(上)

拂田邑

三四五

高梨村

三六五

上野田村

三六一

橋本村

三七四

羽見内邑

四一五

堀見内村

三七五

小荒川村

四一八

福田村

三六七

土崎邑

四一九

(下)

千屋邑

四三一

板見内邑

三六九

大阪新田邑

四三九

本堂城回邑

四〇〇

廿一卷

四四一

横澤邑

四四三

黒澤邑

四八九

中里邑

四五三

永代邑

四九〇

駒場邑

四五七

川口邑

四九一

横堀邑

四六七

今泉邑

四九三

今宿邑

四七〇

太田邑

四九五

宮内邑

四七一

小神成邑

五〇五

元本堂邑

四七三

廿二卷

五〇七

米澤新田邑

五〇七

柏木田新田村

五二四

葛川村

五三〇

大神成村

五三五



齋內村……………五三六  
國見村(上關村、下關村)……………五三九  
東長野村……………五三〇

谷地乙森村……………五三三  
長樂寺村……………五三五

廿三卷

野田邑……………五八〇  
椿村……………五八二  
栗澤村……………五八五  
小沼村……………五八七  
八日市村……………五七七  
野中村……………五七九

下櫻田村……………五八〇  
八幡林村……………五八二  
上鶯野村……………五八五  
遠藤野村……………五九三  
下鶯野村……………五九四

廿四卷

長野邑……………五九六  
鑓見内本郷村……………六〇六  
大藏村……………六三六  
下沖、郷村……………六三六  
鑓見内沖村……………六三九

野口村……………六四一  
築場新田村……………六四三  
上沖、郷村……………六四三  
村杉邑……………六四八  
黒土村……………六五〇

金鑿村……………六五一  
館、郷村……………六五二

袴田村……………六五七

廿五卷

雲然邑……………六六〇  
下延村……………六六三  
八割村……………六六五  
西長野村……………六六七  
勝樂村……………六九四  
櫻田村……………六九七

下花園村……………六九八  
上花園村……………七〇五  
釣田新田村……………七〇六  
白岩前郷村……………七二二  
白岩廣久内村……………七二八  
白岩堂野口村……………七三一

口繪寫眞版

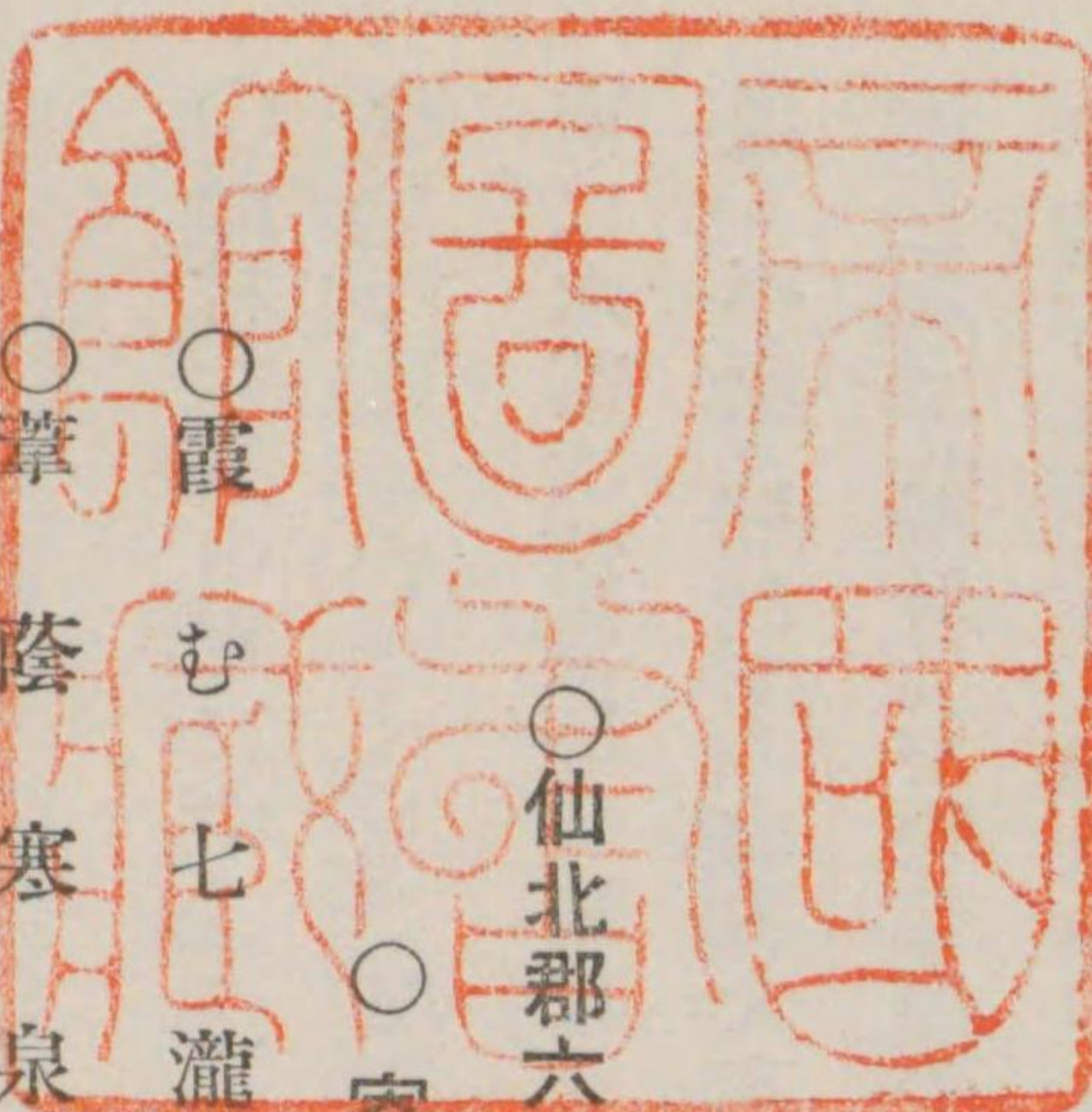
- ◇ 菅江眞澄翁書畫
- ◇ 菅江眞澄翁短冊







月出羽路仙北郡十七箇村二百  
 一郡高節 扇邑 十五邑 十四卷



○仙北郡六郷屬十七箇村之内寄郷十五邑

○寄郷次第

- |          |         |          |         |
|----------|---------|----------|---------|
| ○霞む七瀧    | 三〇六郷東根村 | ○七のみやしろ  | 四〇金澤東根村 |
| ○葦陰寒泉    | 五〇中野村   | ○しま田のしみづ | 六〇安城寺村  |
| ○嶋のむらさき  | 七〇畑谷村   | ○槻のふる枝   | 八〇羽貫谷地村 |
| ○うぶこのしみづ | 九〇鎧田村   | ○千代の竹原   | 十〇野中村   |
| ○をあら田    | 十一〇天神堂村 | ○いでみ川    | 十二〇野荒町村 |
| ○にし田の清水  | 十三〇畛田村  | ○ふるえのそのふ | 十四〇佐野村  |

月出羽道(仙北郡十四)

十四卷

一



○矢作田 十五〇上深井村 〇うばしみづ 十六〇岩野町村  
○みやこ野 十七〇逆高野村 十五村也。

霞む七たき

○六郷東根村 (三)

六郷屬村十  
七ヶ郷之内

里正 孫左衛門 高橋氏  
善兵衛 伊藤氏

○此村六郷の東に中りて一里に及び、二里或は三里を隔つ處もある大村也、一郷の廣々東西南北二里四方  
餘りに亘るといへり。郡邑記に云く、○南部領と平鹿郡境也、北は女神嶽よりシグラ澤、湯田長峯迄、  
南は水落次第當御領地也。同處東、方は南部下前澤より木賊澤まで南部領、湯田、臺より黒森嶽まで後  
通り平鹿郡横手、山内大臺といへる處と郡盼也云々、と見ゆ。同書に云く、支郷○逢野村六軒○衣類傳  
村四軒○立堀村八軒○藤屋敷村二軒○田中村三軒○中谷地村二軒○味噌田村三軒○下野際村十三軒○下谷地  
村一軒○横山村二軒○山野根村二軒○吉澤村五軒○上野際村四軒○野來傳村一軒○八景村一軒○四天王村  
○一ツ屋村九軒○二ツ屋村一軒○田尻村十二軒○蛸澤村四軒○鎧ヶ崎村四軒○荒川村十三軒○四ツ屋村八軒  
○湯田村八軒○七瀧村三軒○中村一軒○關田村十軒○筑後屋敷村二軒○雀柳村四軒○細田村六軒○押切村二  
軒○紀伊國村四軒と見えたり。同書享保年中編に寺一ヶ寺とあり、今は西派一向宗三ヶ院あり、享保の世  
とは今は大に異事多し。

○鎮守社風御かみせき 權現 祭禮四月十日、齋主高橋宗兵衛。本地十一面觀世音を祕齋ひめまつるといへり、是レ風鎮  
に祈奉る御神にして、そは天御柱國御柱とまをし奉りて則級長戸邊神、級長津彦の御神也。大和の  
龍田、伊勢、風宮も同じ。「此春は花ををしまでよそならぬ心を風の宮にまかせて西行法師委曲に諸一覽  
に見えたり。

○摩利支天社 人みな支天寺といふ、祭日六月十五日、齋主長八。同神、社平鹿郡の八澤木、秋田郡  
妙傳村の邊りにも座り、劍術者流祈之。

○此六郷東根村に西派一向宗三ヶ寺あり。

○徳玄寺 一向宗西派

○嶋廻山徳玄寺、西本願寺派、中山は六郷の吉水山善證寺也。此寺の○開基は釋玄西にして明應年中の  
人也、本山八代目、蓮如上人より寺號並に本尊ノ免許あり。當寺、八世清岸代に一字回祿にあひて、過去  
帳、什物等餘波なく焼亡して傳らず、さりければ累世遷化の年號詳に知る事あたはざる也。

○本尊木像阿彌陀如來、開基より已來安置し奉る佛也。

○六字名號。十世誓山代、本山十六代目法如上人より賜ふ御眞筆也。

○開祖釋玄西○二世玄了○三世永西○四世圓正○五世宗向○六世西教○七世誓順○八世清岸○九世清  
順○十世誓山○十一世當時現住廣尊代也。



○善巧寺 西派

○方便山善巧寺は西本願寺直末寺也、六郷より引移りたりし寺也。此寺は元照樂寺、圓勝寺、眞光寺、善應寺、善巧寺とて六郷五箇寺の古寺ながら、中世回祿の災にあひて寺の累世歴代もさだかならず、唯五尊の御影のみを傳ふ。○當時現住慶承代。

○圓隨寺 西派

○東林山圓隨寺は西本願寺直末寺也。此寺も回祿して古記、縁起等さらに傳らず、是も五尊の御影を傳ふのみ也。

○開祖釋淨空○二世淨專○三世淨圓○四世淨德○五世淨誓○六世淨正○七世淨哲○八世淨寬○九世淨雲○十世淨辨○十一世淨願○十二世淨諦○十三世當時現住淨信代也。

○石神村 家員廿六戸

○此村郡邑記に見えず、梵字彫りたる石ごも多かるよしをいへり。文化四年丁卯十月某日、此六郷東根の一字山にて樵夫、山賤、石疊起し掘りうがちたりしかば石櫃あり、そが内に、白銅の筒に法華經を書寫納めたり、筒に「仁安三年戊子二月金兼宗」とありたり。その後此經とも、六郷の本覺寺の畵内にふたゝび埋たりといへり。墨書の經あり、また血書やうの經あまたあり、こは、つみなはれたる人を埋みしつかたるよしをもいひつたふ也。此一文字山は六郷東根、金澤寺田の村畵に在り。

○總家員百三十三戸 ○同人員六百五十六人 ○同馬員八十六匹。

なみのみやしろ

○金澤東根村 (四)

里正 孫 右衛門 藤井氏也 高橋氏也

○此村六郷の北東に十七町を行程て有り、東は空虛川を畵とし、西は鑓田村、南に六郷東根村、北は千谷村を邑さかひとせり。原此村は金澤の領たりしが、六郷東根と入り代りたりしは委曲ある事といへり。此村に枝郷多かる中に、○うつほ坂○竹原○大明神などいへる枝郷の字地は、郡邑記にも見えざる地也。

○枝郷○外河原古十九軒今三十戸○空虛阪古なし今六戸○下村古六軒今一戸○澤口古今共二戸○田中古一軒今此村なし○竹原古なし今十三戸元本郷か○湯野澤古五軒今十四戸○蛭川臺古二軒今十三戸○河原田五軒八戸○柳田古十二軒今十三戸○本屋敷古六軒今十二戸○大明神村古なし今一戸○寺村古八軒今十二戸○葭原古二軒今一戸○雀柳古今二戸云々。

○名 跡

○泥鱒沼 東西百二三十間、南北二百四五十間、大沼也、一尋斗の大泥鱒すみし事といへり。今はありやなしや。



○鷹兒河 善千鳥山より落る水也、もとも落會也。

○郷、七社

○松原観音社 祭日正月十七日

齋主 高橋門右衛門。

○同處聖徳太子社 祭日四月廿一日

齋主 高橋新之丞。

○善衛阪、飯成社 祭日九月十日

齋主 高橋五郎左衛門。

○野口御嶽權現社 祭日四月八日

齋主 高橋五郎左衛門。

○埜澤観音社 祭日正月十七日

齋主 高橋太吉。

○新山權現社 祭日四月八日

齋主 高橋與平治。

○大日如來社 祭日(未詳)

齋主 高橋長兵衛。

○總家員百十三戸 ○同人員六百五十六人 ○同馬員八十六匹。

あしかけしみつ

○中野村(五)

里正 長右衛門高橋氏也

○此村六郷より正北に中角館、街道に在り、東は金澤東根、西は安城寺村、南は六郷、北は土崎也とい

へり。枝郷あり○砂子館古六軒今一戸○沖田古三軒今一戸○寺田古四軒今五戸むかし某寺ありし處といへり。○内城二戸むかしは城回にや、砂子館に城主ありし物語あり。○寺村、願宗寺あり、家七戸。此事は寺の歴代の奥に誌す。

○神社

○八幡宮 祭禮八月十五日、齋主兵左衛門。

○辨財天女祠寺田村の内 齋主長重郎。

○稻荷明神社 齋主長右衛門。

○六泉

○いやはた寒泉。八幡の杜の東にわきづる靈泉也。○寺田の清水。むかしありし寺の阿伽井の跡也。○番匠好井。いにしへ此處に木工栖家の迹なるよし。○葦掛清水。○沖田のしみづ。○砂子館好井。いさご館の迹に残る妙美井也。人みないさ立といふ、其館主こそしらね、いさご館はよしある君や住給ひし地か。

○願宗寺 西派

○至心山願宗寺は西本願寺、御末流也。當山開基は○良圓房、永祿年中金澤東根邑に一字の佛場を建立し、其後元龜年間城主の命によりて中野村に移住るといへり。○開祖釋良圓上人○二世良秀○三世良曉○四世良安○五世良慶○六世良出○七世良信○八世良覺○九世良頓○十世良康○十一世當時現住良



潭代也。

此寺、中古盜賊のために古佛、靈寶等餘波なううばはれて、今は寺に傳ふ古記等あらねば歴代さだかならず。

しま田のしみづ

○安城寺村 (六)

里正 小久 四 吉 藤原氏

○六郷より此村二十町斗、北に在り、東は中野、西は橋本、高梨、南は畠谷、北は上野田云々といへり。此安城寺村、其寺いにしへ在りし寺跡にや、こはまた安隆寺を訛りてしかいふとも、もはらいへる人あり。安隆寺は古寺也、三代實錄に、貞觀十二年二月八日乙酉勅分、飛驒國大野、爲三兩郡、出羽國山本郡安隆寺預之定額。と見えたり。此仙北、郡、原山本、郡也。此安隆寺の事大曲の一向宗安養寺の處にも考たり、此寺古天台宗派などの寺の號を以て起しよしを傳ふ。安隆寺は安養寺に近ければ其寺ならむか、また安城寺は安隆寺を訛りいへるか、其意得たらむ人なほ委曲に考定めてよ。さだかなる事の證なし。

枝郷○柳原、家一軒、今此村なし○ほうやう、同三戸、方丈の跡にて訛るにや、方丈の室は寺に依る名也○段子町、同九戸○竹ヶ島、同五戸○狐塚、同一戸○石持、同一戸、同名多し○切り上ヶ、同古七軒十一戸○谷地中

同四軒、今は村なし○四十八、同一軒、今此村なし○嶋田、同二戸○張山館古二軒今十二戸。

○寒泉十二井、そが中に

○柳原清水 ○だんご町清水 ○嶋田清水 ○張山の二ヶ清水。

○荒脛纏あらかはづま權現 又柳原十一面觀音と稱奉る也。此神號國々にもいとく多し。祭日六月十七日、齋主藤原小右衛門。

○播磨館はりま白山社 祭日七月十四日也 齋主森元利兵衛。

○總家員四十二戸 ○同人員二百十二人 ○同馬員二十五匹。

嶋のむらさき

○畑谷村 (七)

里正 伊 兵 衛 高橋氏

○此村原は畠谷に作れり、六郷よりは十六町斗、北に在り、郡邑記に家員廿九軒と見ゆ、支郷あり。

○神尾町かむい今一戸○外館そだて本、戸館とに作る也、家古八軒今五戸○稻荷村いなかり一戸○狐塚こむら今四戸○室町むろ邑記ななし○太田口ただ古今二戸

○羽黒田はねくろ古今二戸○深田ふか古今二戸○紫嶋むらさき古今一戸○谷地中やちち一戸、郡邑記に漏れたり。

○鎮守八幡宮 祭禮八月十五日、神官佐々木甚太夫。舊地、本宮と字地いふに在り、いにしへのみやとこ



ろにや。

○菅大臣、神社 祭日(マ) 齋主高橋伊左衛門。

○羽黒神社 祭日(マ) 齋主武藤市左衛門。

○稻荷神社 祭日(マ) 齋主西鳥羽文藏。

○不動明王社 深田村に座り、齋主武藤市左衛門。

○寒 泉

○うきぶた清水三間四面斗り水田地の面に在る好井也。○ごみしみづ、芥清水、また五味しみづつくねに作り。○多賀寒泉、近江の多賀明神なご遷しまつりし地か、また竹輪たがのよしにて、桶がなど埋みおきたるゆゑにや、知れる人なし。

○西 空 寺 東 派

○紫雲山西空寺、本山は六郷惠日山淨光寺、開山は淨光寺八世慶應、次男○釋明珍也。此畠谷村に来て、天正二年三月に一字を建立し寺號御免ありき。此代○蓮如上人、御眞影、元和六年四月宣如御門跡より賜りぬ。○教如上人、御眞影、寛永十四年四月、並宣如御門跡よりこれを賜りぬ。

○二世明元、元和五年十月十三日遷化○三世明林、正保四年三月三日化○四世明願、延寶元年九月八日化○五世大乘、天和三年二月十六日化○六世正願、元祿元年正月十六日化○七世明讚、同十年三月十五

○天樹院公佐竹義和朝臣を  
まをし奉る也 富士御自画讚

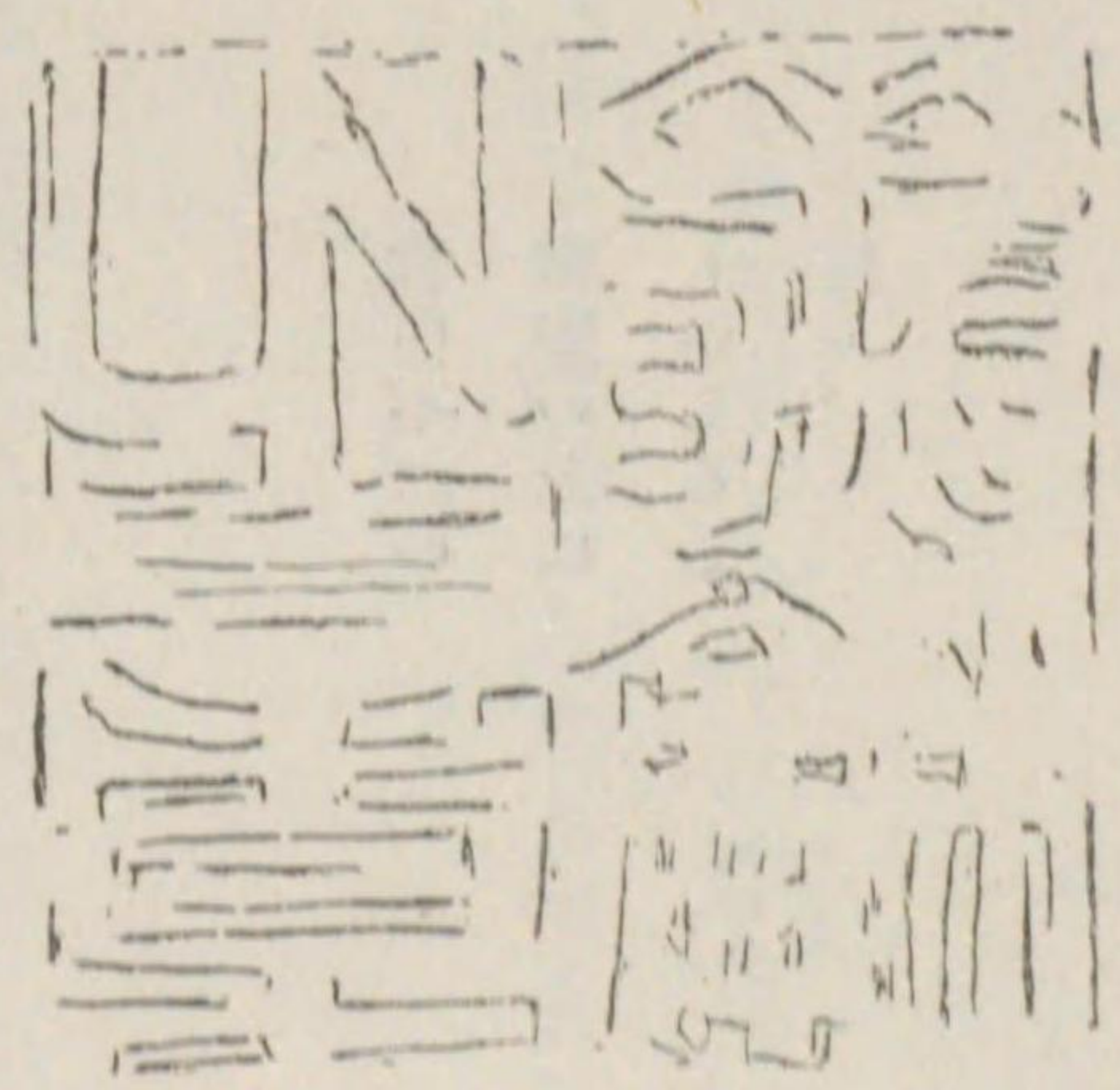
高橋伊兵衛所藏

富士の山は  
雲中不ふ二の  
御畫の上に  
しかしるし  
給ふ。



御眞筆之摹書

朝氣及森主



日化○八世順信、享保三年七月三日化○九世惠海、寶曆九年三月三日化○十世惠了、安永三年六月廿五日化○十一世當時現住惠燈、安永五年入院。」

○舊家あり、高橋伊兵衛といへり。家藏の品

○所藏の内長谷部雲谷が画し屏風一雙、此品天樹院公に獻りぬ。また文化二年閏八月獻りたる其品は○相州貞宗が作一刀、五百枚添狀あり。○初代ノ左文字ガ作ノ一刀、二百枚……○備前三郎、二百枚……○高木貞宗、七拾五枚……○高砂ノ画一軸、又探幽が筆也。此品とも獻上の後御自画讃の富士、また御紋の御上下拜領也。なほ家藏も多かりし家也といへり。

○神官佐々木甚太夫家譜

○上祖不知○佐々木宮五郎○同甚太夫○同甚太夫○同安藝守、寶曆十年於御本所受領仕候○播磨守、安永五年四月十六日於御本所受領○同甚太夫○中興、七代佐々木甚太夫某也。

○總家員七拾戸 ○同人員三百五十六人 ○同馬員七十三匹。

つきのふるえ

○羽貫谷地村 (八)

里正 吉 兵 衛 氏渡部



○此村六郷の西北十三四町に在り、羽貫谷地、羽貫田など處々に在る名也。元是ははんの木の轉語也、はんの木、はの木なごも云り、また澤桑と方言處あり。此木を倭漢三才圖會に喬木の類にして、「波牟乃木」正字未詳、按波牟乃木生山中、高者二三丈、葉似栗而輻、花亦似栗花而褐色、實似杉實、其木肌心白色見、日則變、赤今染家用、梅木煎汁、投此木屑、經宿以染赤色。云云と見ゆ。（天註―物類稱呼ニ云、の木、奥南部にてやちば、はんの木の實を尾張にて山だんこ云々と見ゆ。「橙」は代々ともはらいへり、倭名抄には「あべたちはな」といへり。同字異物の品にこそあらめ。）みな借字を以て羽貫澤など作れば、そを羽拔鳴の栖む谷地よりいへる名也といへる人あれど、しからず。はぬきやちは、はんの木やちのよしならむかし。

支郷○紫嶋、家員古二軒今一戸隣村入交同名あり○出川古今三戸○土木三戸○大荒木二軒、今は村なし○中村二軒、今は村なし○槻館二軒此三村今は田地の字となれり。此村東は鑓田、西は萩野目、南は六郷ノ本館、北は畠谷也。畑谷にも紫嶋あり、村界なれば、しか兩村の家々も入交りて同名ありといへる也。

○神明宮 一郷の鎮守也、神事八月十六日、齋主、時の里正祭之。  
○總家員廿二戸 ○同人家十二人 ○同馬十九匹。

うぶこの清水

○鑓田村 (九)

里正 太 右 衛 門 高橋氏

○六郷より五六町北に在る村也、此地新墾せし時鑓を掘得し事ありしを以て田地の名とし、村の名となるといへり。東は金澤東根、西は羽貫谷地、南は六郷高野、北は畠谷村也。枝郷あり○神尾町といふ、二戸。郡邑記に鑓田村家員十一軒、神尾町村一軒と見ゆ。  
○牛頭天王神社 祭事六月十五日、齋主、時の里正祭之。  
○此社左右の傍に古碑二石あり。一碑に壽永の年號見え梵字を彫たり、今一石に永和の文字仄に見えたり。

○十三泉あり

○上清水、また神寒泉といふ。清淨美妙井にして、一郷の鎮守祇園社に詣る人ら此水に河下すれば、また垢離寒泉の名に負りともいふ也。○おほこしみづ、またうぶこの清水ともいふ也。○多右衛門しみづ○かうやしみづ○かこひしみづ○清三郎清水○久左衛門しみづ○三太郎清水○番匠しみづ○小右衛門清水○金助清水○大面清水○張掛清水、十三好井ぞありける。

千代のたかはら

○野中村 (十)

里正 良

介 小西氏也 六郷馬町人

○郡邑記に六郷野中村と見ゆ、享保のころ迄はしか云ひしものか。また同書に、支郷○竹原○前村と見



えたり、此村字今はなし○上<sub>ミ</sub>村<sub>家二</sub>戸<sub>七</sub>○下<sub>キ</sub>村<sub>家七</sub>戸<sub>云々</sub>といへり。

此村は六郷より眞東四五町に在り。村東東根、西は六郷、南は六郷の川内池、北は金澤の東根邑に中れり。

○鎮守正觀世音、祠 祭禮四月十七日、齋主時、里正司<sub>レ</sub>之。

○總家員九戸 ○同人員三十九人 ○同馬三匹。

をあら田

○天神堂村 (十一)

里正市左衛門<sub>伊藤氏</sub>

○六郷の南拾町に在り、此村、一郷の鎮守の御神を菅大臣を齋奉<sub>レ</sub>ば、天神堂と恐<sub>ク</sub>も郷の名に稱奉<sub>ル</sub>也。享保郡邑記に家員七軒、瀉尻村御開高地形天神堂村、岩野町村、境田村、野荒町村、六郷東根村之内開、瀉尻村御開村名<sub>ニ</sub>村居無<sub>之</sub>六郷東根<sub>ニ</sub>居相勤候。云云と見ゆ。同書に、枝郷あり、郷名○扇田、一軒<sub>同名秋田郡南比内</sub>亦山本郡檜山にもあり○間谷地、二軒<sub>古名也</sub>○松野木、五軒○小荒田、三軒○四屋、二軒<sub>同名い</sub>○耳取、二軒○小出村二軒。今在<sub>あ</sub>在處○天神堂村、家員六戸○小荒田、同四戸○間谷地、同一戸○小出、三戸○扇田、一戸○四屋、一戸○耳取、古二軒今廢村たり。

○天神宮 一郷、鎮守社、祭禮五月廿五日、齋主、時、里正司<sub>レ</sub>之。

○段の小森といふ地に梵形の古碑あり。○十七の寒泉あり。○金堂<sub>かな</sub>といふ古社の跡あり。

○赤城明神社<sub>熊野宮末社也</sub> 祭禮九月十九日、神主熊谷正司。

社地東西四拾間、南北四十間、杉生、杜也。三代實錄十四卷貞觀九年の條に、貞觀九年六月廿日丁亥授<sub>ニ</sub>上野國從四位下勳八等貫前神從四位上、從五位上赤城神伊賀保神並正五位下、從五位下甲波宿禰神從五位上<sub>云</sub>と見ゆ。また倭漢三才圖會に、上野國赤城三所社在<sub>ニ</sub>甘樂郡赤城山、社領五十石、祭神磐筒雄大明神、允恭天皇朝出現、神主宮内<sub>と見ゆ</sub>。金槐集夫<sub>木集に</sub>阿加木「かみつけのすたのあかきのかみやしろやまこにかであとをたれけむ鎌倉右大臣」。此歌のはし書<sub>キ</sub>に「神祇の哥あまたよみ侍しに」と見えたり。考に、秋田、郡雄鹿の本山眞<sub>ン</sub>山、五社、明神と齋<sub>ル</sub>社の中に赤城、明神鎮座<sub>キ</sub>り、赤城明神の事は日光名跡誌にも見ゆ。また雄鹿山は比叡<sub>ノ</sub>山を摹<sub>シ</sub>て赤神山といふ、赤神はもろこしの赤縣<sub>しやくけん</sub>の神にして、むかし圓仁大師の比枝<sub>ひえ</sub>の山に遷<sub>リ</sub>し齋<sub>リ</sub>給ひたる赤神<sub>しやくじん</sub>にて、から神也。さるよしをもて鎌倉、右大臣は、さくじを詠て、やまとにかであとをたれけむとは聞え給ひしものか。また赤山<sub>しやくせん</sub>の神とまをすもおなじ御神なるか、諸一覽<sub>六卷</sub>云、「赤山」赤山者支那山名、山有神世稱<sub>ニ</sub>太山府君神<sub>一也</sub>社、西坂本<sub>ニ</sub>在<sub>リ</sub>、慈覺大師在<sub>レ</sub>唐習<sub>ニ</sub>清涼山引聲念佛、時神現<sub>レ</sub>形、與<sub>レ</sub>覺約來<sub>ニ</sub>于日本、歸朝海波惡、將<sub>レ</sub>漂<sub>ニ</sub>羅刹國、赤山明神着<sub>ニ</sub>袈笠<sub>一</sub>持<sub>ニ</sub>弓矢<sub>一</sub>而護<sub>レ</sub>覺、或現<sub>ニ</sub>不動形<sub>一</sub>或爲<sub>ニ</sub>毘舍門形<sub>一</sub>、故其舟無<sub>レ</sub>難、相傳云此本地地藏菩薩也。云云と見えた







此度門中吟味と村書付を以中上と云

私先祖中代以前藤井駿河と云水戸より

清國と云ふ由中代より右駿河代より内攝与代と

云を以駿河代と古筆に云ふ其寶曆年中

出火言諸道具との中残燧矢仕の古紙に云ふ

古くは此所憐愍を以て云ふに依上と如く度

編を以て上と云

天神堂村野

寛政六年寅上月

七郎吉門

徳谷惣助殿

右者山百姓等門攝り候所物等と云ふに云ふ

此所物より云ふ代官様と書上と云ふ所物有と

此所物より云ふ代官様と書上と云ふ所物有と



甲 新町と東南小中  
天神堂村の生虫之殿  
了、丙赤城明神の社あり  
高野の丁熊堂の社の鶏栖  
などありけ画



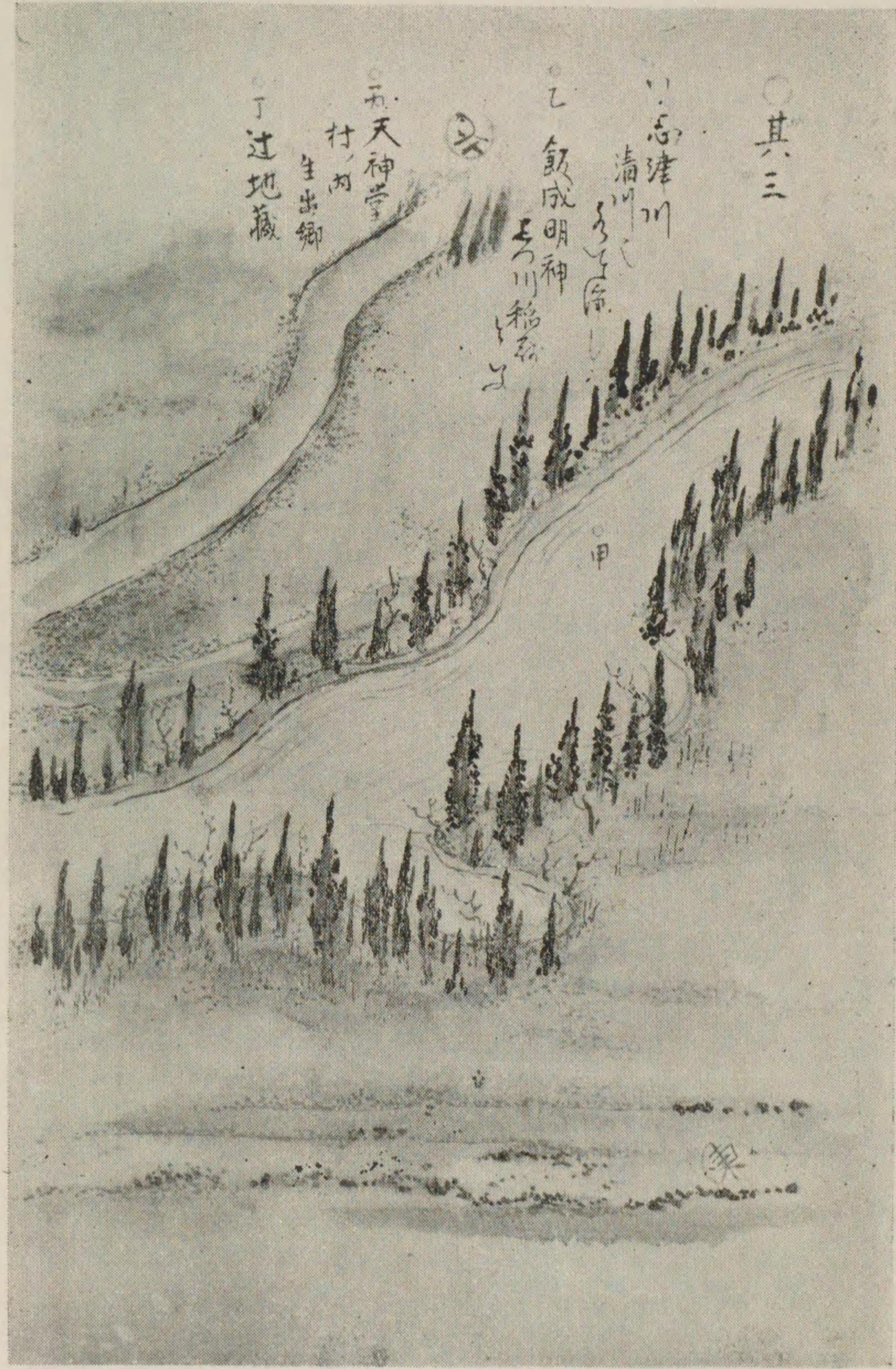
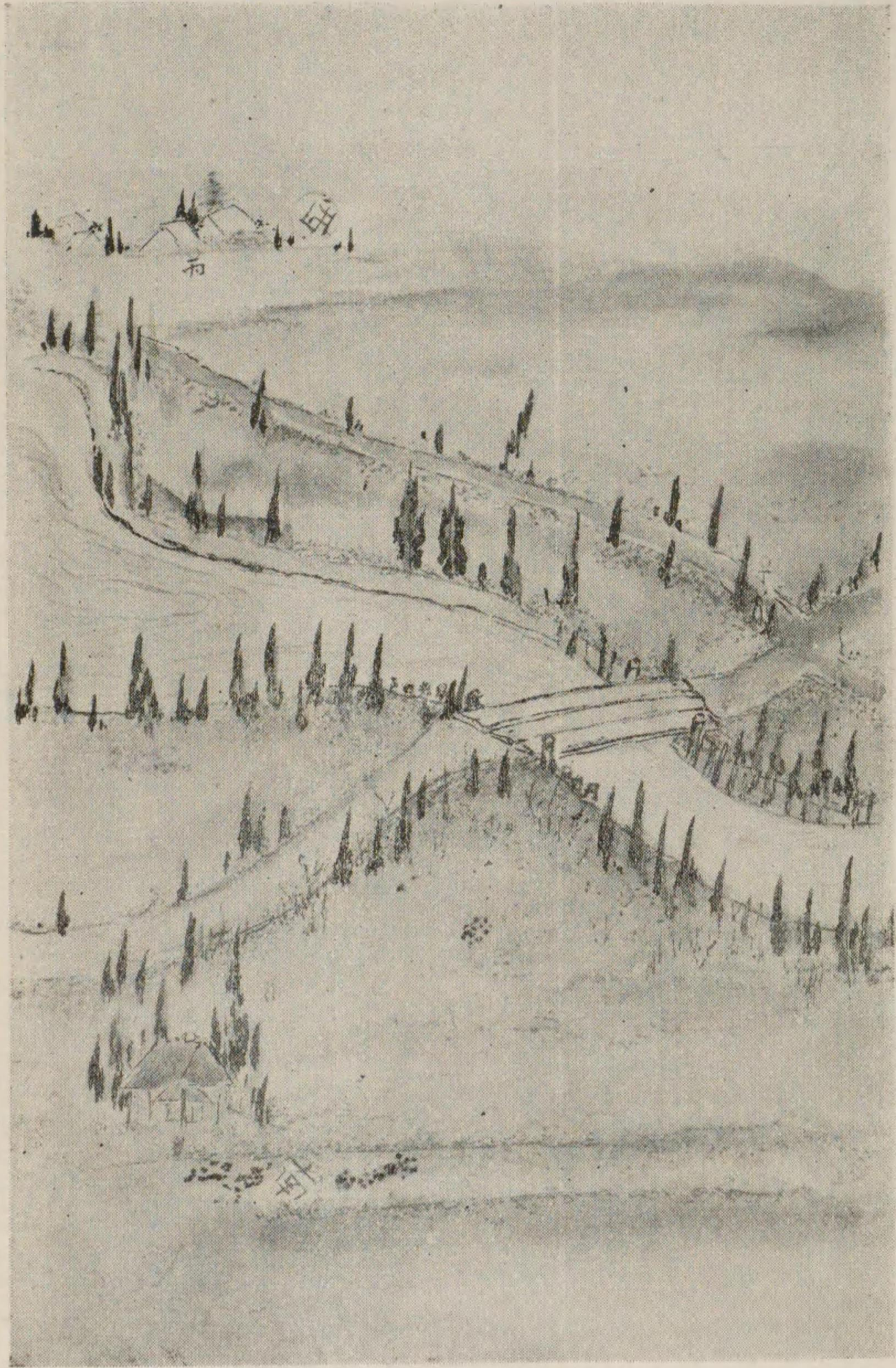
廿二

甲 赤城明神の赤大明神と  
作乙 小瀧の御小  
前 梵字ありし石物  
六 柳馬車丁善徳寺  
戊 新所より已往の街道  
路傍の石地蔵を中  
にありし甲の御小



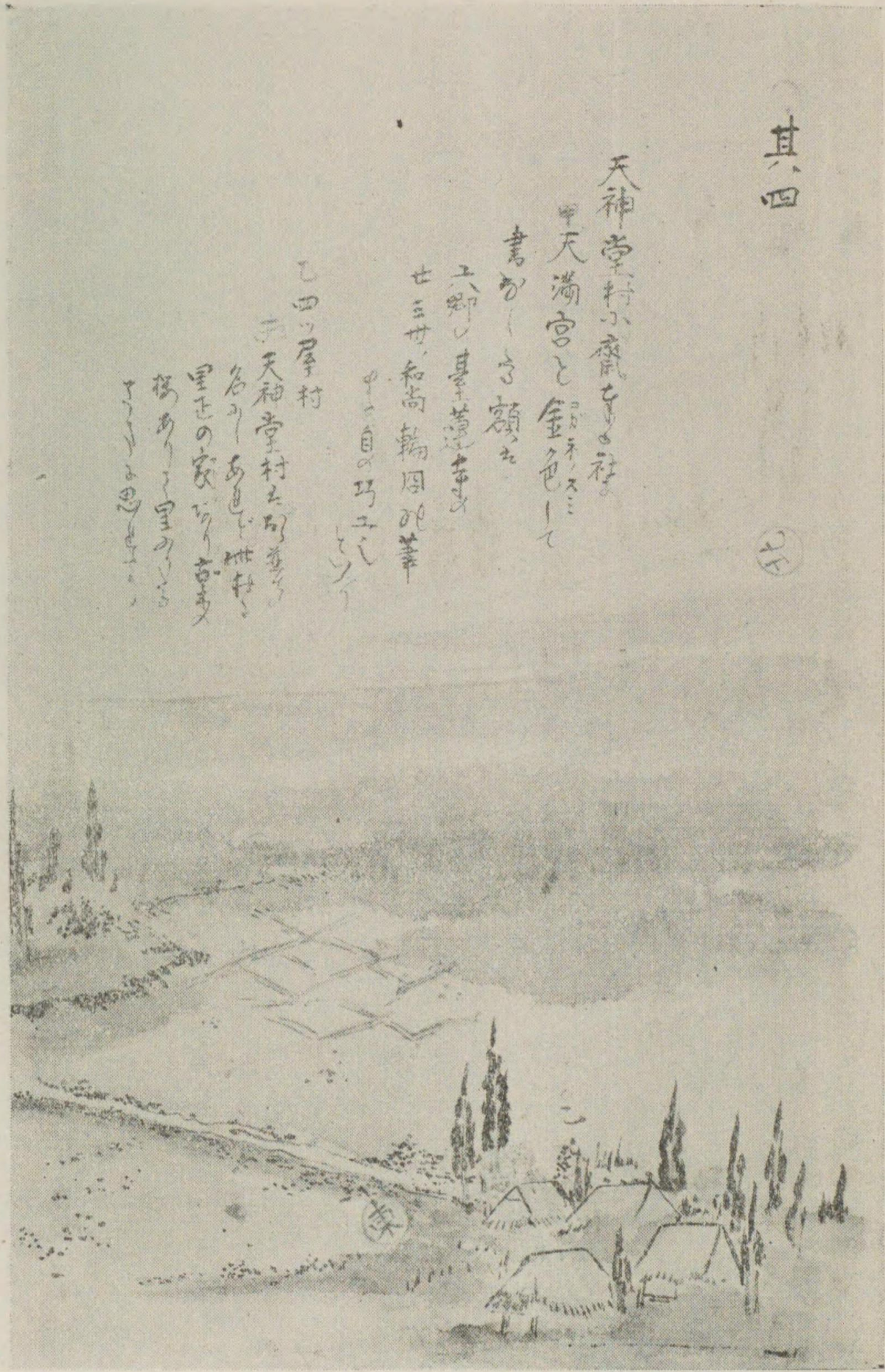
神  
石大  
右大  
石大  
右大  
石大  
右大  
石大  
右大







其四



天神堂村の産物  
 甲 天満宮と金糸  
 書かす額  
 乙 郷の草履  
 世三廿 和尙輪廻筆  
 丙 自の巧工  
 丁 四ッ屋村  
 天神堂村の別荘  
 名ありあしむ地村  
 里正の家  
 桜ありし里  
 丁より思ふ





其五

廿段録塚の地も天神の宮地と  
 鎮守の地と神地と神社あり  
 永治二年の碑あり上は圓相の  
 遷如未だ種子の地なきは  
 永治二年の碑あり上は圓相の  
 遷如未だ種子の地なきは  
 永治二年の碑あり上は圓相の  
 遷如未だ種子の地なきは  
 永治二年の碑あり上は圓相の  
 遷如未だ種子の地なきは

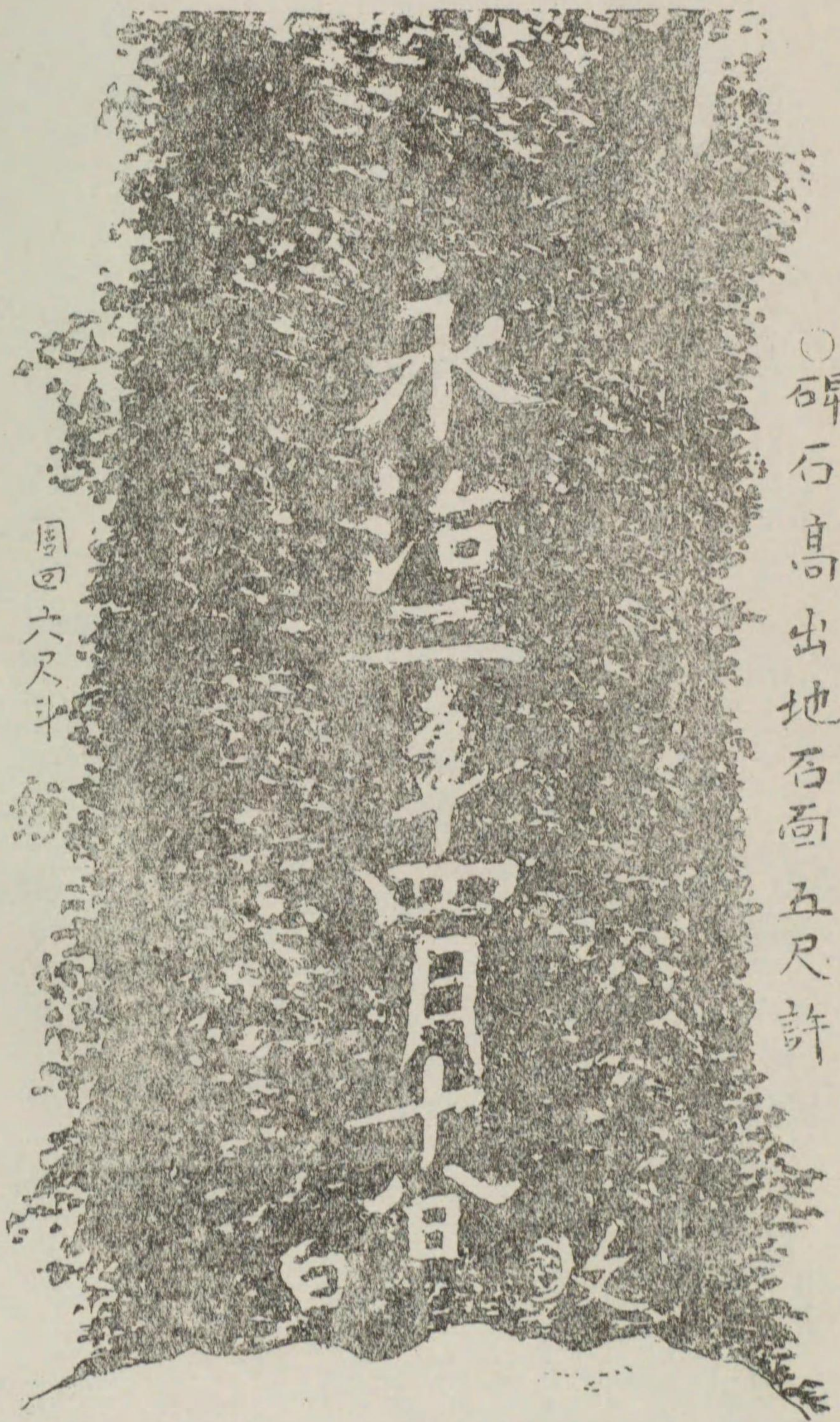


廿段録石の  
 地も天神の宮地と  
 鎮守の地と神地と神社あり  
 永治二年の碑あり上は圓相の  
 遷如未だ種子の地なきは  
 永治二年の碑あり上は圓相の  
 遷如未だ種子の地なきは  
 永治二年の碑あり上は圓相の  
 遷如未だ種子の地なきは





○碑石高出地石面五尺許



○八幡宮 盼内蝦夷檜下<sub>二</sub>齋也祭日八月十五日也、齋主藤井七郎右衛門。

○飯形明神、祭日<sub>十月</sub>○宇賀神雜座、祭<sub>八月朔日</sub> 齋主並同。

○稻荷明神社 祭八月十日、齋主佐左衛門。

○松ノ木、八幡宮 八月十日、齋主

○大山祇神社 齋主

○總家員廿五戸 ○同人員百十九人 ○同馬員八匹。

いて水川

○野荒町村 (十二)

里正 仁 右衛門 伊藤氏

○此村は往復の街道にして、首邑<sub>おやむら</sub>六郷へは北に甘町まり歩<sub>ゆく</sub>行といへり。郷末に土橋<sub>どしち</sub>間斗<sub>ま</sub>あり、出水河に拘<sub>か</sub>る、此川の源は六郷東根より出る小河也、里民はみないで川とのみぞいひける。此河水は此一郷の田面<sub>いまだ</sub>に入みち、また飯詰村の禾<sub>いね</sub>田にもわたりぬ。さりければ水塞<sub>い</sub>にして、井堤<sub>い</sub>、井出をしかいへらむものか。いで、るでのけぢめこそあれ、里人の辭に近し。

○籠森寒泉<sub>かごもり</sub> 閻<sub>えん</sub>一間<sub>ま</sub> 此清水かごもりといふ字地より涌<sub>あ</sub>出<sub>で</sub>て、いかなる早魃にも露斗も潤<sub>うる</sub>る事なくて、

月出羽道(仙北郡 十四)



末は出川に落ぬ。

○多門天王ノ社 一郷の鎮守也、祭禮五月二日田植祭也、齋主、時、里正司之。

○善巧寺 一向宗東派

○方便山善巧寺東本願寺門徒、中山は平鹿郡大谷村新田山光徳寺也。善巧寺開祖は○釋林惠、平鹿郡大森郷賢徳寺ノ了祐ノ次男也、天明七年六月十九日遷化。○二世寛惠、林惠ノ嫡男也、享保二年四月八日化。安永五年入院、同年從本山祖師ノ御影、太子、七高祖並從如上人眞影御免也。○三世惠默、雄鹿船越村善行寺次男、享和二年入院。○四世惠海、即惠默嫡男、現住職僧也。當寺永代玄米拾斛を給フ。

○寶物 祖師聖人御眞筆大幅一軸阿彌陀佛、顯如上人御禪書。○九字名號乘如上人御眞筆、由緒ある寺也。また六郷東根村にも方便山善巧寺とて西派の寺あり、ゆるある事にや、此國には同名の寺多し。

○總家員三十二戸 ○同人員七十六人 ○同馬員十七匹。

にし田のしみづ

○境田村 (十三)

里正 孫 右衛門 小林氏也

○盼田、坂井田など姓にも村名にも多かる名也、享保郡邑記に境田村廿一軒、今六戸あり。○籠林村古四軒今三戸 ○前村古三軒今四戸 ○八百苜村古三軒今四戸 ○段、花村二戸 ○鼠田村五戸 ○後野田村六戸。○段の花は段の岬はなにや谷の岬にや。此だんはな、うしろの田、ねすみだは享保こなたに墾地ひらきし地にやあらむか、郡邑記には見えざるところ也。

○伊豆權現社 祭日六月十五日、齋主 かごばやし 與右衛門。

此神籠林といふ地に鎮座、神號を走湯權現ともまをし奉る。伊豆權現は天忍穗耳尊、栲幡千千姫命を祭るごいへり、加茂郡にまします、社の右の方はこゝろの森也、歌には伊豆の御山とよめり。此伊豆權現は境田一郷の鎮守ノ御神也。

○八百苜稻生明神社 祭日八月十日、齋主 飯詰村居 四郎兵衛。

○寒泉十二箇所

○鹿兒清水、籠林に在り、かごばやしは野荒町村の村界なるゆる兩村に此名有る也。かごしみづ六ヶ處に在り、いづれも美妙井也。○前田の清水あり、○盼田清水三ヶ處に在り。○中野の清水といふあり、○西田の清水といふあり、わきてよき寒泉也。

○總家員廿六戸 ○同人員百八人 ○同馬員七匹。



古枝の苑生

○佐野村 (十四)

里正 惣右衛門 川本氏

○此村六郷の南十七八町に在り、村東は天神堂、村西は深井、寺田、北は岩野町などの村あり。里正川本氏はいとく古き家にして、享祿、弘治の年よりや十七代肝煎の役つとめたり、もとも中絶て、つとめえざりし代もありしが、十七代のきもいりともはらいへり。郡邑記に佐野村十八軒、支郷○土場、家員三軒○中村三軒○谷地中三軒と見えたり。今存在地○土場一戸○中村四戸○谷地中二戸○八軒村二戸○南明屋敷三戸○長百姓やしきなどあり。此南明やしきといふに南明といふ名譽の醫師ありて、國守の御手鷹翦て脚をそこねたるを、此南明、藥をつけて愈してたてまつりしもの語をつたふ。

○大山咋神社 祭日四月十六日、齋主、時、里正司之。

○稻荷明神社 祭日二月初午、日、齋主吉郎兵衛。

古文書一枚

里正川本氏所藏

羽州仙北山本之郡佐野村之内田中山東林寺山王大權現者往昔雖爲靈神之蹤跡中頃宮殿零廢緣起等悉紛失而不詳其來由于是小場源左衛門宣忠遠感神明之靈威近祈武運之長久再建立一字之堂奉尊崇畢于時寛永元甲子歲八月也

延寶六年九月十五日

別當光明院

佐野村肝煎



○總家員十四戸 ○同人員八十一人 ○同馬八匹。

やはぎ田

○上深井村 (十五)

里正 宗兵衛 伊藤氏

○此邑六郷の西南一里に在り、下深井といふ村のありけるに並びていふ名也。荒川がりの水、十八ヶ村の内五千三百十五石二升の稻田を佃る、末水入り來る村也。

○枝郷 ○田中村○谷地中村也。

○字 地

○矢矧田 ○松葉田 ○鳥海田 ○經塚。

此矢矧といふ郷陸奥國氣仙郡に在り、また三河ノ國には矢作ノ驛、松葉村とおしならび、大橋を隔て往復の街に在り。





○鎮守毘舍門天王社 祭日三月廿三日、齋主、時里正也。  
 ○總家員廿二戸 ○同人員百六人 ○同馬員十七匹。

樞寒泉

○岩野町村 (十六)

里正 與重 郎高橋氏

○此村六郷の西南の隅に中り十七八町を隔たり、新古支郷あり○蕨崎古九軒今三戸○廣田四戸○中村五戸○石名いしな  
 館だて今三戸○鼠田一戸○大橋古四軒今三戸○番匠、目古今六戸云々と見ゆ。

○好井あり

○うばしみづ ○わらびさきしみづ。  
 ○大山祇神社 一郷、鎮守、御神祭禮四月十二日也、齋主、時、里正也。  
 ○總家員二十七戸 ○同人員百三十二人 ○同馬員九匹。

みやこ野

○逆高埜村 (十七尾)

里正 作兵衛栗林氏也六郷上町居

○慶安の年迄は逆小屋さかやに作れり、今は小郷ながらいにしへは繁榮の地か。○支村あり○千蒔田三戸○中



村二戸○鼠田四戸○番匠ノ目二戸。○逆高野は六郷よりは七八町西南の方に在り、其畛北は河内池、西は上深井と岩野町、南も岩野町、また天神堂なごにわたるなり。

○鎮守八幡宮 祭禮八月十五日、齋主、時、里正司之。

○寒泉

○わかさ清水 こは二月堂のわかさ水におなじ名也。此二月堂の井は、毎歲二月十二日の夜持念すれば水涌出る、是を關伽たてまつに供るといへり。

○字地

○石名館むかしの小城迹也 ○車町むかしの肆迹也 ○中町是もむかしの町迹也 ○下町並同 ○鹽辛田所々に同名あり ○五把田 ○都野、此都野はよしありげなる字也。また河邊、郡なごに御所野あり、また山本、郡に大裡田おほうちだあり、いづれもよしありげなる字也、其ゆるゑをしらす。

○此逆高野村は天正、文祿の年までは六郷と稱よびつる地にして、今の六郷に、今此郷に在る古名みな残りける也。

月出羽道 仙北郡 上 十五卷 高野神社部

○里の神がき ○神社部上

○十五卷

杜のはまゆふ

○熊野宮のみまさ

○六郷三箇村に神地九社といへど、此高野にのみ七社ぞ有ける。まづ其はじめに、みくまのゝやしろあり。

○熊野神社 祭禮小祭六月十五日 大祭九月九日

○神主 熊谷正司藤原直堅

舊社也。此社地の巡りに往古は熊野宮村とて家八九戸ありしが、貞享元年のころ民家二戸と成り今は



廢村、たゞ畠の字に熊野宮村と呼ぶのみ也。いにしへは神もいや榮えまじたりけん、一心山善應寺といふ一向宗も熊野宮村の東の方に在りたりしが、萬治の回祿の後にや、今いふ宮野の地に遷といへり。○當社熊野、古縁起に○夫原扶桑國裡北海羽州山乏郡内、六郷城頭東方古境熊野三所大權現之來由、大同二年之草創也、總而謂權現者、有相無相千變萬化、有賞有罰有實有權孰敢不敬乎、昔日西塔武藏坊辨慶、於文治年中領知此處、時有大願宿意營權現之梵宮、朝恭暮敬月詣雲望吉兎、俱禱治亂曰崇、自爾已後當所人民景福時至、家門日昌、雖然辨慶不祿之後以無修造之功、故雨濺風侵月入星客、又不祥瑞也、於建久年中有階堂帶刀、蒙鎌倉右大將賴朝公之嚴命、爲司領下向當國、其苗裔兵庫頭範義卿、移相州之六郷名于此所、而以居于當境矣、是以世々號六郷兵庫頭也、抑範義卿崇敬權現、抽丹誠催再興、而還珠於合浦、改靈山之觀、於其巍々乎哉、神德赫々然乎哉、靈驗雖然恁地也、物換星移梵宇幾回敗壞矣、又時至哉福偉哉、神靈、於慶長年中佐竹義宣公守於此國也、曾仰神佛之德、又時至哉探仁義之源維辨風辨鳳、英子英孫繁茂嘉瑞也、公適準於放鷹春遊次出、以欲窮民家衰盛之由、直巡軫于當境、時見寄貴駕於當社、見聞權現之來由、於公聞之後爲社領被寄附三十斛之地、畢、越到于君臣上下士庶人咸無不敬禮於佛神也、古云、河廣源大君明臣忠是之謂乎、信傳聞叩誌縁起之大槩者庶幾、俟來哲之正焉云。」

○當社棟札

○奉合祀熊野大權現實殿一字大檀那佐竹義隆公御家門吉利 子孫繁榮 具足神通力 廣修知方便 十方諸國土 無刹不現身 ○以智慧光 並昭一切 令離三途 得無上道  
夫丹悃淵志、竊以法之濟世、非神力而不行、神之播威、藉法緣而增旺也、是以此界他邦教庠蘭若皆置神廟、以祈皇風永扇、國家遐昌民物、康泰身宮萬安、誠非依神之冥助、爭得自陀之興隆、故上達公聞、下催民人齋營梵宮、畢、壽福增延、諸願成就、皆令滿足矣。

寛文二年五月八日

澁江内膳

○神主熊谷宮三郎。」

○祭事記二卷云、六月十五日熊野祭也、仙北、郡六郷驛に在り、神職熊谷氏、近里ことに尊崇と見ゆ。また前にも云ひつる事から、ふた、び此處にも云ひ、此六郷の熊野宮の由緒といふ一卷に、當社草創は大同二年丁亥六月十五日田村鷹建立、同再興文治三年九月九日武藏坊辨慶、建久三年壬子九月九日鎌倉右大將賴朝公、爲於義經辨慶供養三十二神安置于殿内、其使士宣家人也。

○雜座三十二神御神號 此みそまりふたはしらの神達は木の神形にてやありけむ、また画像にてやありけむ、其みがたびて傳らざるはをしき事也。

- 天香語山命 ○天細貴命 ○天兒屋根命 ○天櫛玉命 ○天道根命 ○天樞野命
- 天糠戸命 ○天明玉命 ○天背男命 ○天御陰命 ○天造女命 ○天斗麻根命
- 天斗女命 ○天金櫛彥命 ○天神魂命 ○天三降魂命 ○天日神命 ○八阪彥命



- 伊佐布命      ○天岐志保命      ○事湯彥命      ○八意思兼命      ○少彥根命      ○天太玉命
- 天林雲命      ○日神命      ○天神玉命      ○天世平命      ○活玉命      ○天湯津彥命
- 乳速日命      ○次下春命。

○神事月次社式如恒例      ○正月元日、式、注連除夜に是を曳はゆる、一五三  
清淨のみしめ繩といふなり五葉○讓葉○昆布○鹽玉餅○  
醴神酒こざけのみきの供御等也。御武運長久御壽齡延長、萬民繁榮五穀成就祈禱、奉幣祝詞秋如常例之社式也。○二  
月朔日、神酒、洗御供米○鎮火祭、定日なし○社日も同じ其日を祀る○祈年祭、令に仲春祈年、祭、義解に  
欲レ令歳災不レ作時令順度云々と見えたり。○三月三日龍舌草餅○桃花神酒。○も、の花咲や彌生のみか  
のはらうつのわたりも今盛りなり新撰  
六帖九、光俊卿。○四月八日、此日諸社に神酒する神祭也。そは大和、  
大峯の山口祭、芳野の藏王金剛祭に依れるか、また山城の水無瀬祭、皇都には山崎の天王祭、また浴佛龍  
華會なごのの參詣よりうつり來つらむものか。○五月五日神供○菰粽ちまきに○蓬○菖蒲を折リ副て献る也。  
此地がつけに蔘卷いふものものは、かの淺香の沼の花勝見の蔘也、此蔘卷もて七節結ななふゆふ社式なり。○六月朔日○  
胡瓜しきの葉を布しきて氷り餅ちを献る恒例、供御なり。また○同十五日恒例の社式供御○胡瓜○比呂咩こ、また醴  
酒さびを献るためしなり。しか六月一日に、一夜酒を帝に奉る舊例をおもひよれるか。年中行事の歌、前大  
納言。

幾千代も絶すそなへむみな月のけふの醴こざけも君がまに〜。

醴酒こざけ、ひとよざけ、みな世にいふ甜酒あまの事也。此日祭禮なれば、ことさらに神饌さはにとゝのへ  
献る也。六郡祭事記に委曲に見ゆ。○七月七日○神供恒例、神事、神酒また散齋恒例の社式也。○八月  
十五日○供御如常式○同社日献三五穀神酒等。○九月朔日より○潔齋○忌火○かくて六日まで獅子舞  
の神事あるなり、恒例のごとく十七ヶ村の村々枝郷までも打めぐりて、五穀成就村民安全を祈る也。同  
九日神供に献三醴酒並蘿蔔、また湯釜ゆたて神樂ありて、午刻ばかりに獅子頭をかゝり笛つゞみにはやしと  
よみて、本殿を巡り舞ふ事三度にして止ぬ。○十二月十五日神供○昆布○凝餅こじり、式長四寸位廣一寸二三分斗り  
厚五分斗にはやし調ふ也この凍餅二十枚を、國君大江戸、御旅行往來御安康、幸あらむ御祈禱の爲の守護札に副へて献る也。此夜  
神主の家例に、更よて雜煎おこに餅、辛菜を合てぞくふめる。○除夜○神酒、串梯○餅、御幣を奉る也。忌火社  
式恒例のごとし。新勅撰集に、

零雪ふるを空にぬさとして手酌たせつる春のさかひにとしのこゆれば。

○慶長年中國守、御上祖佐竹義宣朝臣當社に御參詣ありて、御社領として神田三拾斛を御寄附給ふと  
いへり。

○棟札、慶長九甲辰云々      爲神願御建立      造營奉行      富岡圖書

其時の棟札は萬治三庚子年の春の火災に、類焼うせたりといへり。  
○國君大江戸に御往復の御ときはかならず此神社に御參詣あり、献上は恒例のごとし。神主、御壽齡長



久延年を禱り奉る事なり。

○熊野三神 本殿の内に安置奉る此三柱の御神と申は、中に伊弉册尊、東は事解男、西、速玉男御相殿の内に鎮座り、そをもて熊野三所の御神とも、また三熊野の宮ともまをし奉る也。

○濱木縣神符 はまゆふ、此草此郷にあらねば萬年青をもて是に代る也。海川わたり或、旅行の横難を避け、疱瘡、麻疹、疫病を除き、もろくの病を輕らしむといへり。此御守札をいなきまつりて眞澄民くさの榮え守りて三熊野の浦のはまゆふ千重に茂らむ。

○末神八色雷公、靈社、齋國常立尊、神事五月五日也。神代のみふみに、時に道邊有、大桃樹、故伊弉諾尊隱、其樹下、因採、其實、以擲、雷等、皆退走矣、此用、桃避、鬼之縁也、時伊弉諾尊乃投、其杖、曰、自、此、以、還、雷不、敢來、是謂、岐神、此本號曰、來名、戸之祖神、云々と見えたり。ある御制に、

神代より誓約まさしき験には雷不敢來も、木のもど。

此社は、そのむかし霹靂祭りせし迹に建つるよしをいへり。

○神木の多茂の木、古木也。周回二丈五尺斗りむかし霹靂して、此木のなから今は朽たり

○社地東西六拾三間壹町二反一畝二十四步、南北五十八間一町二反一畝二十四步也。

○神主熊谷氏宅地内東西二十四間三反十二步、南北三十八間三反十二步也。

○末社赤城明神、天神堂村、赤木といふ地に座り、祭日九月十九日也。此神社の縁起、其村のそのみやご

ころのくだりにつばらかなり。

○熊谷氏家譜

○上祖熊谷宮二郎某也、宮三郎は累代の通稱也。萬治三年春の火災に類焼て古記録、古器、神寶等も傳らず、かゝれば歷世に詳かならざる也。また古老の傳に、宮三郎は五代斗り續きたらむかといへり。累代さだかならざれば和泉守矩定を二代とさだめつべしと、しかいへり。

○二代熊谷和泉守矩定 寛文二年官途、天和三年癸亥十月社家組頭役始て蒙り、元祿十一年寅のとしまで此御役相つとめ、同四月六日卒云々。

○三代熊谷周防守直楞 元祿十四年官途、社家組頭役を親和泉守に引續き仰をかゝふり、享和三年まで相つとむ。

○四代熊谷周防守直武 享保八年官途せり。また社家組頭御役を親周防守に引續き仰付られ、延享三年迄是をつとめたり。

○五代熊谷周防守直熙 明和八年官途法禮いたし候。

○六代熊谷正司直堅 文化二年官途法禮仕候。同四年社家組頭役を蒙り、毎春御年頭御禮之時、献上御稜守札、於、御座間、御見目如、例歳、大江戸御往復之節、於、途中、御見目仕事如、恒例也。君公御直參被爲遊候時は神主御先達仕候、また御直參なく御名代御社參も上におなじ。御直參之時は御祭料と



して金二百疋御献納あり、また御代參の時は御祭料として方金百疋御献納也。

○神前、御戸張、御簾等は寛文中御寄附の品にして、としふり破壊に及びたり。御紋の御神燈四張、御寄附の年號さだかならず。

○文化九年壬申七月天樹院公御自筆、額神殿に拘る、熊野堂三字、白字横額也。裡に御文御名を朱字に彫たり。

○神官熊谷氏所藏之品

「出羽國山本郡六郷熊野權現之祠官熊谷和泉守矩定恒例之神夏參勤之時可着風折烏帽子狩衣者神道裁許之狀如件

寛文<sub>亥</sub>年五月廿五日

神祇管領長上侍從卜部兼連

「一高三拾石<sub>六ッ成本田</sub>

熊野神領

熊野神主  
熊谷周防守

右者仙北郡六郷川内池村之内

正徳四年午八月 義格公御判

「六郷東根山之内風返り杉拾三本六郷熊野宮堂破損繕用所ニ別當和泉守剪取候事不可有異儀者也

寛文十二壬子

五月廿三日

宇右衛門判



「覺

一杉壹本 元廻五尺五寸長サ拾壹尋

一同五本 元廻貳尺五寸長サ六尋

右者六郷熊野宮社之杉風倒有之ニ付申受度由依訴詔被下候間余木之障無之様ニ別當和泉守剪取候事不可有異儀

天和元年

辛酉

極月廿六日

中川宮内判

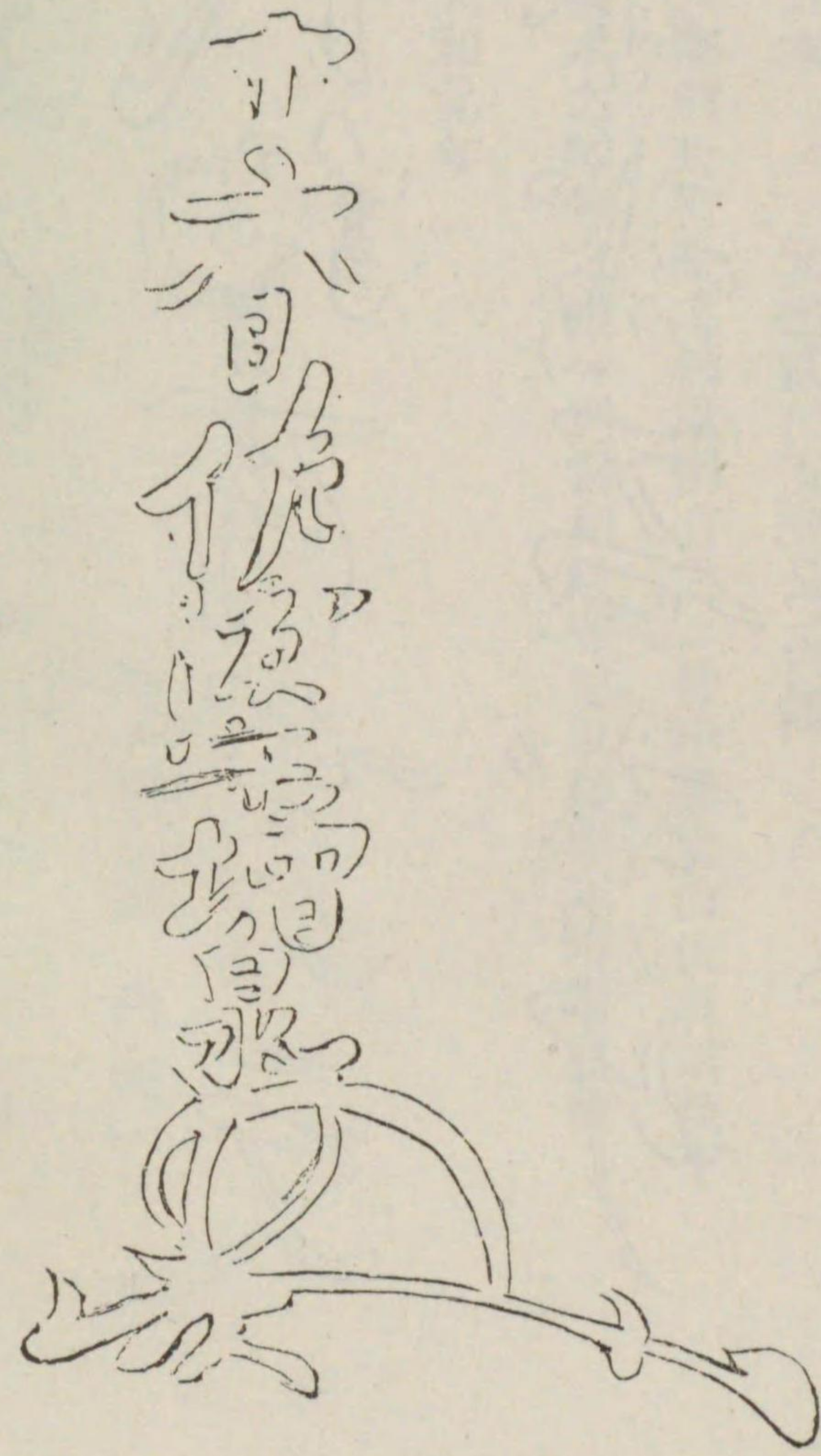
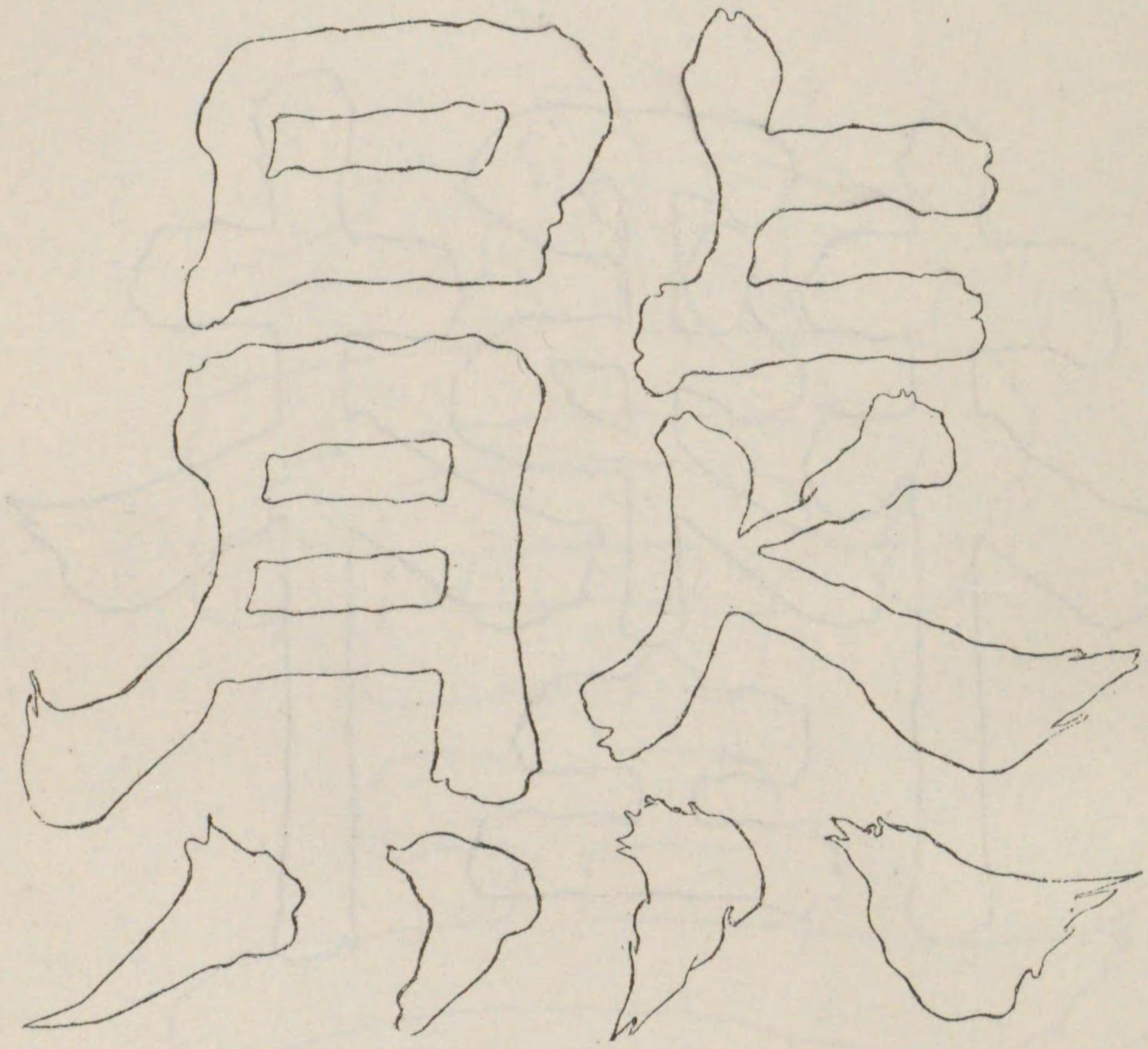
熊野御山三上申傳物

代物百貫文

米貳石貳斗

慶長五年子庚三月十六日







釋林

堂主



文化九年七月三日

侍從源義和

去冬年十月十日

同七年二月廿五日

以上各書一冊

一冊一冊發行



白起平處風流

美甜子押芳刀

一騰紀勢美 如送下山

白若新花舞

紅生四下如詩

今有信長

不問友



神皇正統記  
 今賀信長行高下信  
 少原母色非次中法  
 在公森道與馬ノ利

如勅  
 百是別家前之一人  
 討早并河家



美人あはれは老女  
海濱の道は新島  
川上親由は子孫  
竹嶋の了は燕押

高野の歌は方眼  
了の道は新島  
切を本責は竹嶋  
那は行は力後先



志和古馬以名川古馬川  
立之志古馬古馬川  
取之終古所古河古山  
古河古河古河古河古河

古一義古河古河古河  
古月古月古月古月古月  
古古古古古古古古古古  
古古古古古古古古古古



入下甲也押多因奉  
 音高始地生列音公  
 始身内也音權一音  
 行音音大音也音也

傳年物後及作伯音也  
 付大个音也音也音也  
 之七上入樂也音也音也  
 之知候音也音也音也



地、井入河九、  
切、  
左一、  
下、

、  
、  
、  
、  
、



尾列：「ニ友友法凡ニ名  
 居出 杖年 杖列 名  
 名 杖年 杖列 名  
 杖年 杖列 名

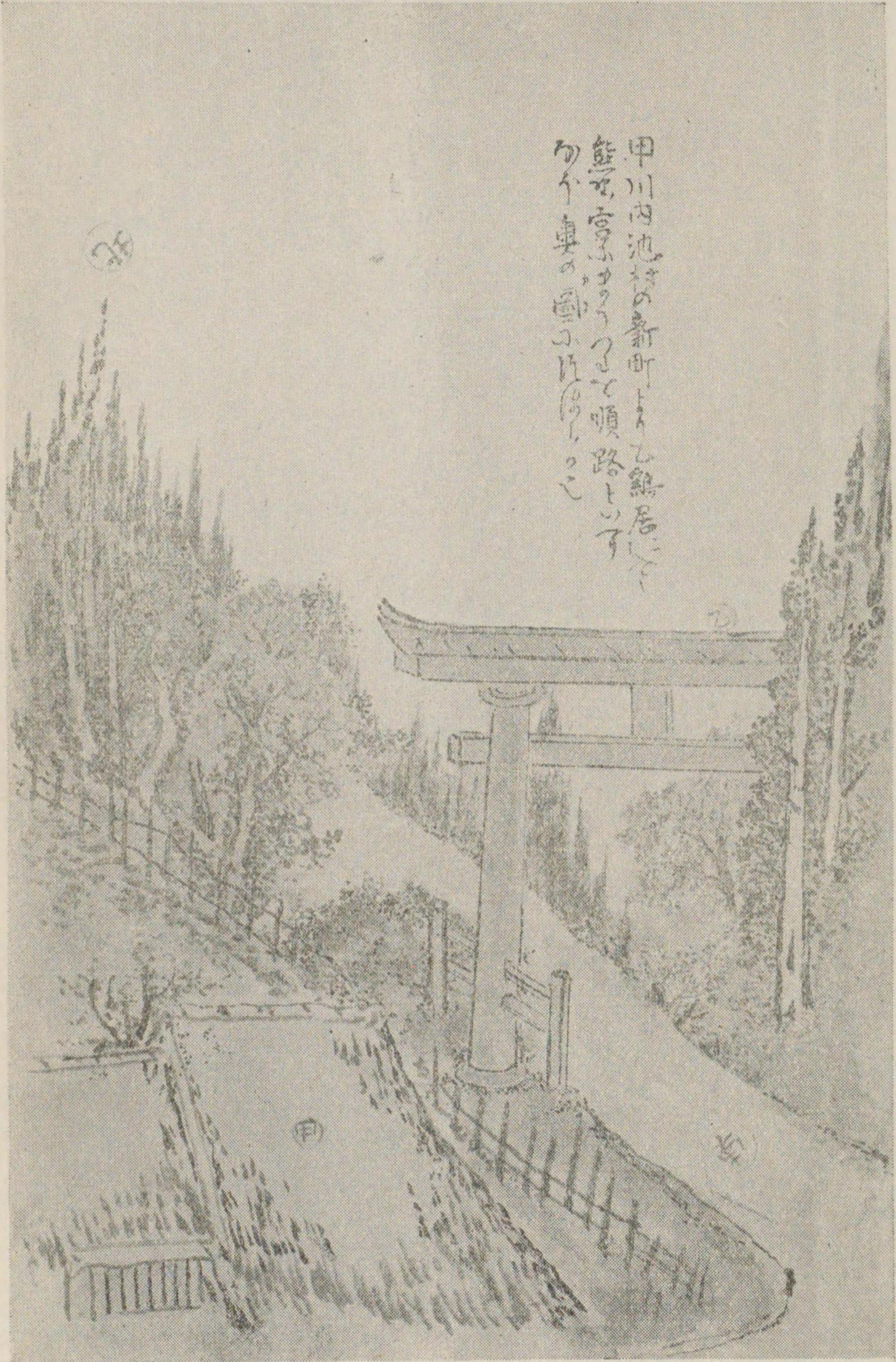
杖年 杖列 名  
 杖年 杖列 名  
 杖年 杖列 名  
 杖年 杖列 名



九月廿日

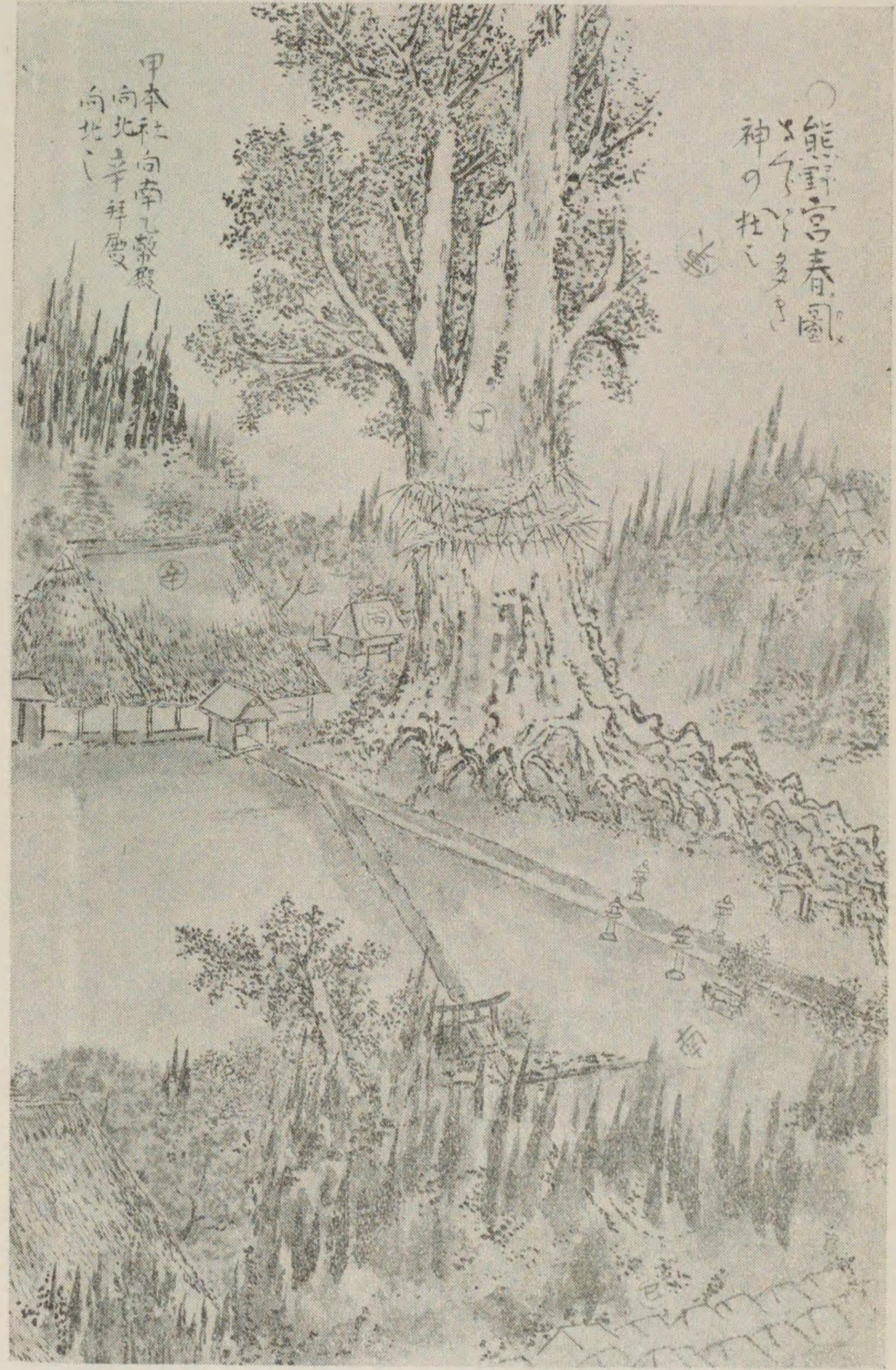
初日

秋田叢書  
本報



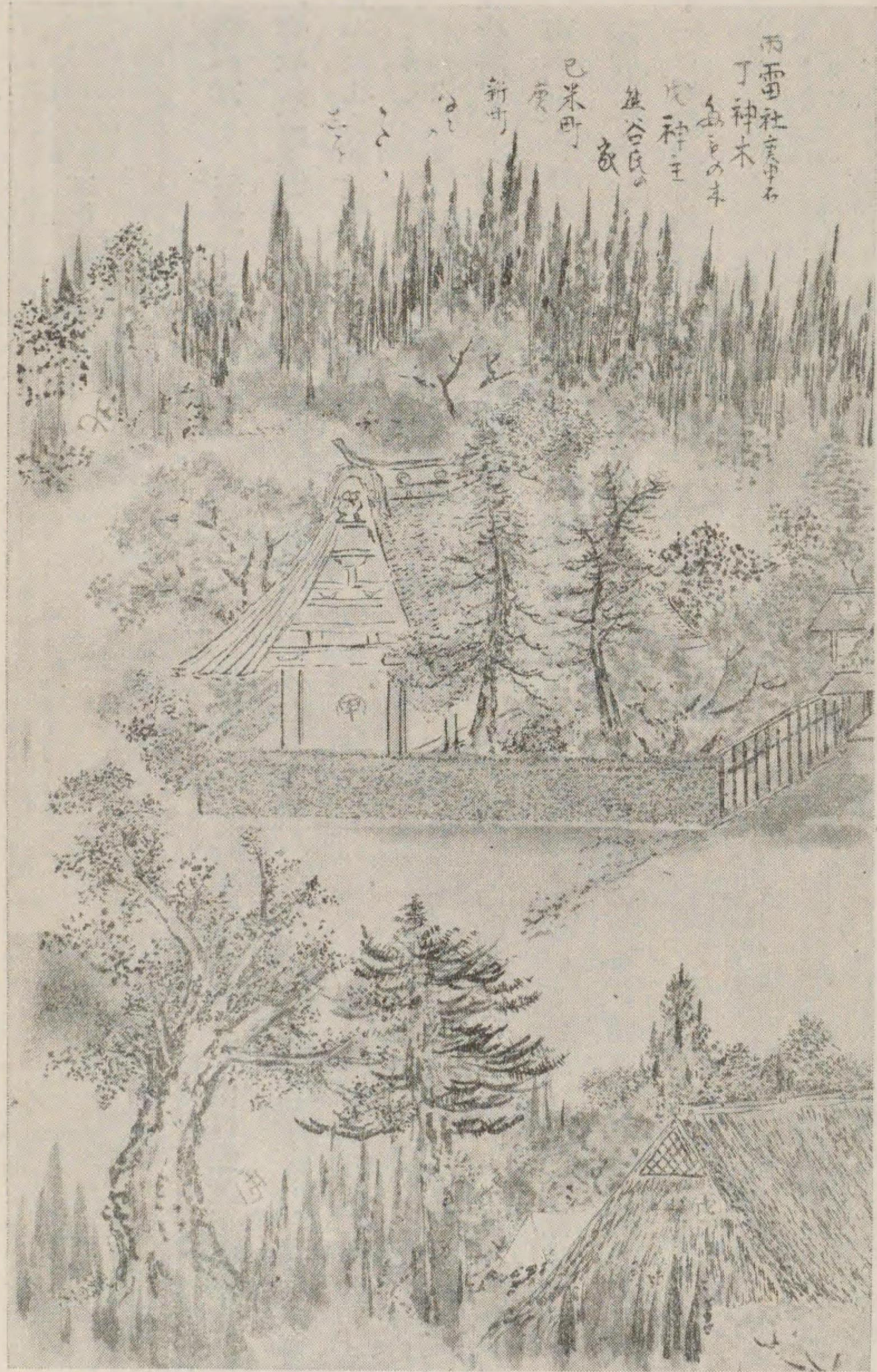
甲川内池村の新町より七郎居に  
 熊野宮までついで順路とす  
 勿令裏の圖より見ゆべし





熊野宮春園  
神の杜

甲本  
向社  
向北  
向社  
向北  
向社  
向北



雨雷社  
丁神木  
新町  
巴米町



玉串の葉のみまき

○神明宮

○神明宮 祭禮六月十六日

○神主 山口佐渡正藤原正敬

此御社は、明暦二年のころは永泉寺宗禪の近きわたり鎮座御神ながら、今の地に遷しまつれり。なほ慶安の棟札あり、此奥に擧る也。

○社例式 ○正月元旦未明天下泰平御武運長久萬民繁榮御祈禱、神前松竹饅頭神酒、神供、鳥居に注連

並松饅頭。○二日郷中御守札賦也○七日、元旦より御祈禱恒例の如し。○九日、此日市神祭市姫の御神を

也。市神、社を驛路傳馬役舎の前に置いて神供は總酒屋より献り、また餅などの腊さたけ、大豆、小豆は郷中より奉

り、制札の前にて湯立御神樂ありて此事終ぬれば、神主の家に肆まかの商人等集りて直會の式あるなり。○

十一日神供御祈禱御神樂恒例の如し○十五日神供御神酒、また璽玉たたまの餅を献り○十七日十八日、檀家よ

り日待、神事あり、恒例の如し。○毎月朔日十五日廿八日、神供祈禱恒例の如し。○五節句は恒例の如

し。○元三日、松、弓弦葉ゆづるは、神酒、餅○三月三日、桃神酒、草の餅○五月五日はちまきにあやめの神酒○七

月七日は梶の葉の神供、梶の葉の神酒○九月九日は菊の神酒也。○六月朔旦は氷餅の神供、神酒、神燈

○十一日潔齋、同日恒例の獅子頭舞の式○十五日齋夜いみ參詣多し、神供神酒等郷中より献る、酉の刻より



○慶安之棟札一枚

聖主天中天 迦陵頻伽聲

願以此功德 普及於一切

奉造之天照皇大神宮一字繁昌所

良慰衆生者 我等今敬禮

我等與衆生 皆共成佛道

慶安五社十月 羽州仙北山本郡

山宮三郎

二御



神樂御祈禱勤行。○十六日祭禮、卯の上刻より神樂御祈禱前日におなじ。午の刻御湯立神樂御祈禱、天下泰平國家安全五穀成就祝詞勤行祭禮式、守札産子の家に賦る、恒例のごとし。

○末社西ノ宮大神宮 祭禮十月二十日、神供は肴問屋より献るなり。○十二月晦日歳暮御祈禱勤行恒例の如しと見えたり。

○神官山口家系異代

○上祖山口宮三郎正治○二代伊勢守正則、元祿十五年六月六日吉田於御本所受領○三代播磨守正清、享保三年五月廿一日於御本所受領○四代大宮正包○五代豊後守正信、明和三年六月十七日於御本所受領○六代上總正正賀、寛政十年四月十六日於御本所受領○當時七代山口佐渡正藤原正敬也。文政十年丁亥五月廿五日於御本所受領云云と見ゆ。

○本社向南二間萱葺 ○二柱鶏居高九尺、口七尺也 ○社地拾間西南北は畠際、十四間東は小溝際也。

○神主屋鋪八間十二間御除地也。

まびえのわか葉

○日吉宮

○日吉山王權現社 そもく日吉宮は大山咋ノ神にして、祭神廿一社淡海ノ國叡山の鎮守也。むかし

文治のころ此地に遷しまつるよし、古き不動明王の背平そびらの方にしか記したるといへり。今は梅花山芳永寺といふ也、往昔、名だたる梅樹などやありけむかし。當社ノ祭日は四月八日也、社例かくの如し。また末社あり。○別當梅花山芳永寺修行院。

○末社稻荷明神社 別當並同。

○辨財天女ノ祠 齋主栗林七兵衛。

○修行院累世

○梅花山芳永寺修行院は日吉ノ社の別當たり、萬治年中當社回祿して古記録等さらに傳らず。草創は文治の頃古作の不動本尊の背裡に記したり。此寺は原は肆町内に在りしを、中古に熊野社の前なる地に遷し奉りし社也、記録焼亡して傳記傳らざる也。またかの尊像の裡に寛永元年法永坊と記したる也。

○中興開基權大僧都三僧祇宥長法印光明院、寛文十二年壬子六月六日遷化、壽六十二歳○二世同光照院、寶永六年化、壽六十歳○三世同狀法法印修行院、元文二年霜月六日化、壽五十四歳○四世同快辨法印修行院、寛政二年二月廿六日化、壽七十五歳○五世同慈雲、院同修行院、文化十一年八月七日化、壽七十五歳○六世同當代現住快幢法印修行院といへり。中興宥長より快幢まで連綿せり。

○畛地

○東西卅五間二反三畝十歩○南北廿間二反三畝拾歩也。



仙北郡  
高野神社  
下  
十六

○里の神垣のまき 下  
○諏訪神社

○此山北郡古名山本ノ郡也中淀川村に諏方社あり、こはそも古き社にして、三代實録に白磐神とともに見たり、そは其處に委曲に記たり。また大曲の驛に諏方社あり、また此六郷驛にも諏訪神二社あり、そを南諏方、西諏方といふ、信濃國の上ミ下セの諏方になからふ幕まにや。南諏方社は榊筑後といふ神官これに仕まつる、西諏方の社には齋藤兵部介これを守護奉れり、こは、水み蔦すい茹じゆる級きう埜のくに、鎮座御神を遷し齋いっく神社也。信濃の國の諏方はさらに本社も無て三輪山に同じ、さりけれど三拾間の廊下あり、それに三十九社の末社ませり。其神達と申奉るは、



- 政所大明神 ○前宮 ○楠井社 ○溝上社 ○藤嶋社 ○砥並社 ○大歳社
- 瀬大社 ○内御玉社 ○若御子社 ○荒玉社 ○玉尾社 ○鶏冠社 ○柏手社
- 千野河社 ○穗談社 ○酢藏社 ○習焼社 ○御座石社 ○御飯穀社 ○相本社
- 本宮社 ○大西御庵 ○山御庵 ○御佐久田 ○闕庵 ○八劔社 ○小坂鎮宮
- 鷲宮明神 ○達屋明神 ○酒室明神 ○下馬明神 ○御室明神 ○御賀摩明神 ○砥並山神社
- 義倉會美社 ○神殿中部屋 ○長廊社

以上一棟廊下の御側に鎮座也。○七不思議といふは○御渡みわた神かみ先さきともいふ。○八榮鈴○御作田○浮嶋○根入  
リ杉○御射山○湯口の清濁等也。○鵜湖うみの周回十一里、亘三里許、鯉、鮒、鱧魚、鰻すみぬ。

○倭漢三才圖會云々、上諏訪大明神在諏方郡、社領千石、祭神建御名方命又號健南方富命、大己貴命之御子也、○下諏方社並  
在同郡、社鎮五百石、祭神八坂入姫命。神官大祝神宮寺武井祝。諏訪神者特東征守護神、桓武天皇時坂上田  
村麿爲三東夷征伐願賽建社、毎年三月七日祭献鹿七十五頭云々と見えたり。さりけれど、七十五膳の  
祭は三月、酉の日にして、酉の日、月に三日あれば中の酉の日、二日あれば末の酉、日也。上の諏方社よ  
りは十六町歩、直會殿なほらひのならむ十間に作たる神舎あり、それにて此神事は有る也。また御射山祭は、み  
さやまといへる地にて神獵の式あり、並て初春の蛙狩の神事をはじめ、夏の神田うゑなごのいとく  
多かる神事也。また七とせに一度の御柱の神事あり、大祭也。筒粥の神事は平岡、筒子分つこわけ、猿投さな、石巻の

社にひとしう、下諏方、春宮にてぞ行れける。さまざまの式ひめぐとありて、えやは筆にも書盡すへ  
きものか。

春のみやしろ

○南諏訪神社

○神主 榊筑後正藤原矩武

○南諏訪大明神社、齋神八坂入姫命也、社式恒例、神事等は凡、西社、諏方にことなる事なし。南の家は  
旭ノ神子あさとて女祝子たりしが、近世ちかよに男神官とはなりぬ。

○上祖榊筑後守藤原正矩、元祿十四年四月十五日於吉田御本所受領○二代同若狭守恒矩、正徳五年五月  
二十二日於御本所受領○三代同友之丞矩知○四代同筑後正治矩、安永五年四月十六日於御本所受領○  
五代同肥後正矩定○六代當時神職榊筑後正、南諏方大明神、神主藤原矩武。

○天滿天神宮 祭禮六月廿五日、榊筑後。此御社は、神地ともに久保田、寶鏡院より此地にあづかり  
奉る神也。享保九年九月二十日取合の券あり、そは、いにしへ天正寺言の跡なればなるべし。  
○諏方の事はかぞふるにいとまあらじ、ふるくいひ傳ふ歌に、

かねてしも神のみそなへ耳割みみわりの鹿こそけふの贅えいとなるらめ。  
をばな葺穂屋むくほのめぐりの一むらにしばし里あり秋の御射山。



○當社草創遷宮棟札

天長地久

之御總御中

番匠

惣兵衛

言登

奉造之南諏訪前神社一室國最各全御武運長久所祈

諸民繁昌

時齋主熊谷和泉守  
禊官神至統敬白

禮

○元祿十<sup>戊</sup> 寅 四月廿一日 遷宮

○諏方と神の物語り

○南諏方とて有る地は、古、西諏訪、社の在りしに今の社を建て、しかいへる也。もと空地にして諏方のふるみやどころとは云ひしが、元祿十一年に旭の神子うつり住て、その男なる神官社を建て、是も同家のよしみなれば同、諏訪の神を齋きまつれば、同諏方、神社兩社ちか隣に並び鎮座ば、まぎれ安ければこなたを南諏方と呼びしかば、またかなたの舊社にも今は西といふ字をかゝふらせて、誰れもく南諏方西諏方といへれば、また上の諏方、下、諏訪に准らふやうに、聞しらぬ人は、さはおもふべかめれど、近き元祿の頃を始めに、いはゞ吾か家の下社家やうのみやつこを、由意もなうみだりに、みすゞ刈る科野の御社を慕奉たるが如に思ひ奉るは、いかゞ神慮をかしこみ、さは、まをすべき事は。さりながらまさしき神懸もあらば、それとは知りて上、諏訪とも下、諏方とも、南諏方とも西諏方とも、一口に人みな稱奉るごも、つみも、神のみたゝりもあらじかし。

ほやのみさやま

○西諏訪社

○神主 齋藤兵部介則庸

○西、諏訪大明神 祭神建御名方富彥命、大祭七月二十七日、御射山祭を兼たる祭禮也。諏方は既神也、馬柵に馬養家主祭るべし。保食、神は牛馬祖也、建南方、神は牧の祖の御神也、此兩神は馬舎に祭る



べき御神也。また諏方は鎮風の神にし座ませば、信濃國には風祭花鎮しづめして、稻田の豊にのぼらむ事を祈る。しな野なる木曾路の櫻咲にけり風のほふりにすきまあらずな、とよめるも、風しはめの意なるべし。そもく當社は六郷兵庫頭正乗の上祖より齋奉りし御神にして、今は此六郷の總鎮守の御社なり。一社の恒例神式、深秘いと多し。

○正月元日八針行事。神前において秋修行の時、八脚の案上案下に献る八針の豊幣をしかいへり、なほ禁辭秘ある事也。○神殿の御扉丑の刻に開深秘の神式あり、十二の神燈を挑た奉る也、未の刻にいたりて神戸閉ぬ。なほ社式あり○拜殿献備、御饗には松、竹、神酒、弓弦葉、燈明○鶏栖、注連三組繩、また左右柱に松竹をゆひ副ふる也。○三日、産子の家々に此日守札を賦る、例歳の式也。○七日、七草を献る。元三日より今日に至るまで神酒、鏡餅をささげ八針の行事あり。○八日、郷中五穀成就の守札を賦る。此日神饌下がる。○此日社例神式多し○拜殿饗式、松竹に墮玉の餅を柳の絲にさし貫きて奉り、また神供、神燈、御供米、元三日にひとし。此夕ぐれつかた此社の門前において、門松注連など、年の饗をしりくへ繩もてゆひつかねて、是に清火をかける。男童ども天筆書たる長篙の紙幡を焼とて、此竿もてあまたと打あふ、これをかまくらやきといふ。皇都あたりにて吉書あぐるといひ、三毬打さんぎゅううち、みそ爆竹みそなげにひとし、なほ此事奥に在り。○十七日十八日、産子月待せり。○二十日御供下。○廿六日宮籠。正五九月いづらも、廿六日産子等參詣ありて神酒頂戴通夜せり、豊明に似たり。○廿七日當社の縁日といへ

り、御饌、神酒、神燈を挑ぐ。○廿八日、廿七日に同じ。月々の式も今日の如し。

○節句。三月三日草、菱形餅、神酒、神燈を献り○五月五日粽、菖蒲○七月七日神酒、神燈○九月九日菊神酒、神燈を奉る也。

○二月朔日本社御扉開、神事、酒燈を献る。此日産子、ものごも年賀ある家より神酒、神燈を進献す。○同月社日には例歳、神事並に鎮火祭の神事、宮殿御扉開の神事、神供、神酒、神燈をささぐる。五穀成就民村安全、前夜より是を勤行。また當所寄郷村々に守札を賦る、並鎮火祭祈禱の御幣を産子の町々に賦る。此日里正、長百姓參詣して神酒頂戴。○初午、日○末社、稻荷社式神事恒例のごとし。

○三月某日。御國守大江戸御往來御安祥、御武運長久の御祈禱恒例のごとし。

○四月。由理郡本庄六郷城主より年々御代參、御齋料、御家老より書翰あり、御返事奉る。

○六月某日昆蟲萩の行事、本社御扉開、神事社式あり。此日里正、長百姓參詣して神酒頂戴あり、また郷中に虫札賦り恒例のごとし。○十日稻荷社○熱田社の御神事あり。此兩社は六郷兵庫頭古城跡に鎮座あり、祭祀異なる事なし。○十五日末社祇園、社御神事、祭祀、外にことなることなし。

○七月朔日。鳥居に注連、三組繩、二柱に青葦と鎌とを結び添ふ。來廿七日は祭禮也、此日より清火たり。○廿一日、此旦より潔齋忌火行事例歳恒例式あり、産子町々に舞獅子あり。同廿六日、此日より廿七日祭日。○神殿御戸開の神事十二、神燈を挑た奉る、御饌は甜菜、辛菜、鱈廣物、鱈の狭物、奥津藻菜、邊津



藻菜にいたるまでみちならべ、もゝごりの机にこれを献る也。神酒は總酒造家、御饌神燈は産子中、また玄關の左右の柱に鯉節つらね掛、鯉のほじしなど掛る、此御饗は魚肆の人とら是を献る。また鰐口の鐸の鈴帶に和布を垂て備ふ、こは信濃の諏方の酉の日の祭にや、似たり。○酉の刻の御神樂、御祈禱一座あり、産子參詣群集せり。諸願成就の家よりは復祭のものにて木の鎌を奉る事也、こは御射山祭に穗屋作る尾花苜るてふ、そのためしにや。○廿七日寅の下刻、清祓の神人兩人町々を巡る、卯、中刻、辰、上刻神輿御神幸あり。此行列式等はみな祭禮式の画圖に委曲なれば、此處には省略ぬ。

○八月某日當社御神事御祈禱、献上、品あり。格年本庄へ罷出逗留中御賄被下、御領内往來人馬被貸下置、外にさまゝ御取扱方御座候也。○十三日松尾、社御神事。總酒造家於神前神文誓紙あり、神供は時の菓物を献る、また神酒頂戴ある恒例のごとし。考に、酒造祖神といへるは酒解ノ神也大山神酒解ノ子、神は神吾田鹿葦津姫また木花開邪比咩とまをす、神代卷云、「吾田鹿葦津姫、卜定田を以て號て狭名田といふ、其田の稻を以て、天甜酒を醸てこれを嘗す。」と見ゆ。○あるふみに、豊宇賀能賣神太田命、傳記云、伊弉諾伊弉册尊所生和久産巢日神兒豊宇賀能賣神月天より降、座、善酒を醸云々。又、丹波國與謝郡沼山、實に井あり、其名を麻那井ト號く。其處に座る神は則竹野郡奈具社是也。故豊宇賀能賣靈石にて座也、亦酒造天之み一、大神の靈器也、以て敬拜祭也。古語曰、吉祥甕の腹に甘露の酒を満て名を神酒といへり、三節祭に献る也。今酒肆の輩、松尾古名松生なり神社を酒の守護御神といふはいかなるよしにや。酒解の神子は梅、宮

の神に座り、こは酒造家の衆人等、梅、宮と松生、神とを、おもひあやまりまつり奉るものにこそあらめ。○十二月廿七日年越の神事、如恒例、献神供神酒等。同大晦日歳暮祈禱定例の神式あり。

○當社の禁物 ○玉蜀黍○鶏卵○鮫魚。此三品は、なにゝよりてしか忌み給ふといふ事、さたかには知れる人なしといへり。

○本館八幡宮 祭事八月十五日○神主齋藤兵部介。  
○河内池白山宮 祭事五月朔日○齋主並同神官。

此二社古來より神主として、祭事祭禮これをつとむるなり。  
○臨時の神事祈禱 ○鎮風祭○祈雨○厄神祭。此神事等は、一社深秘社式ありて、他社とことなる事多しといへり。其外は恒例の式なり、いとゝ慎て是を行ふ事なるべし。恐みかしこみ、なほまた散齋、致齋、格式のごとに六色の禁法をよく守て、一心不亂にもろゝの神事にしたがふべき事にこそ。

○西、諏訪、縁起

○原北道裡羽州山乏山本郡六郷諏訪宮社草創之古其年月闕也傳云賊鋒強盛日增暴慢依之出羽國守藤原朝臣與胤飛驒奏之有勅符大野朝臣春光下向於當國更賊不曾恐故營堂宇祈加護征伐賊徒賊伏其罪矣春光飯而報之有叙目明神授賜從五位下到于文治年中源賴朝公追討陸奥出羽兩國押領使秀衡（やま）雖然秋田居住之親屬依無乞降者小治郎行光蒙嚴命從善千鳥口參着於當境開明神靈而告於公加修造恭敬之又至德年中二



階堂三郎左衛門尉道晴召供土岐佐々木下向於當國道晴公常皈依於三寶崇敬神祇故經營宮社而祈武運延  
 長子葉繁榮所至信心無不得神恩於是庶人水旱祈之疫厄禱之道晴公後胤道行公一子兵庫頭政乘公倍盡恭  
 敬加修造增神領欲出軍則詣宮殿成祈誓出陣因茲近者視之日々詣遠者聞之月々來謁政乘公領於常州府中  
 以來無修造之功殿堂門蕪欲及敗壞慶長年中佐竹義宣公遷封於此國其父君義重公閑居於政乘公古城命於  
 田中越中守有社堂造立義宣公爲視民家盛衰稱四序田遊緩步村園山野之序參詣當社而問由來祝子不遂謁  
 見以故社頭放失併所神明照聞先規之由緒有寄貳拾石於當社者也 寬永二年丑五月云々と見ゆ。  
 ○鎌清山諏訪大明神 山本郡建久三年七月二十七日と見えたり 古筆也。

○棟札

○願以此功德

聖主天中天 加陵頻伽聲

○富岡圖書頭

○普及於一切

○卅合奉加造六郷内諏訪大明神一字

○田中越中守

○我等與衆生

○我等今敬禮

○別當祝子

○皆共成佛道

慶長九甲辰東之五月吉日

此レ原本の如し。東之といへる事か、また末之五月と、閏月をことはれるか、しらざる也。

○諏訪社神官累代家譜

○「文政五年<sup>壬午</sup>歴代並由緒書上御記録所より被仰付書上候左之通御座候」云と見ゆ。○古歴代  
 ○經基親王より十五代末孫貞宗<sup>信州守護職也</sup>其三男を宗治といふ、至徳年中當國に下向す。宗治の長子則慶神  
 職と成る云。古系譜に見えたりしをうかゞひ書上候處、御障も無之條被仰下され候。○則慶○則保○宗  
 賀○則隆○則惠○則清○則古○則全○則道、此九代年月不詳といへり。當家は古へ諏訪氏にして諏方、  
 祝子某といふ記ごも多し、ゆゑありて今は齋藤氏たり。  
 ○中興の祖は諏方祝子○則康也、妻は守屋左京娘也、左京妻は二階堂道行公、妹也。慶長六年霜月二日  
 卒。

○二代則房 祝子。慶長七年九月某日國君義重公御不例御平愈付爲御歡御上下一具拜領、元和三丁  
 年六郷兵庫頭政乘朝臣於由理郡本庄二万石を領す<sup>永慶軍記には元和九年と見ゆ</sup>。尾崎城にて則房に一刀、御時服一重を賜  
 ふ。寬永四年丁卯二月十八日卒。

○三代則光 寬文三年七月十七日卒。

○四代則行 貞享五年六月二日卒。

○五代則重 宮太郎、此代諏方姓を改て齋藤氏と成る。元祿三年吉田御本所にて受領、行事御相傳あ



りて齋藤日向守と號す。

○六代則定 祝子。元祿十四年三月於吉田御殿受領信濃守と號せり、享保十六年社人組頭役を蒙る。同十九年七月朔日卒。

○七代則方 祝子、享保二十年九月社家組頭役引繼を蒙る。元文三年三月廿一日卒。

○八代則興 市之進。寛延二年五月社人組頭役を蒙る、明和二年七月於吉田御殿受領號備前守と。

安永三年三月十四日卒。

○九代則因 民部。天明二年爲三神領高拾石於仙北郡金澤前鄉村一拜領、安永五年四月於吉田御本所受領、行事相傳一日法令號信濃正也。

○十代則庸 兵部介、當時神職也。文化五年四月六郷佐渡守政泰公より御長上一具拜領す、同六年四月於吉田御本所受領、行事相傳一日法令號齋藤兵部介一代々連綿たり。なほ由緒いとく多かれと省ぬ。

○文化五年の冬霜月のころほひ、蝦夷地宗谷詰の會津の勢飯陣の時、勇士二人二夜齋藤の家に止宿ありて、當社奉納の和歌二首あり。

陸奥會津家中 有泉大學藤原勝尹

ものふりてそごろにすぎき神垣やかたじけなさのかきりなるらむ。

同國同家中 飯沼右兵衛 一旭

君が代の末永かれとひとすちにかけてそ祈る杜のしめなは。

○近世寄附の神具

○石燈籠二口 米町京野五郎八寄進。寛政元年六月、高八尺、燈明料年々三百孔。

○石燈籠一口 馬町岡田和兵衛寄進。寛政二年六月、高六尺、燈明料年々百孔。

○御神燈二張 御代參守屋左衛門 瀧澤 壽樂。寛政二年六月日、六郷佐渡守藤原政泰公。

○石燈籠二口 馬町寺田喜四郎寄進。寛政二年七月、高五尺五寸、燈明料金百匹。

○鰐口 鐸 五十嵐大炊之介、寛政三年菊月日。此鰐口本庄より此社に寄附ありしが、越後國魚沼ノ社の神寶なるよしをもて、返しくれ候由神主再三の願により、氏子相談に

及び返したるよしを記せり。

○石燈籠二口 米町小西長之助。寛政四年七月、高五尺、燈明料五百孔。○鍵一柄。

○御繪馬 義家朝臣名古曾の關の櫻、画「寛政五丑九月藤原姓六郷政泰」。六郷佐渡守藤原政泰公、

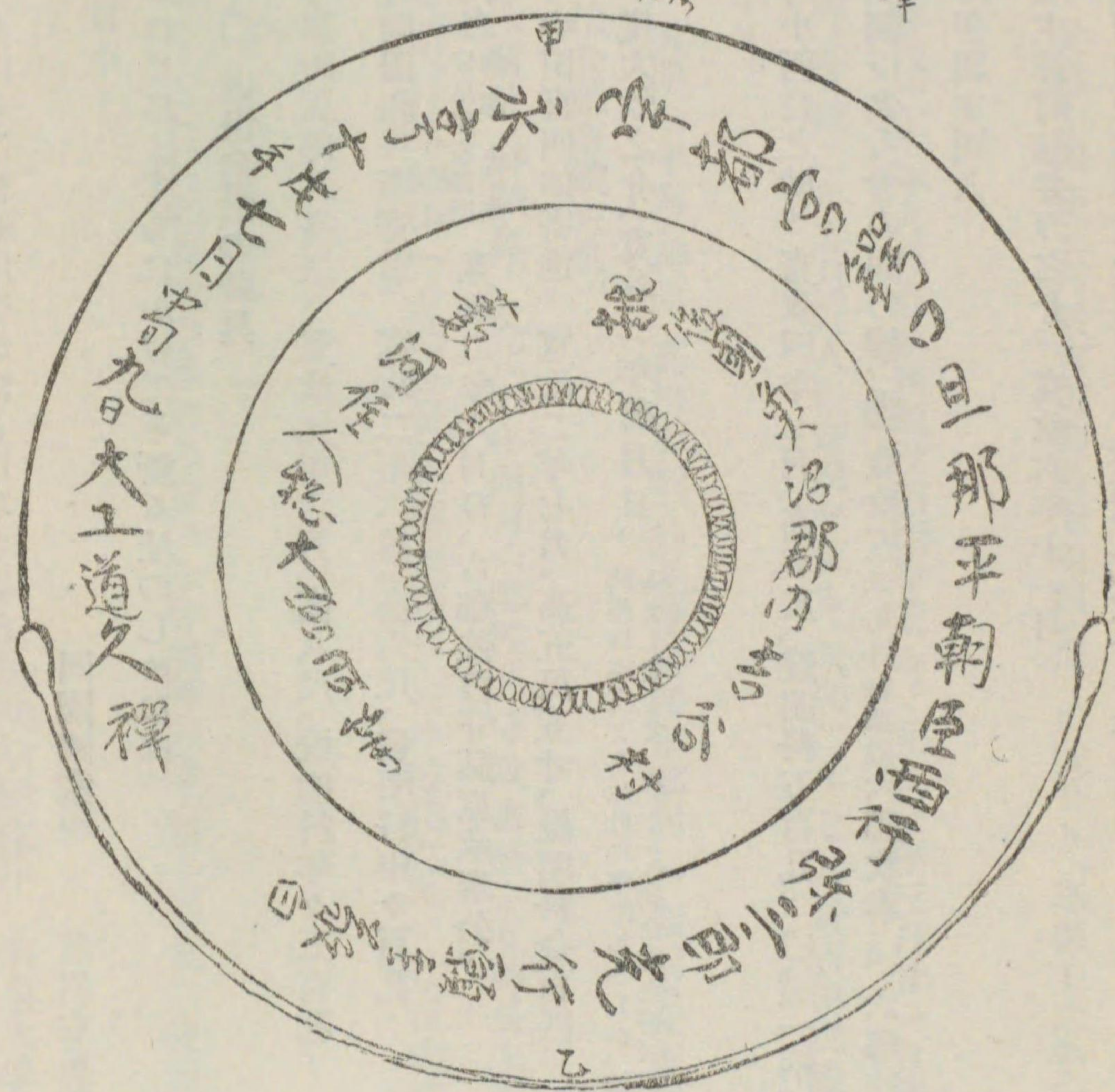
御代參瀧澤七郎。○鈴帶願主同人。

○玉鈴 下帶 並願主浦町福井万之介。寛政六年十一月。

○御神燈二張 佐竹河内源義躬、代參齋藤忠兵衛。寛政十一年七月。



紫銅鑄の鐸  
甲乙の二口  
一尺一寸  
地鑄口、後國  
貞治郡上、但表考  
魚沼、存の神寶  
成し、存の神寶



○御神燈二張

戸村十太夫源義通、代參松野小内藏。寛政十一年七月。

○金幣二串

本道町畑山久左衛門。寛政十一年十一月、高三尺五寸。

○石燈籠

馬町湯川清四郎。寛政十二年四月、高八尺。

○幕一張

六郷三个村寄附之。寛政十二年七月。中は當社、御紋、左右は本庄、御紋也。

○嗽大石盤

馬町湯川清四郎。寛政十三年二月十六日以東根大石二制之、運送人歩五十餘人。

○龜甲額

大龜の背に「鎌清山」と刻りたり。米町栗林八兵衛、寛政十三年三月。

○御神燈二十張

總氏子中 世話役 越後屋藤五郎。寛政十三年七月、年々蠟燭二十挺寄附之。

○御神燈一張

米町竹邑治左衛門。寛政十三年七月、燈明料五貫緡。

○社地出入口小石橋

石材上品也。馬町和兵衛。文化元年八月。

○郷中氏子等、諏訪の御神庫に奉納の書典左のくたりのごとし。

○延喜式 五十卷

○三代實錄 廿卷

○古事記傳 二十三卷

○舊事記 六卷

○古事記 三卷

○古語拾遺 四卷

○さき竹の辨 一卷

○うひ山ふみ 一卷

○玉銚百首 二卷

○都城辨々 一卷

○國號考 一卷

○かなづかひ 一卷

○玉くしげ 一卷

○ひもかぢみ 一卷

○地名字音 一卷



文化元年五月

願主六郷中

○高野村肝煎 湯川清四郎

○川内池村肝煎 京野與市郎

○本館村肝煎 辻 新太郎

○同 条 理三郎

○御簇二流 本道町佐々木久藏。文化二年七月、簇竿二本。

○御繪馬二枚 十村十太夫源義通、代參佐藤忠助。文化三年七月廿六日。

○隸書横匾 箱入「與民爲福」十村十太夫源義通。

○今上皇帝御調度、御流し數品寄附

本道町 佐藤 達 玄

○御扇子青地紙片張、一本 ○御茶碗、九 ○御蓋、一 ○御皿、十二 ○御箸、三

○御三寶、三 ○御壘表、一 ○御めふと、一足。

二重臺

官女二ノ采女於阿茶どのと申が拜領の品の内、當郷六郷の醫師佐藤達玄、在京の時ゆくりなう得たる御調度也。やをら國に歸りて家に珍藏けるほどに、重き疫して此御神にねきことして病の愈れば、報祭のとき贖の料に是を獻りしといへり。御膳獻立といふふりものも副へ贈りけるといへり。凡はその陶の圖にて知るべし。

○御神鏡一面 願主 上町佐々木彦太郎 馬町山本吉之介 文化十四年七月、巨鏡面一尺二寸。

○玉鈴一口、緒 並寄附馬町小西甚八。文化十四年十二月。

○年々玄米五俵、永代寄附 栗林與藤治。文政五年壬午十二月。追々田地にて寄附可申條申參候。

○玉鈴三口、緒 並寄附也、米町竹村慶藏。文政六年癸未八月。

○洪 鐘 百二十貫零。栗林與藤治祖母。文政八年酉九月寄附也。

なほ人とのいとく多かる神寶寄附の品あり、凡をしるして餘はもらしつ。



○六郷兵庫頭道來後改政來の書翰一通莫年之

家  
鳴  
延  
山  
尾  
島

店  
舟  
不  
解  
記  
山

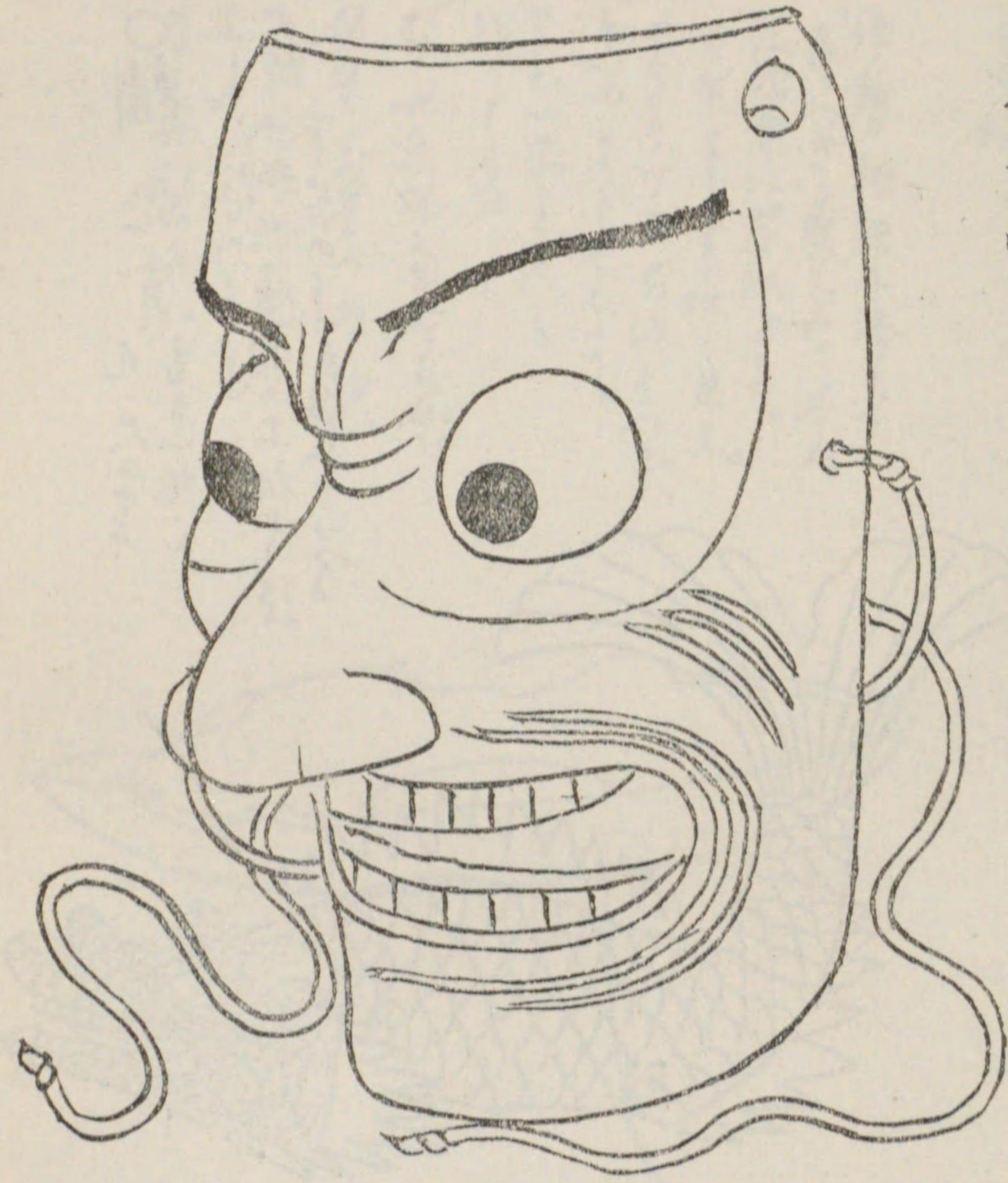
河  
式  
名  
香  
播  
下

道  
英  
次  
入  
念  
遊  
入

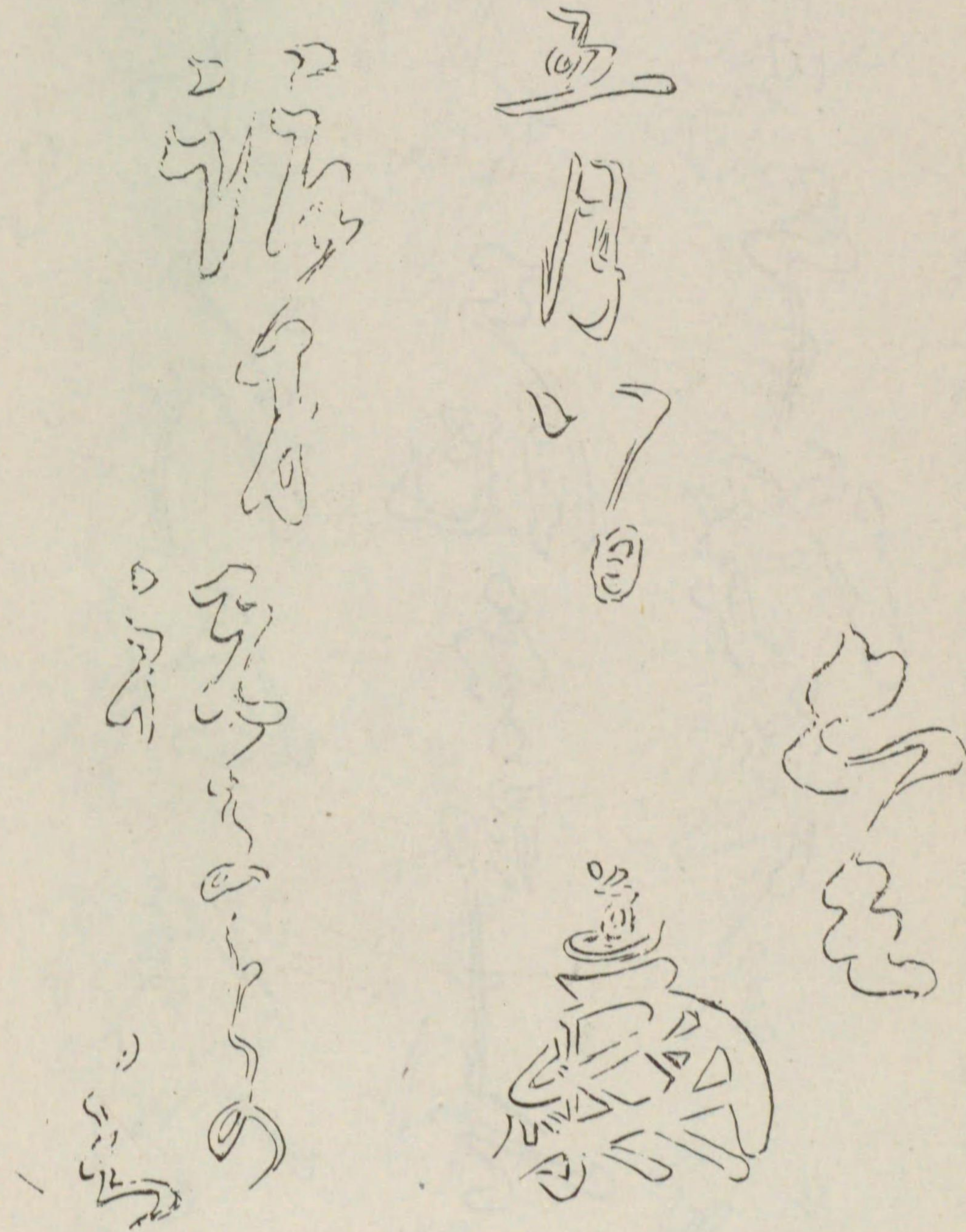
春  
花  
子  
肥  
子  
脚  
尾

中  
好  
平  
馬  
尾  
尾





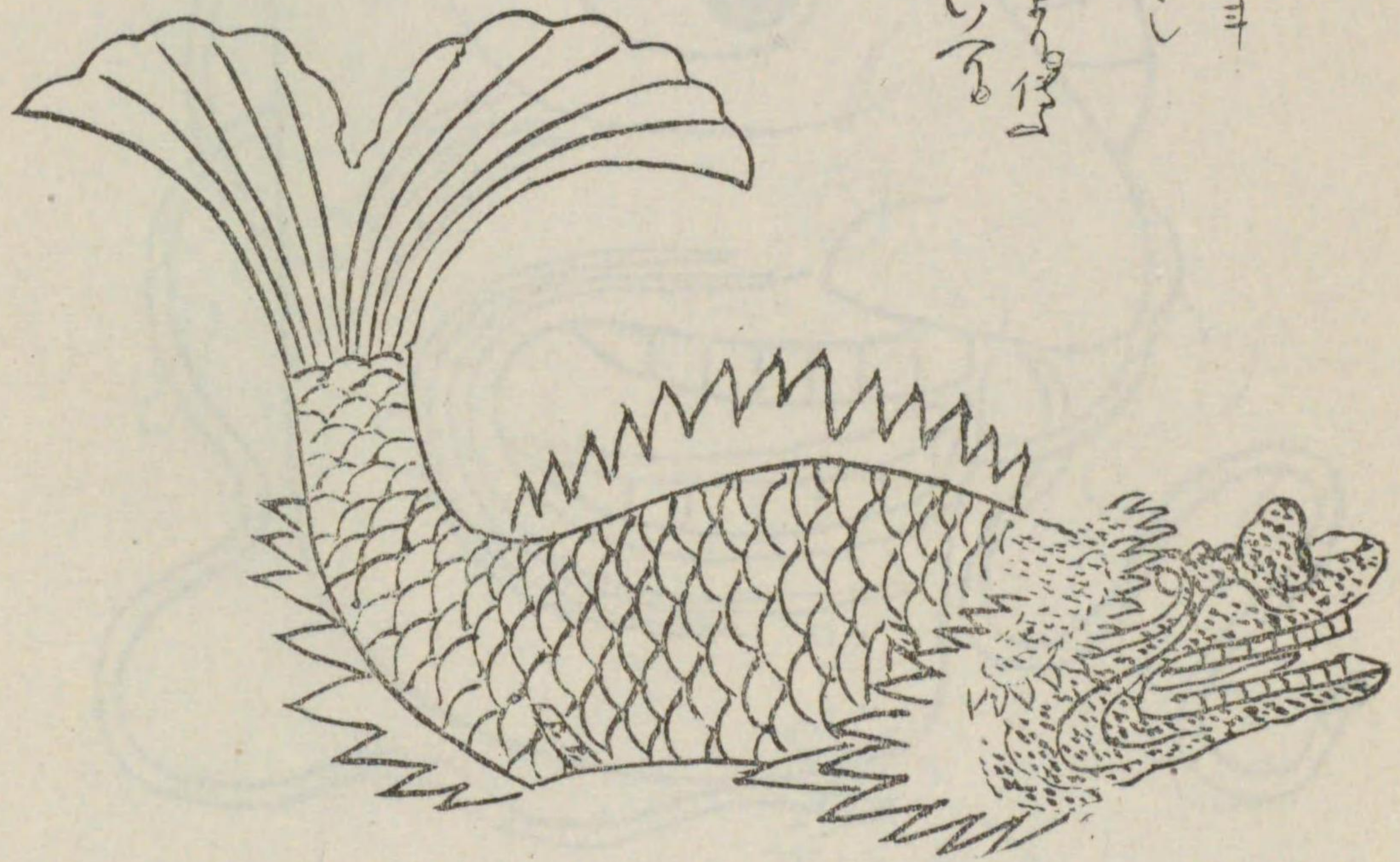
○王儼古面





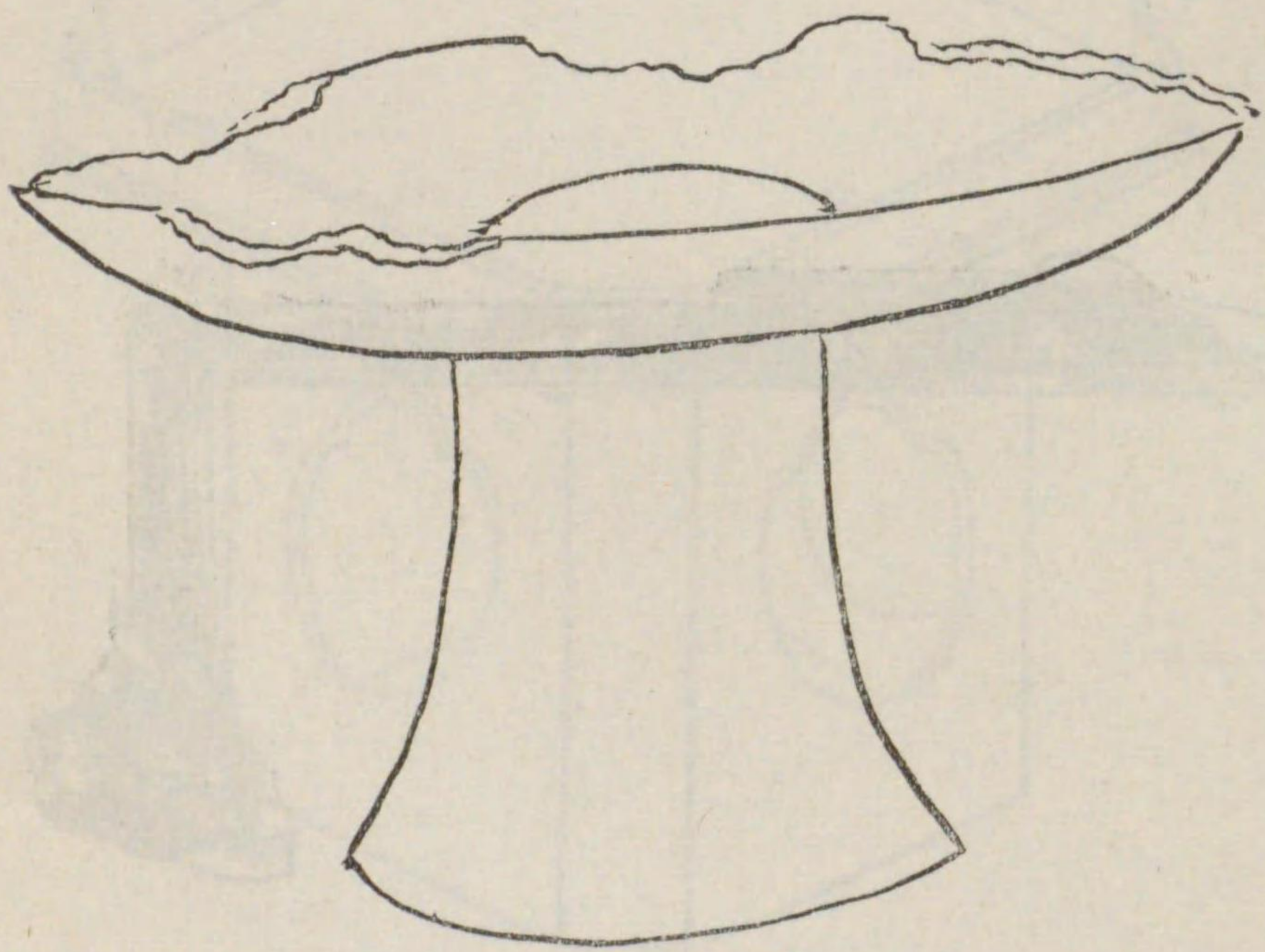
○鱗兜盾。凡二尺五寸斗  
金色地し

六御兵庫頭の上祖より傳  
軍器のくまひ傳ふと云ふ



○高杯 あらうけり

傳執り物語小海老と  
あつてきし高杯のりよる  
江波中にあつ杯のりよる  
万葉集未だ高杯と見え  
まきとけのつらのまき  
といふものも見えたり。  
今も。此器と云ふく  
残りてんぬ  
むつ高杯は。此器と云ふ  
國守 義重云。めい給に  
中請度ありし。今も  
あつて。あつて。あつて  
さ。此器と云ふ





○<sup>シ</sup>くみ。

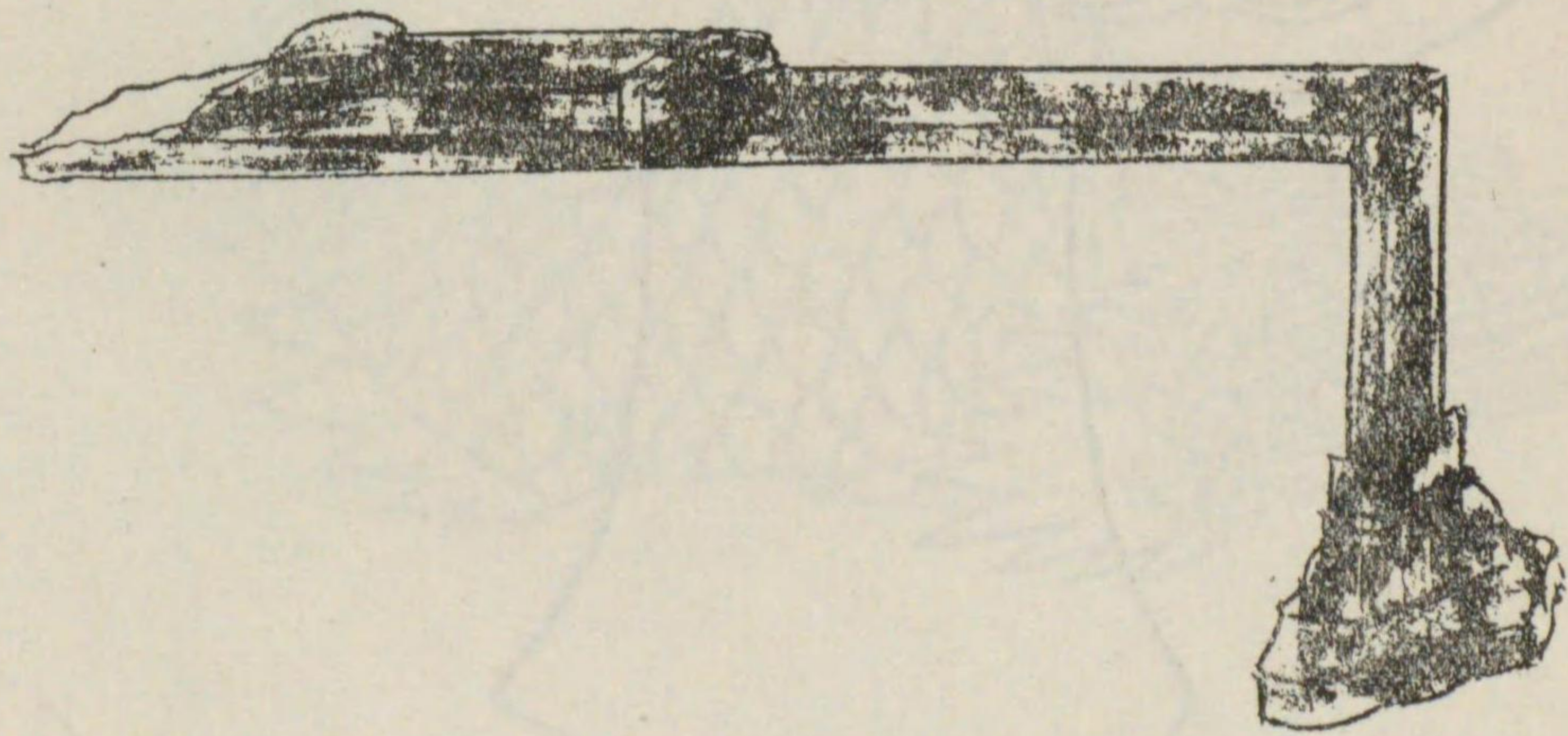
長柄の木銚子

こがれくも。

その世の

見ゆ

足

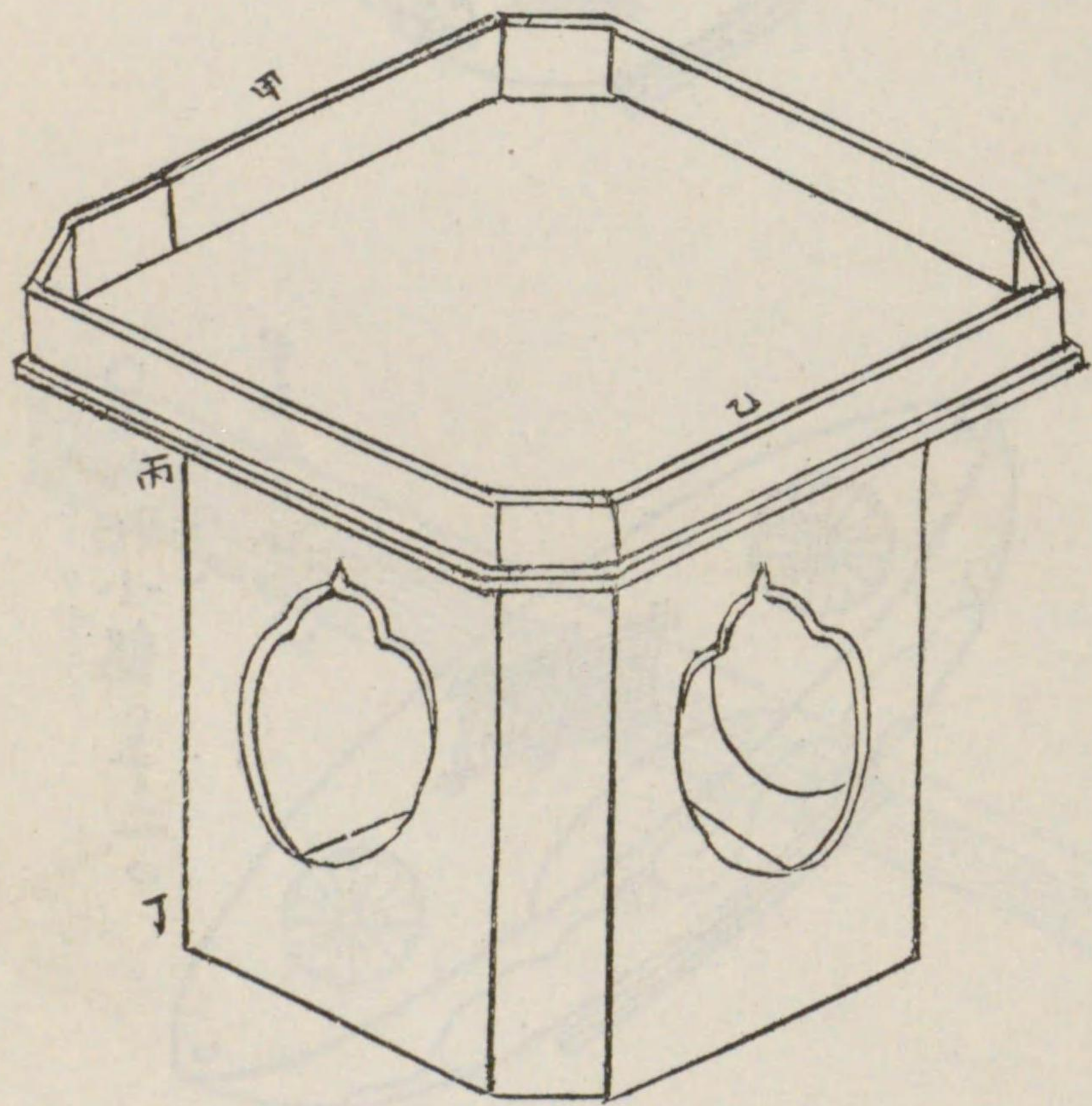


○<sup>ス</sup>至上御下<sup>ス</sup>重具<sup>ス</sup>凡<sup>ス</sup>陶器<sup>ス</sup>

○<sup>ツ</sup>衝<sup>ツ</sup>重<sup>ツ</sup>御<sup>ツ</sup>三<sup>ツ</sup>方<sup>ツ</sup>三<sup>ツ</sup>組

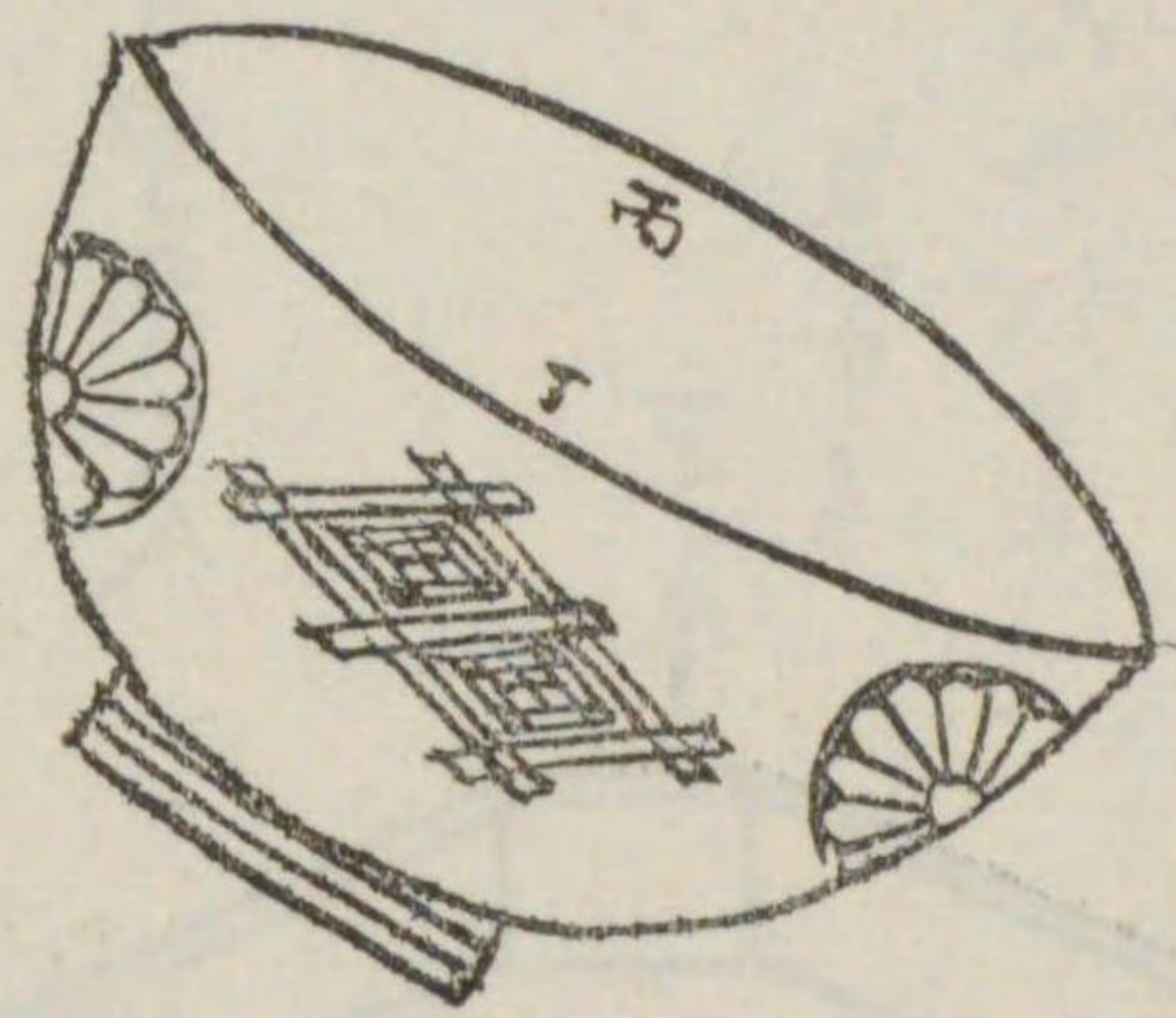
ろちをぬきとこくま

名<sup>ツ</sup>い<sup>ツ</sup>つ<sup>ツ</sup>



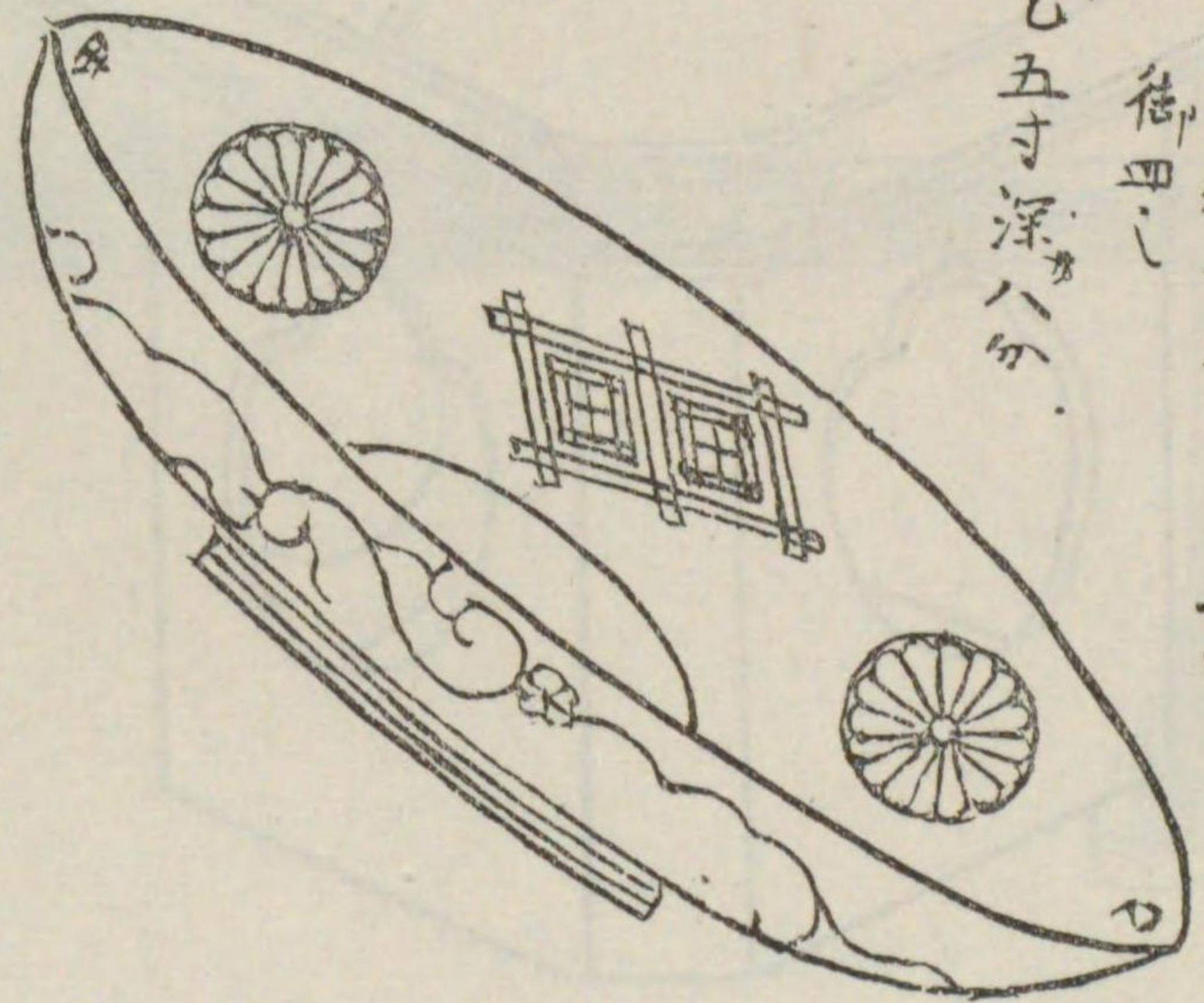


○飯鏡。九口  
御茶碗  
深 丙丁二寸五分



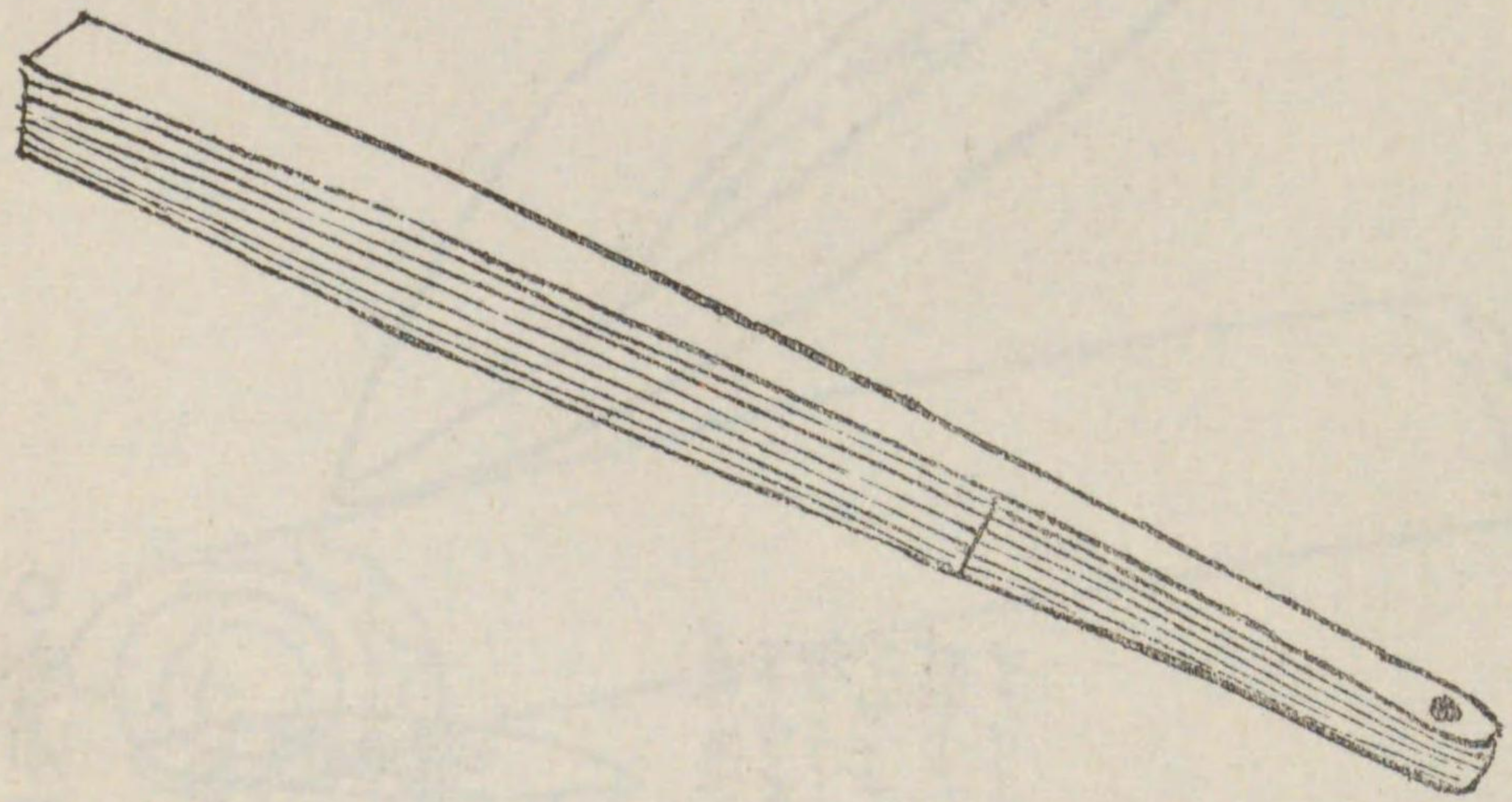
○延喜式  
銀飯鏡  
水鏡  
尺也

○由加物小盤。十二口  
甲乙五寸深八分



○同書。凡應供神御雜器者  
神話曰  
由加物  
尺也

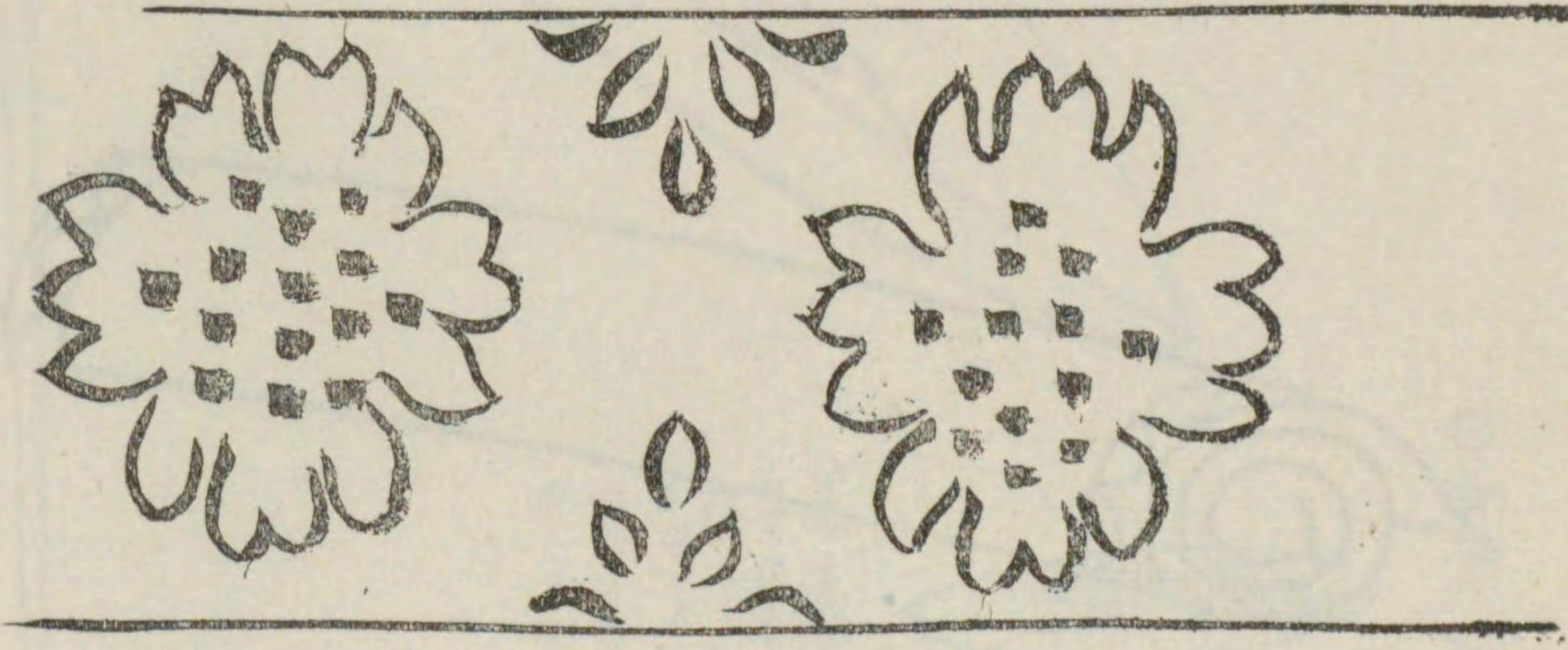
○御扇子青地紙片張  
長八寸九分





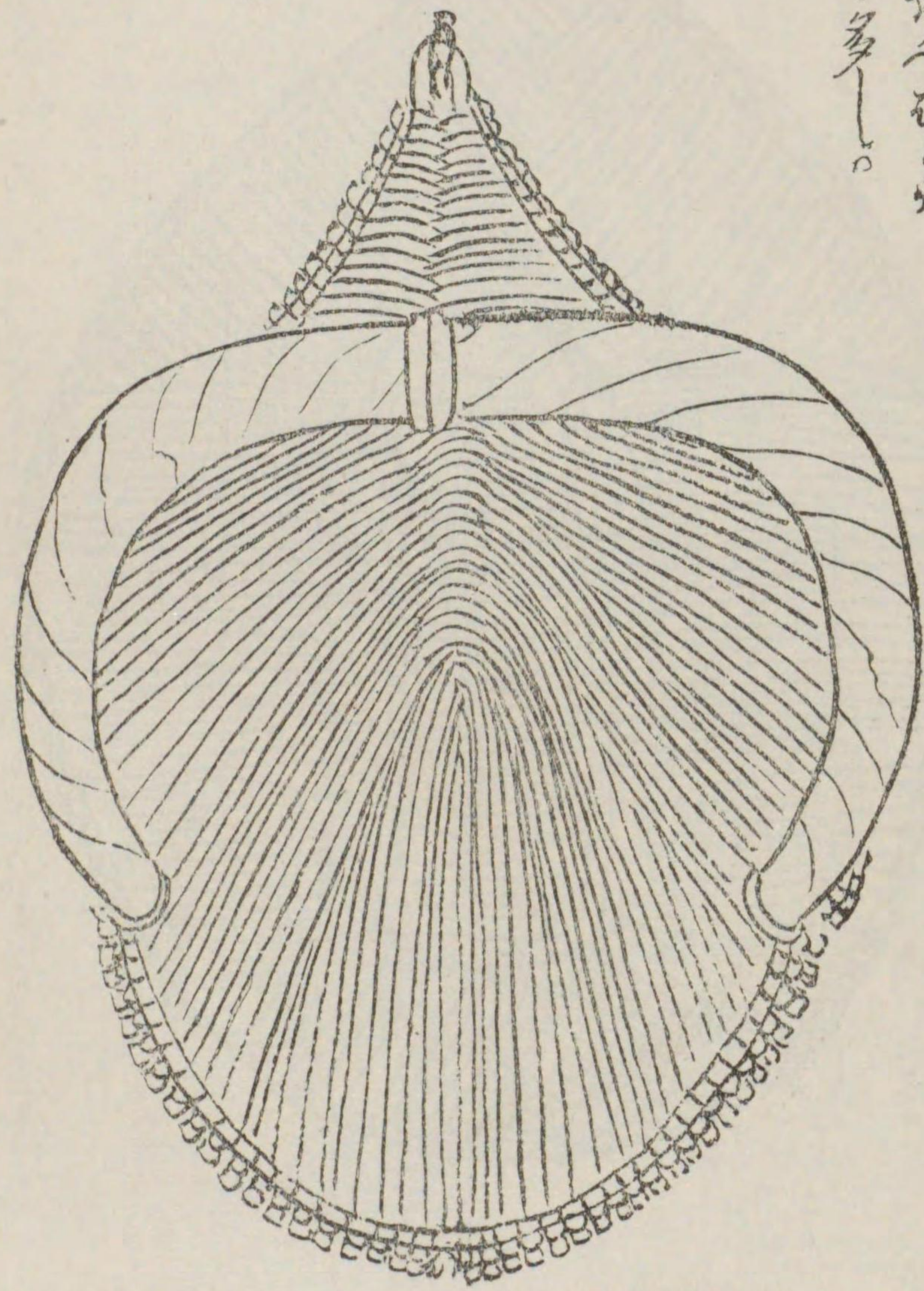






○みちこころのいろはを  
よもものふりくまを板金剛と  
せりしものふりくまを  
ゆきさきをもつて多し。

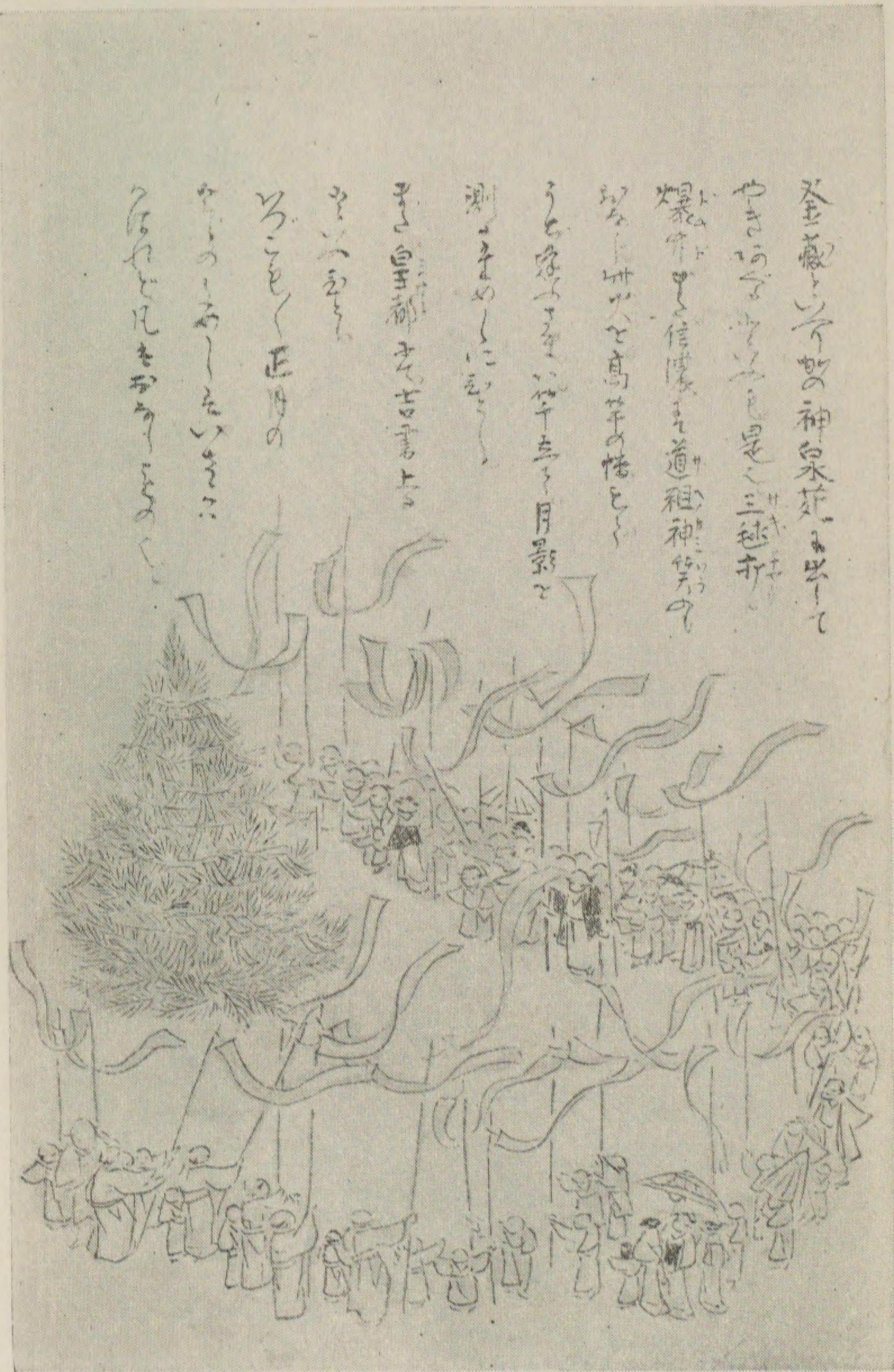
表ノ骨



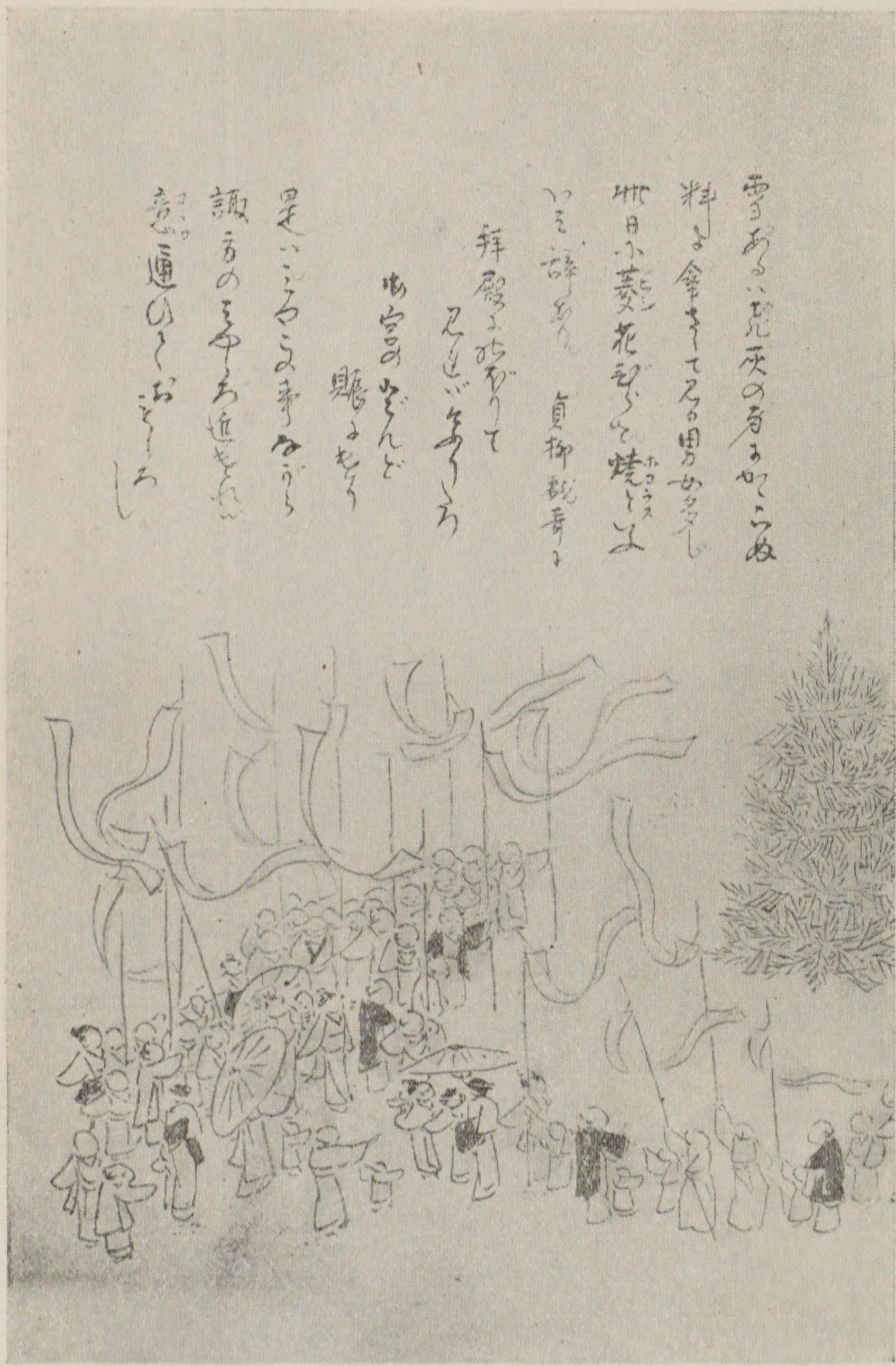






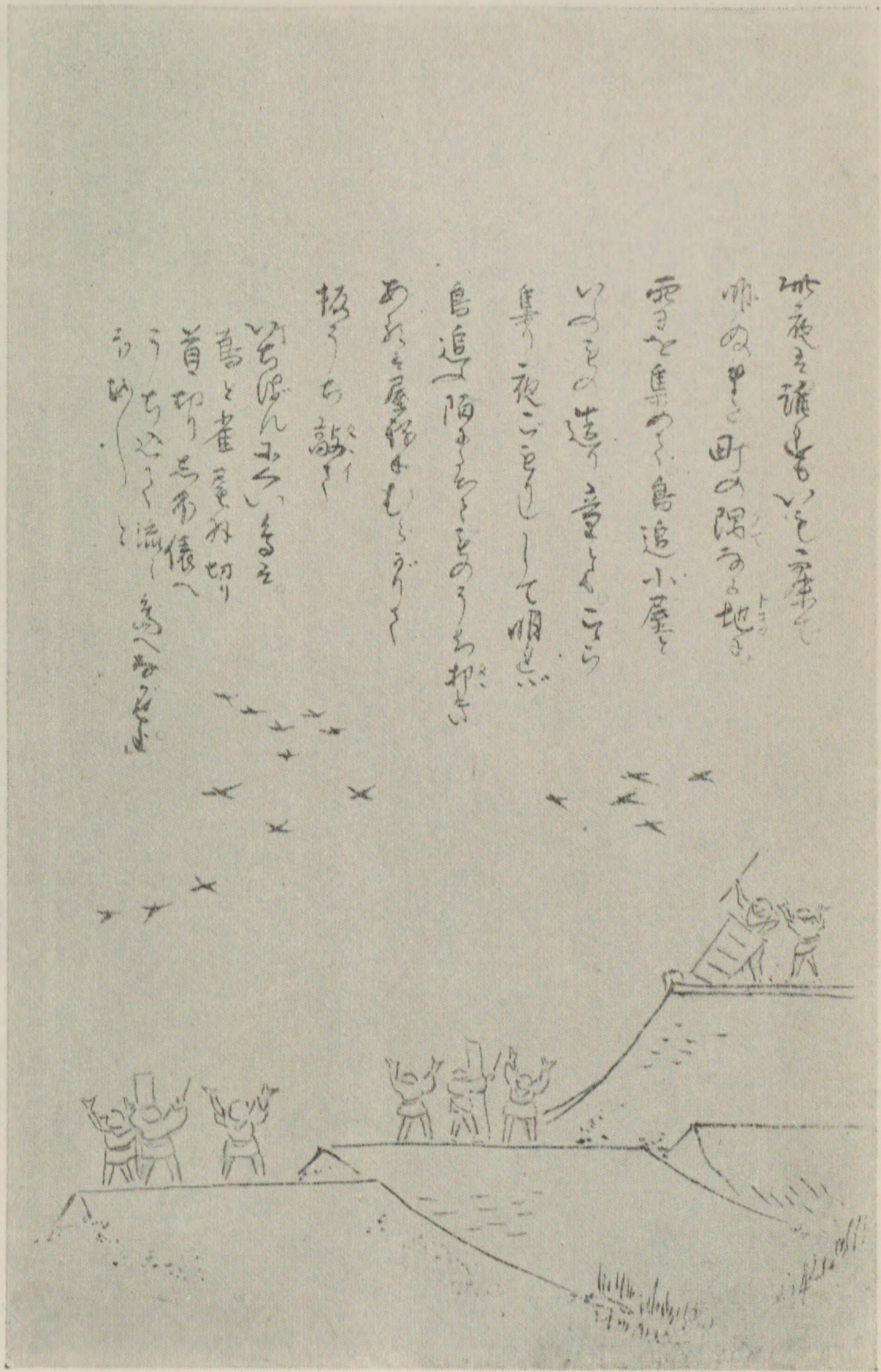


又全蔵といふ神泉苑を出て  
 也きらふやうな是は三越市  
 燦々たる信濃も道祖神等  
 以て廿八と高竿の性といふ  
 うと家々をいひまき月影を  
 測りまめしむ  
 まゝ白皇都を古言上  
 せしむ  
 月影もく正月の  
 やうなふしといふ  
 なるれと凡そおろしむ



西日あるは元灰の月をいふ  
 料を金きてるの田かた  
 廿日小豆花をいふ焼いふ  
 いふ餅いふ 貞柳歌  
 拜殿におかりて  
 又いふいふ  
 山宮のいふ  
 郷いふ  
 是といふいふ  
 諏方のいふいふ  
 意通のいふいふ



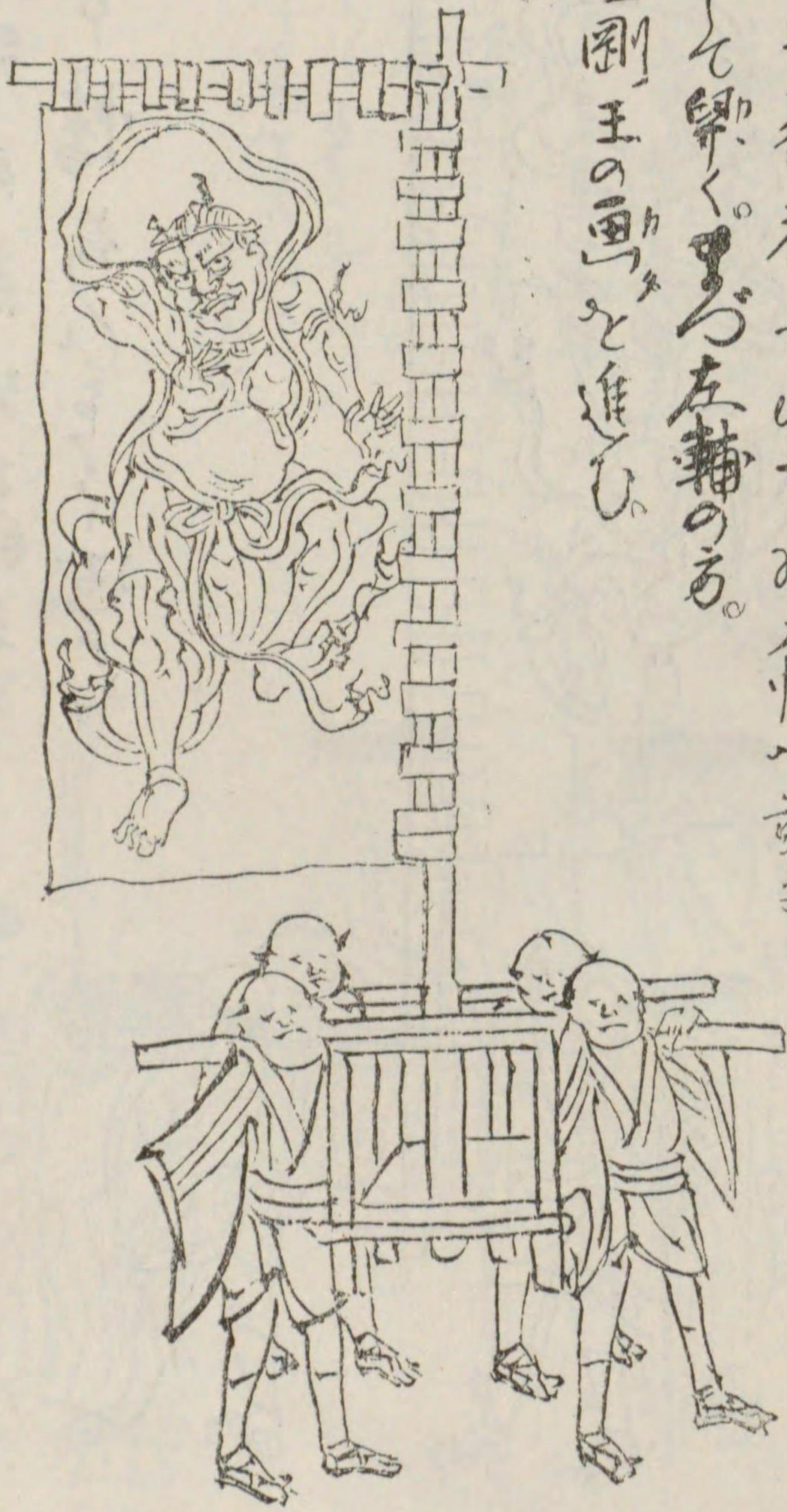




○美佐夜麻祭

○諏訪祭禮はとしごとに七月廿七日也。此夜寅の刻に清祓とて市肆巡る神式は、社例行事の部に、なほしるしたるがごとし。また六郡祭事記二ノ卷に、七月廿七日諏訪祭、仙北、郡六郷驛の總鎮守也、此神職齋藤氏なり。此時の神酒は總酒屋より奉り、魚類は肴問屋中より奉る。社前の兩柱へ左は鰹ぶし、右は鯡を結付て、鰹口の緒は和布を用ゆ。供御ははだのひろもの、はだのさもの、また時の海山の菓也。此日寅の刻清祓の神人町々を巡る、卯刻湯立神樂、辰の上刻神輿御旅所へ渡御。神輿鳥居を出る時、注連切舞有て注連を切り落すなり。祈願のもの、木にて造れる鎌を奉る、何方にても此神は木鎌を奉る也。此里に南諏訪といふ社あり、神職榊氏、同日祭あれども湯立神樂の外異なる事なし。しかく見えたり。なほまた神幸祭事の行粧附物等、凡画圖にしるしたるをもて知るべき也。

○諏訪の神事。御神幸に二玉の大幡を前す。  
 荒雄四人を擧ぐ。まづ左輔の者。  
 密迹金剛王の画を進む。



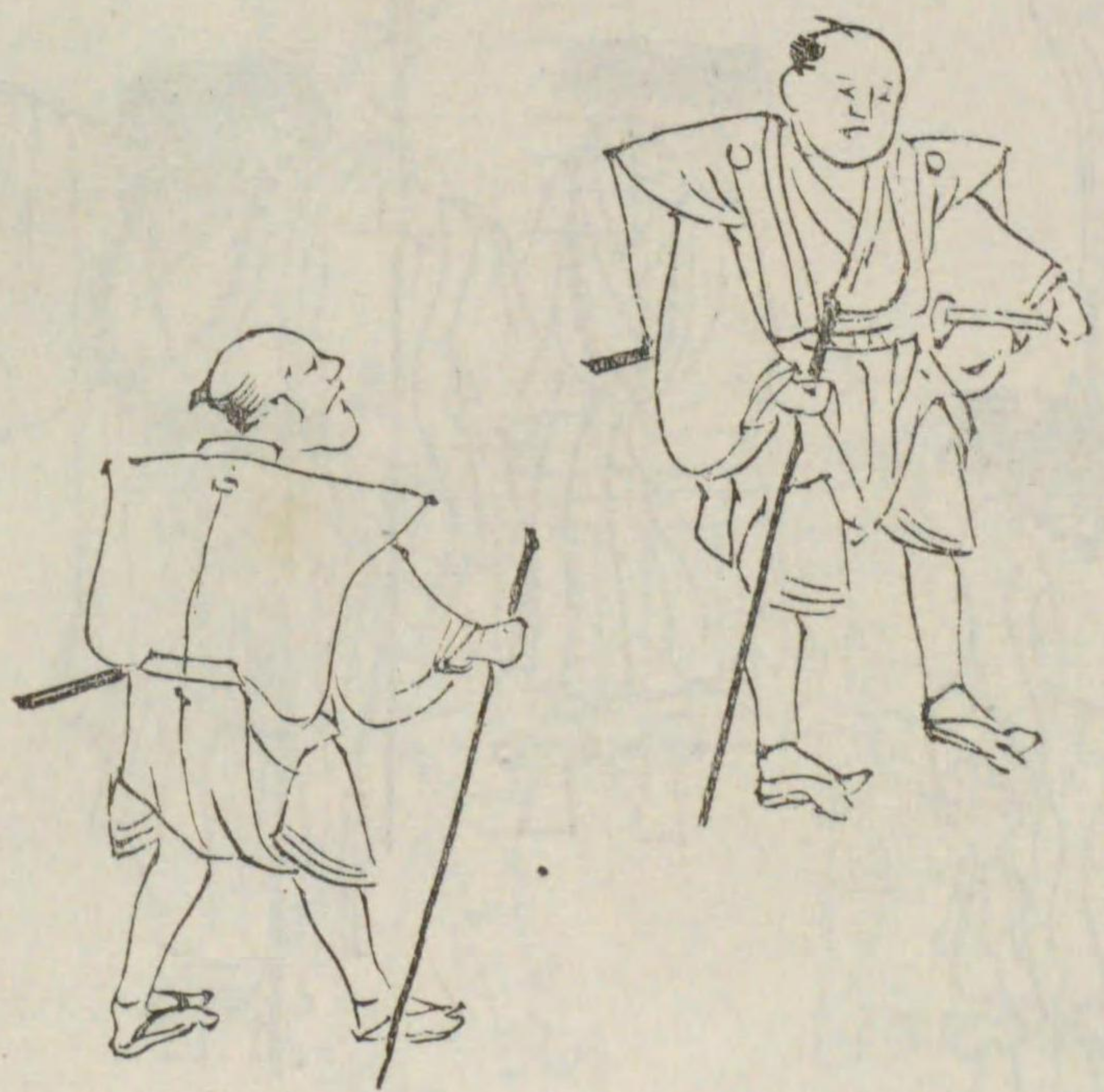






○都由波良比

敬言躡を神幸の事先とほる事也。  
了前驢とて諸社祭禮神楽  
神饌獻すと云。聲を發す。  
鉄布とて是もみまを造  
事にして可智咩とておほ。



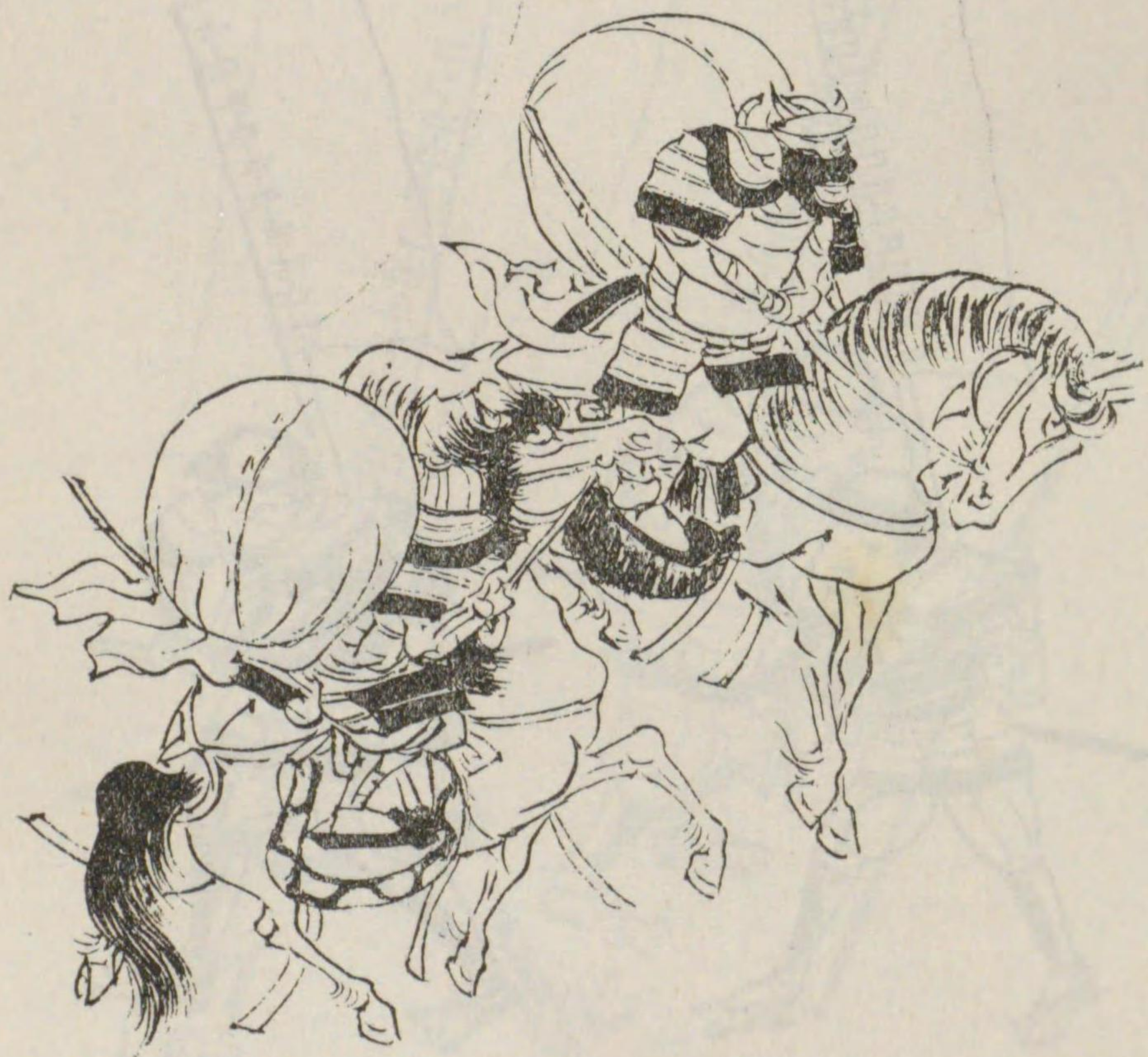
○放免の附物

いくばく

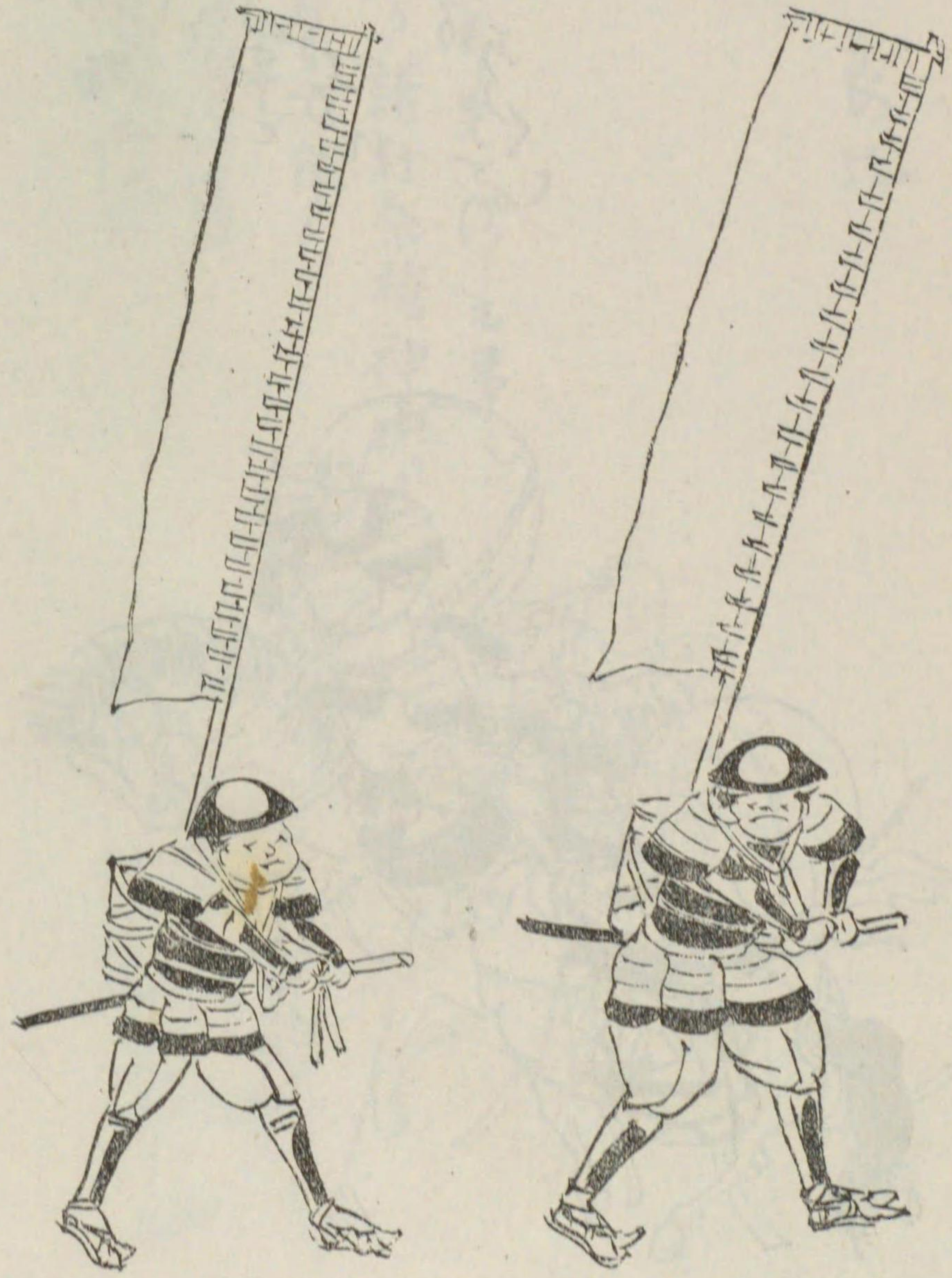
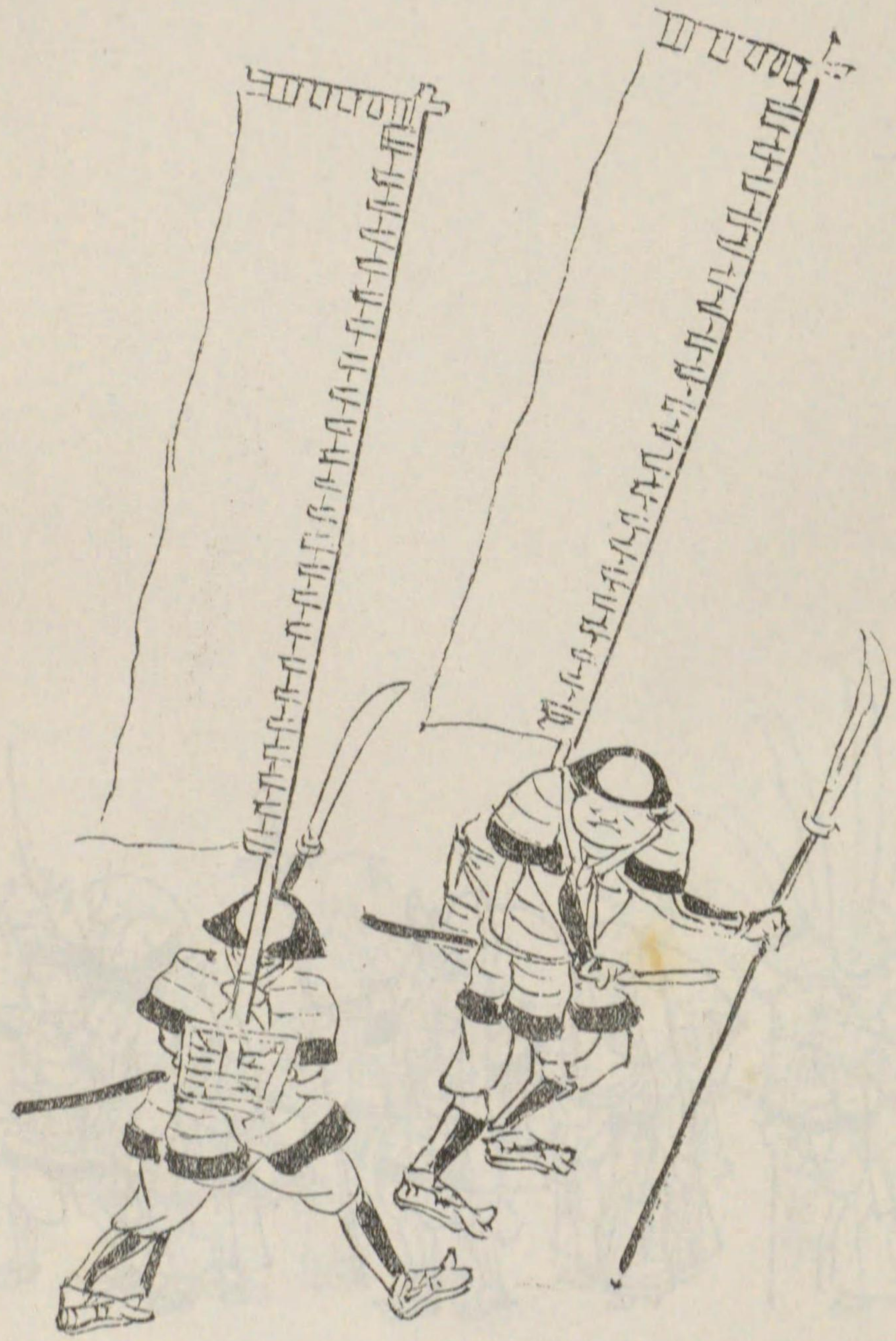
以事と

馬に

か  
あつこ

















○四神御矛

前朱雀 後玄武 左青龍 右白虎

御矛し

天瓊矛

茅纏の鉾

著鐸の矛

廣矛 國平の矛

比々羅木の八尋の鉾根

嚴矛

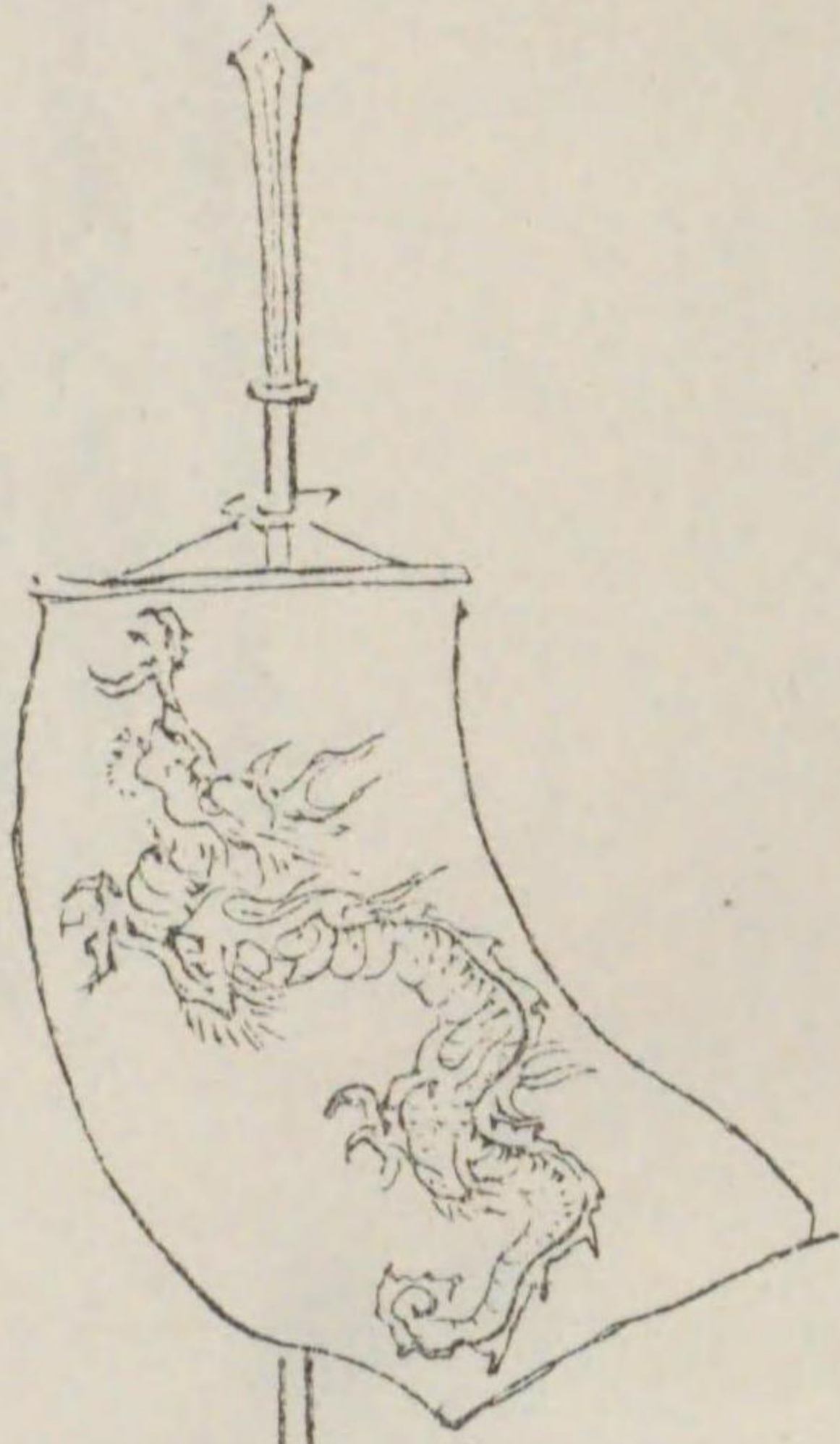
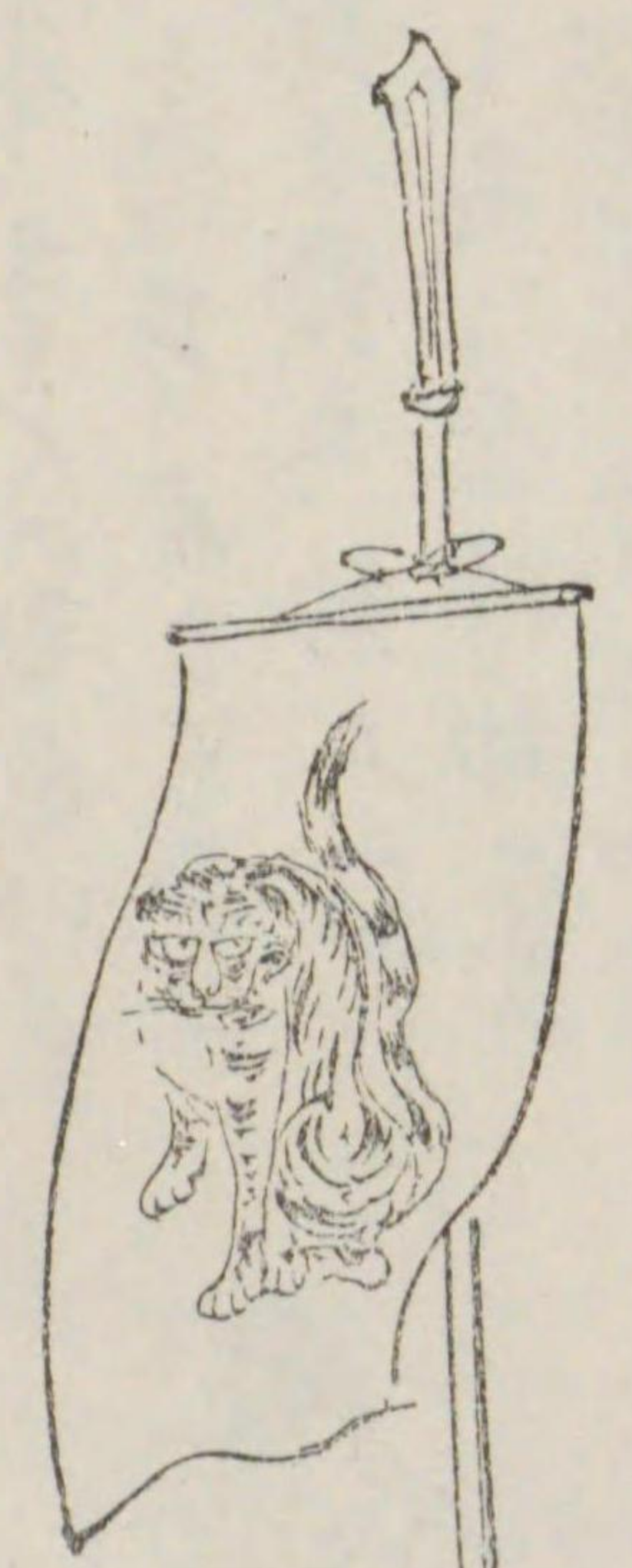
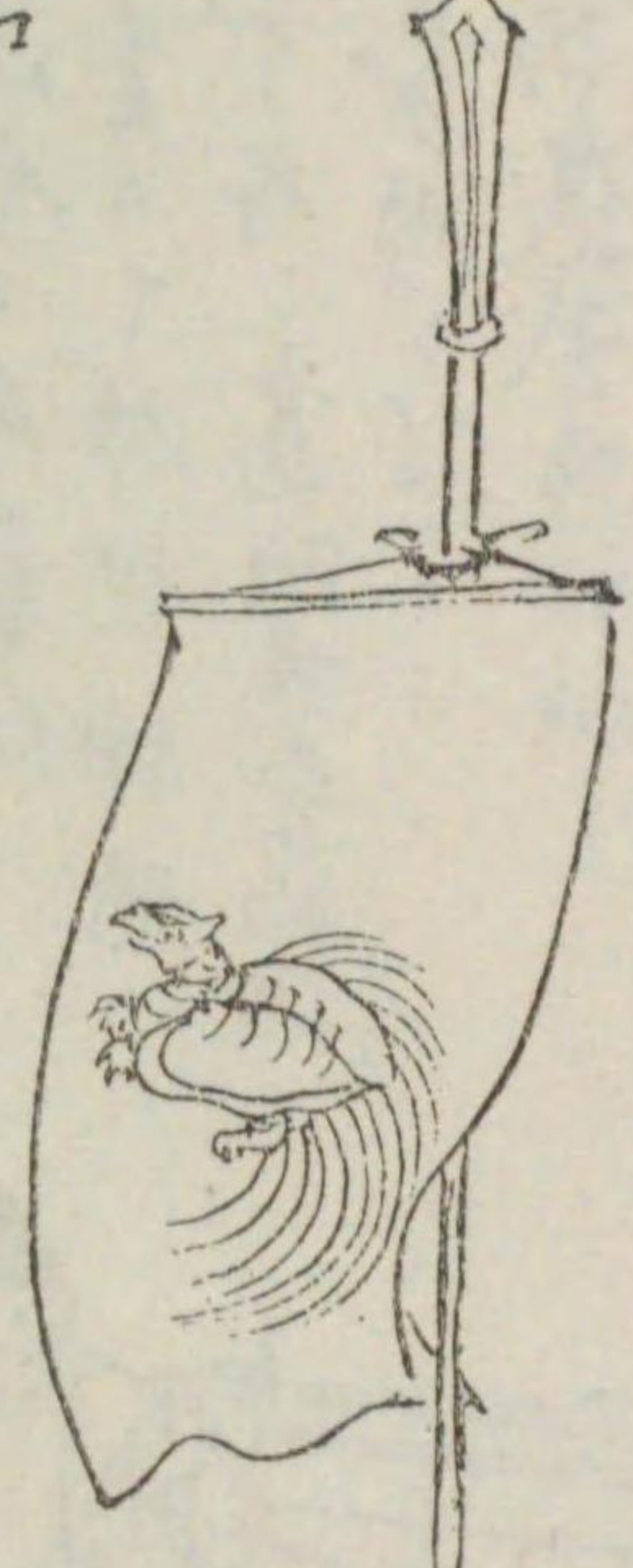
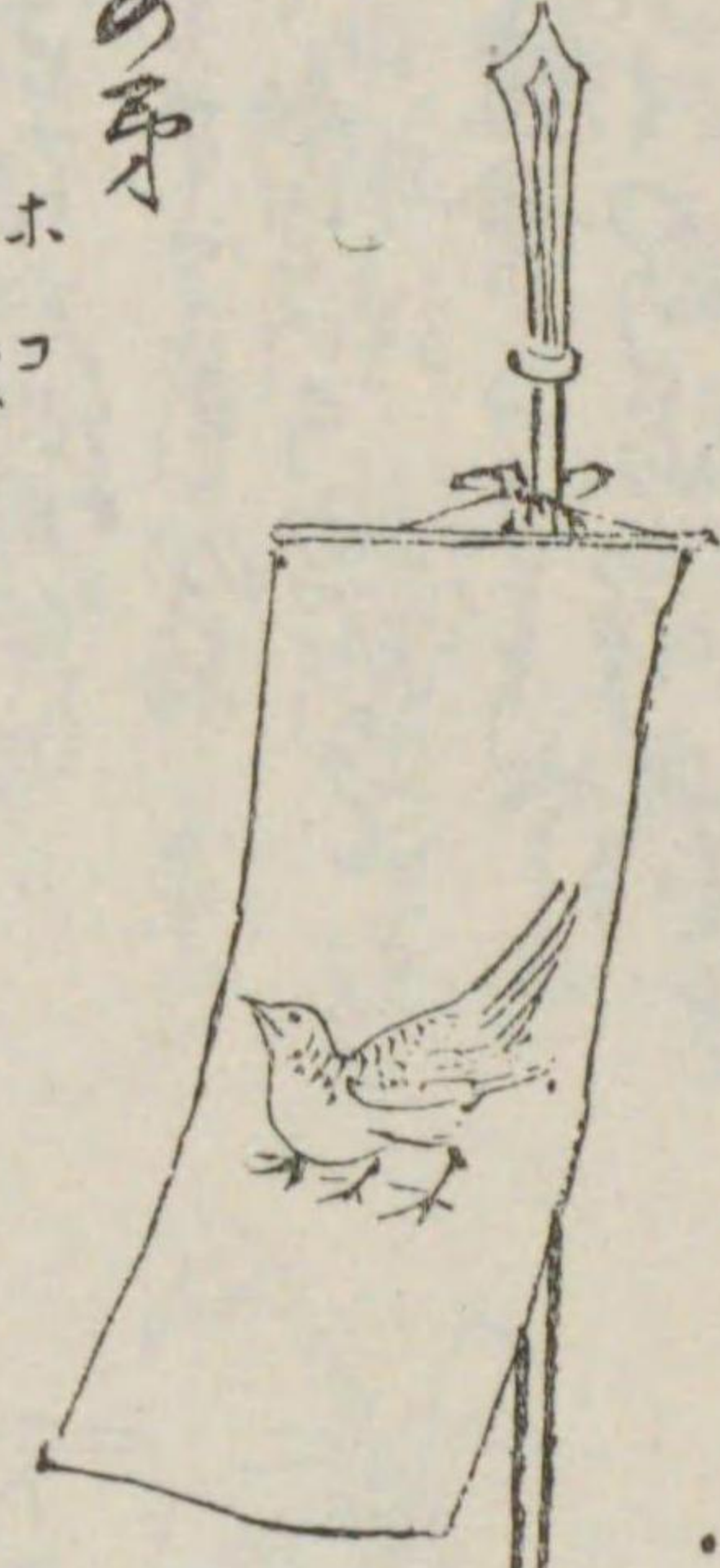
三つこ

ゆき

比禮戈

祭矛 厚初矛

厚初品の



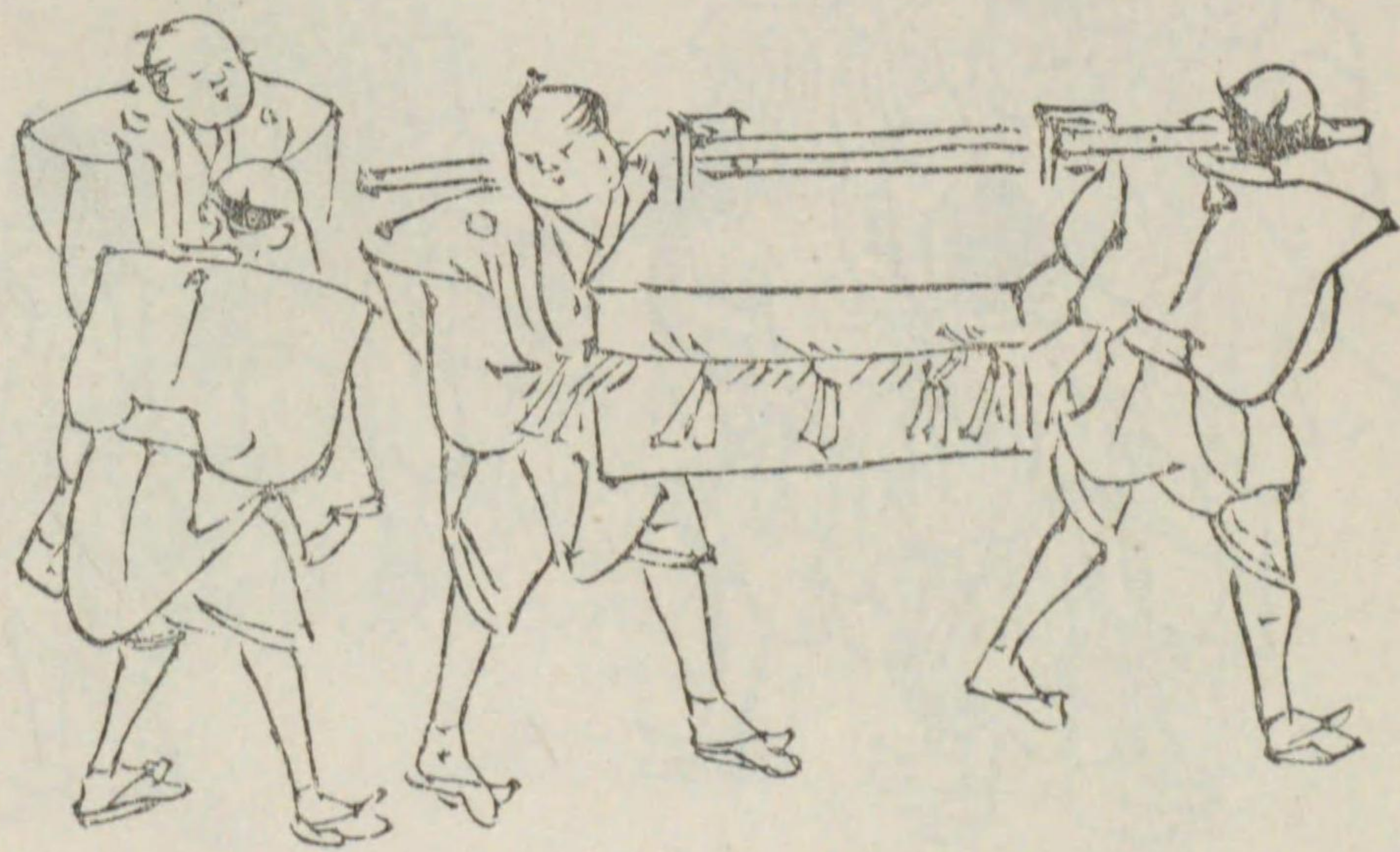


○獅子頭

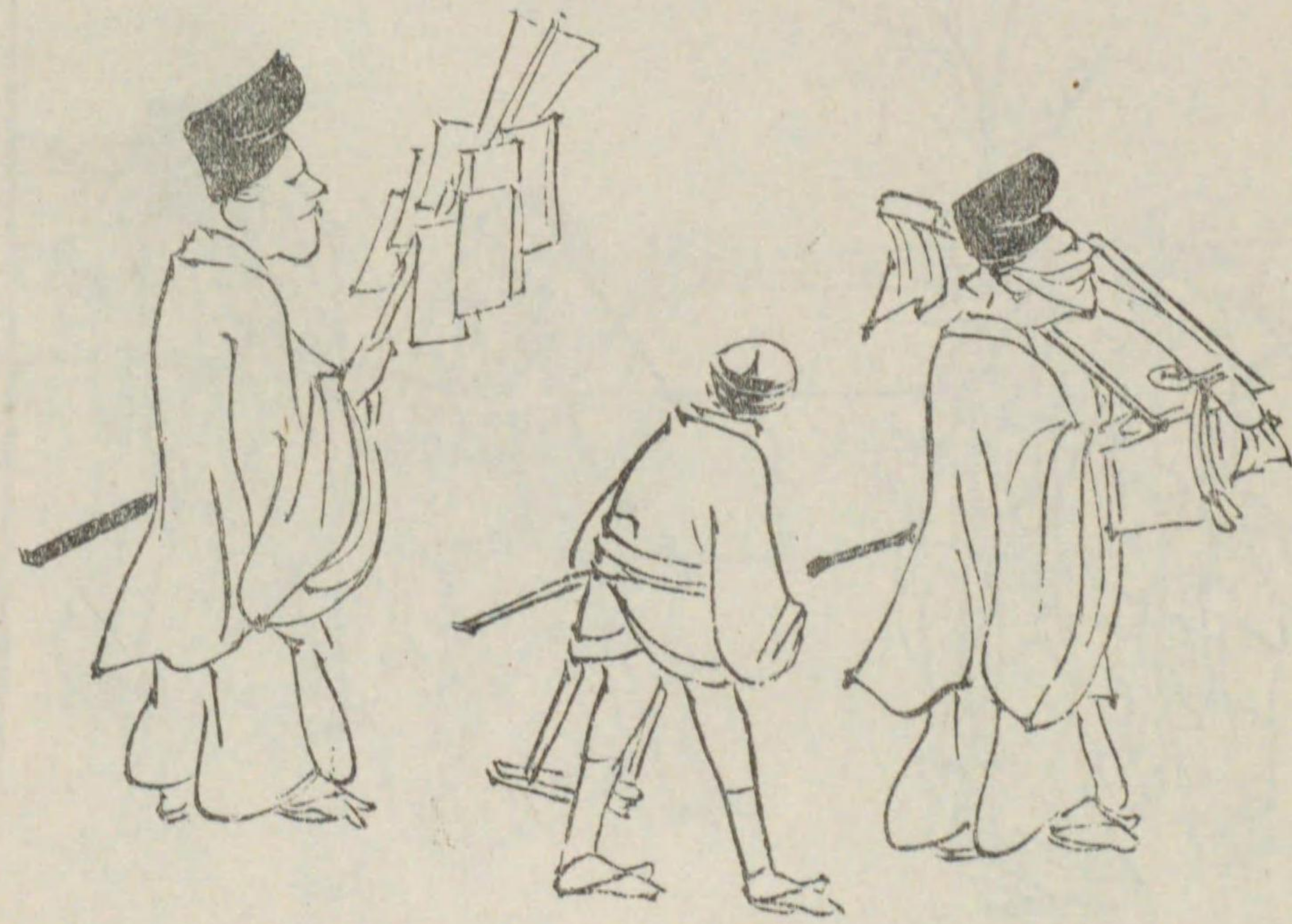
○此獅子舞の事、まゝの説あり、  
 諸社多く獅子頭あり、其意は日  
 詳く存或云獅子頭或、拍犬小ね  
 宮社の御守に或は祭禮神事  
 御先、是は祭事と云、今按、佛字  
 義あり、祭禮の行せよの風流の  
 獅子頭、日吉祭小獅子頭の曲  
 田樂の曲おほく是れつゝ、  
 神事とある事、  
 神事とある事、



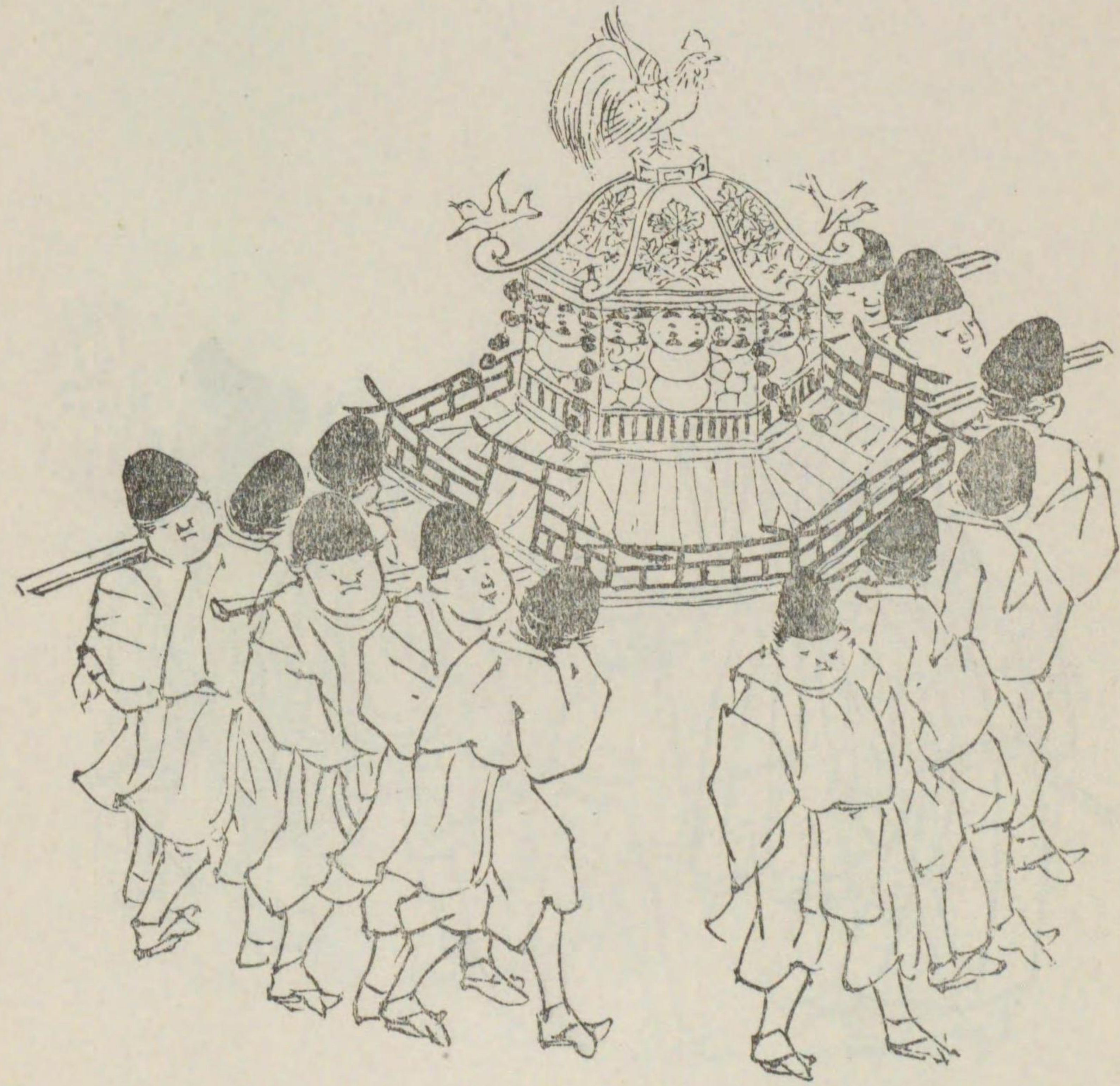
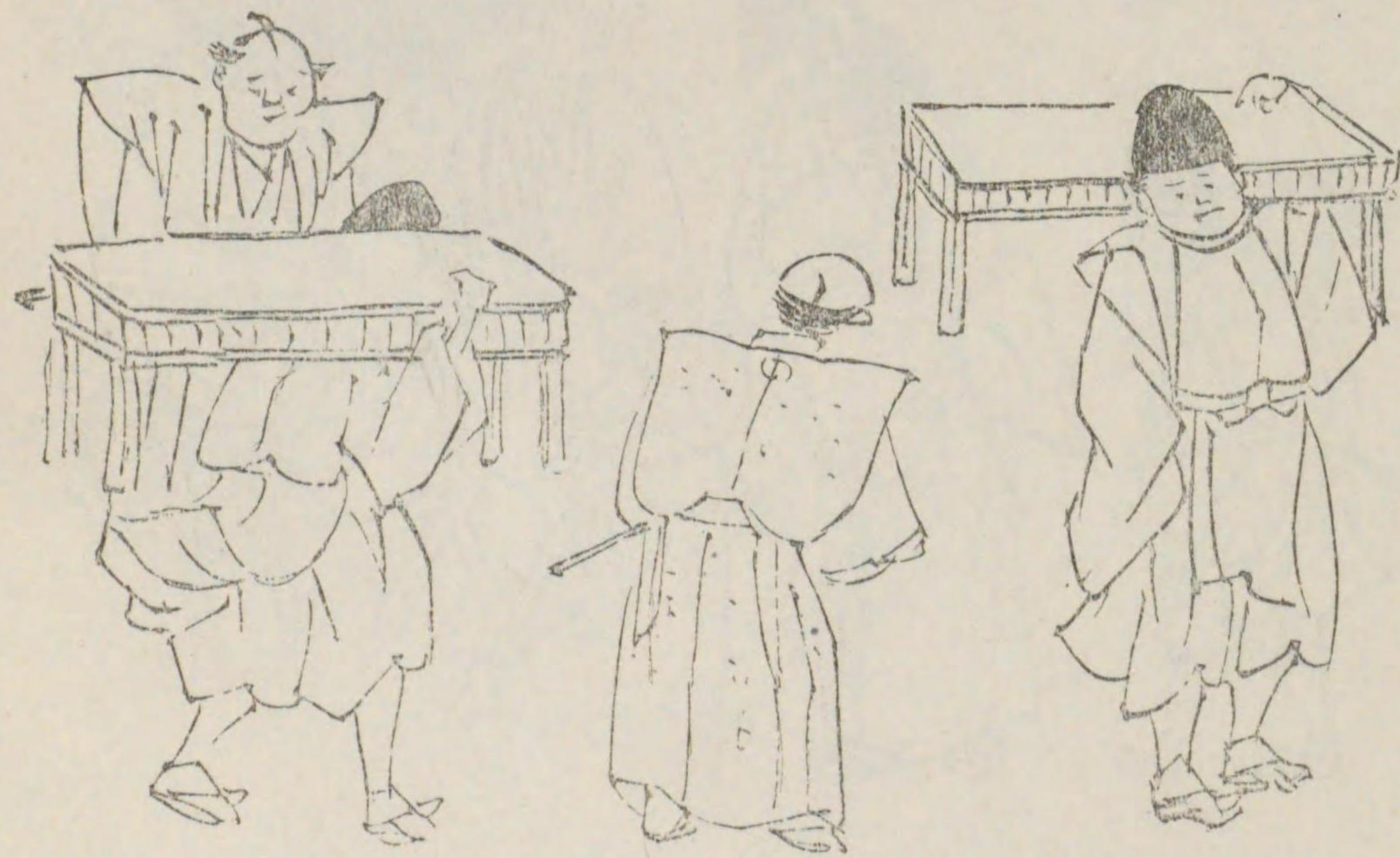








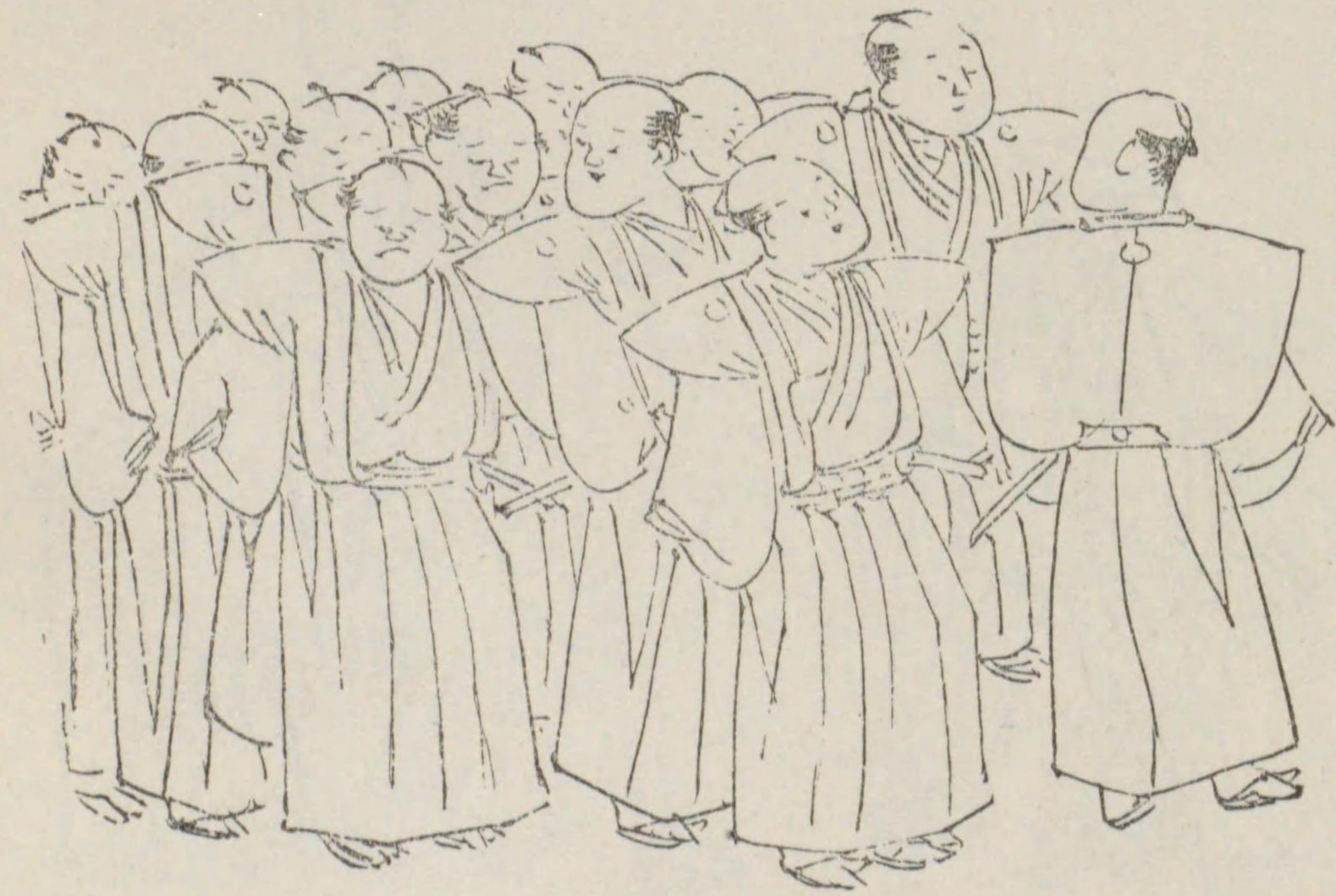




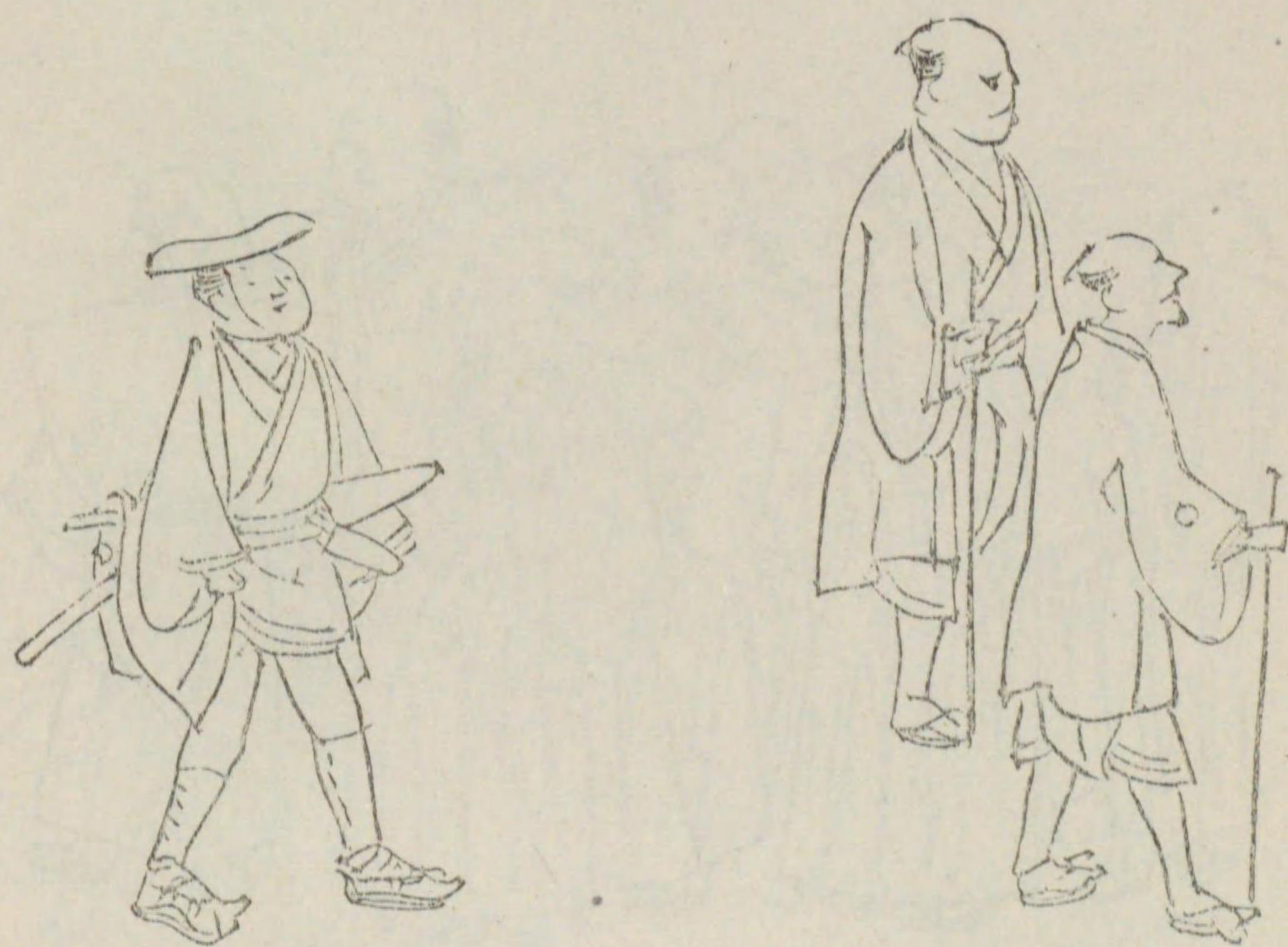








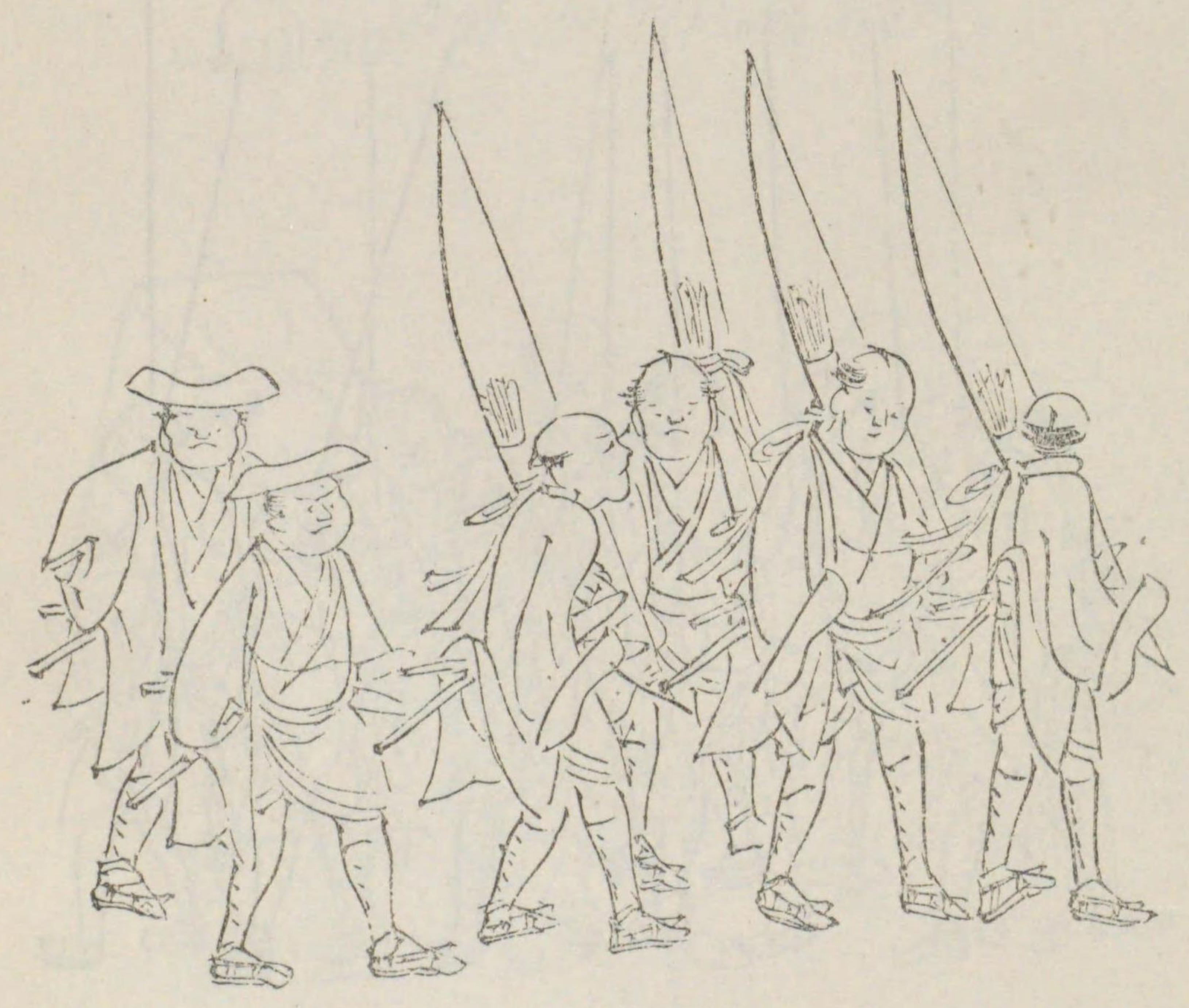




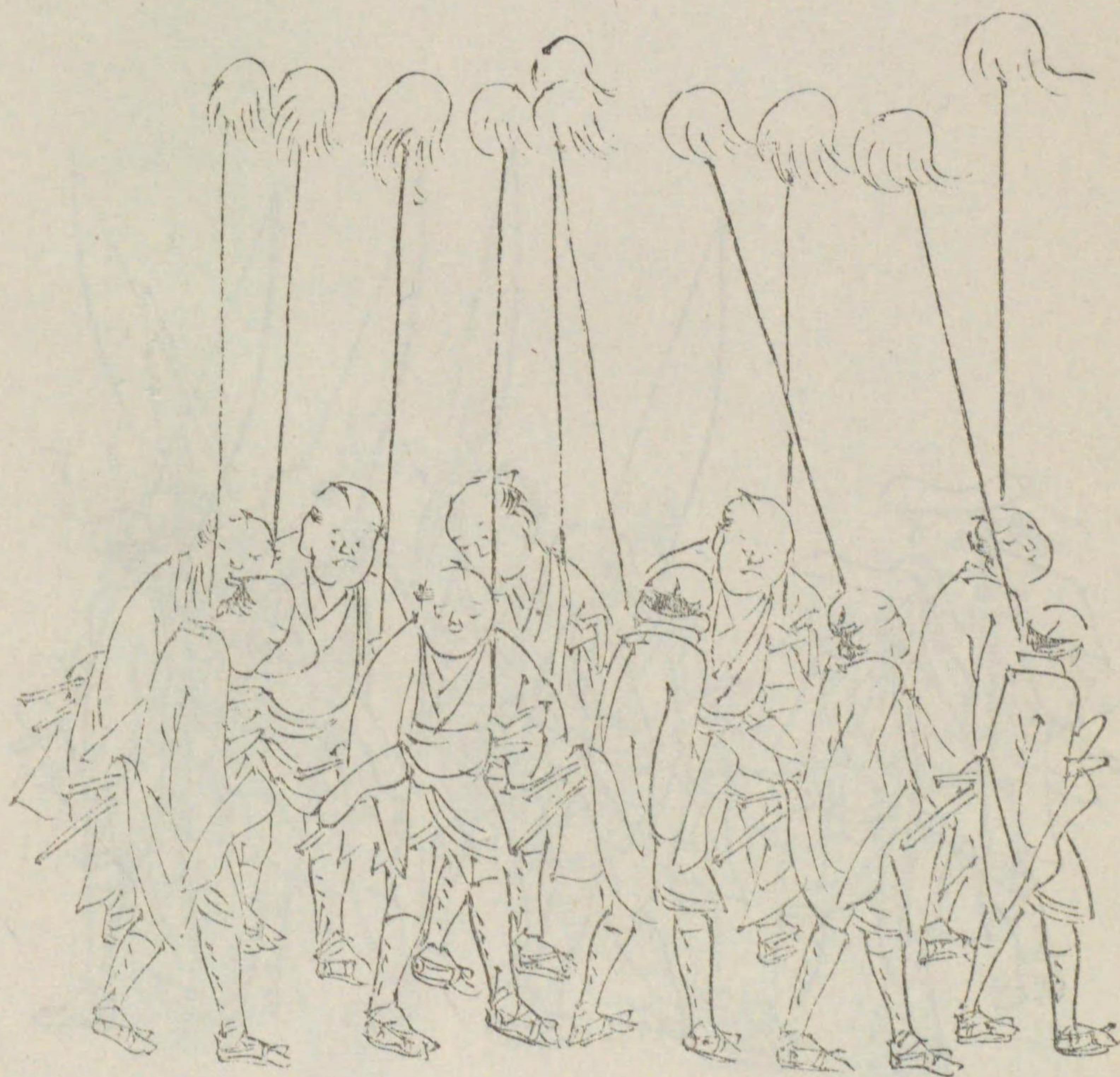




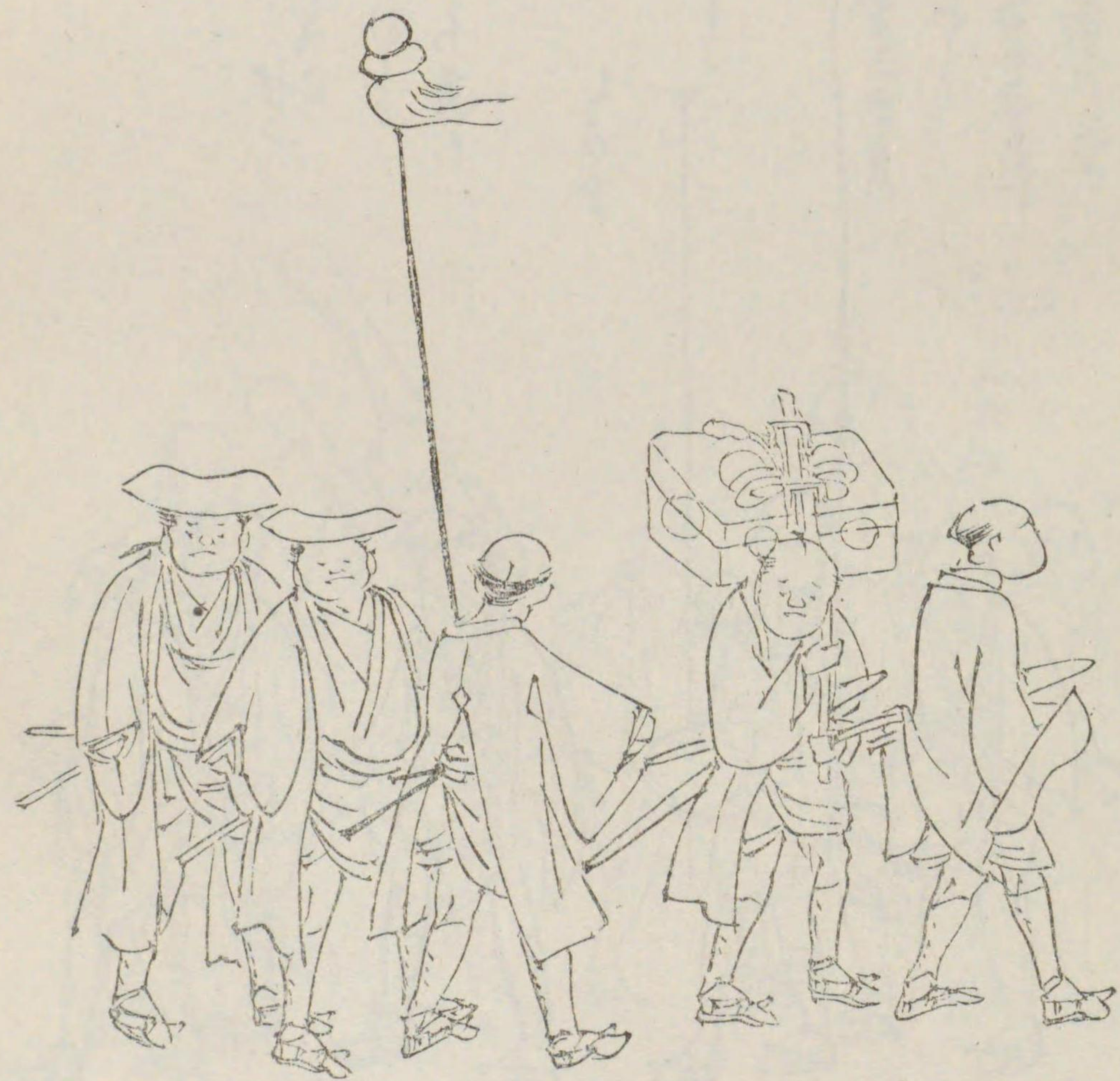




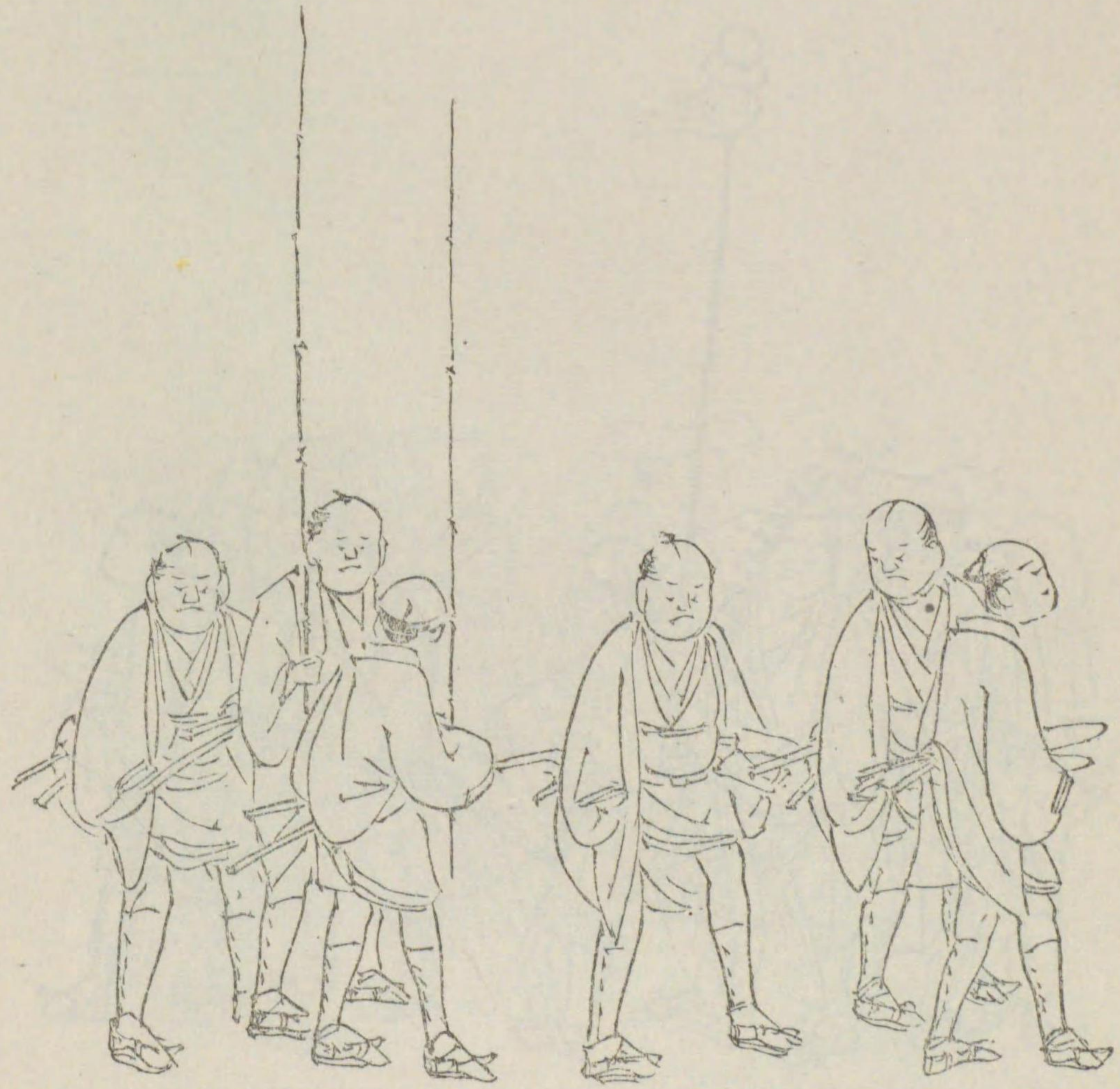








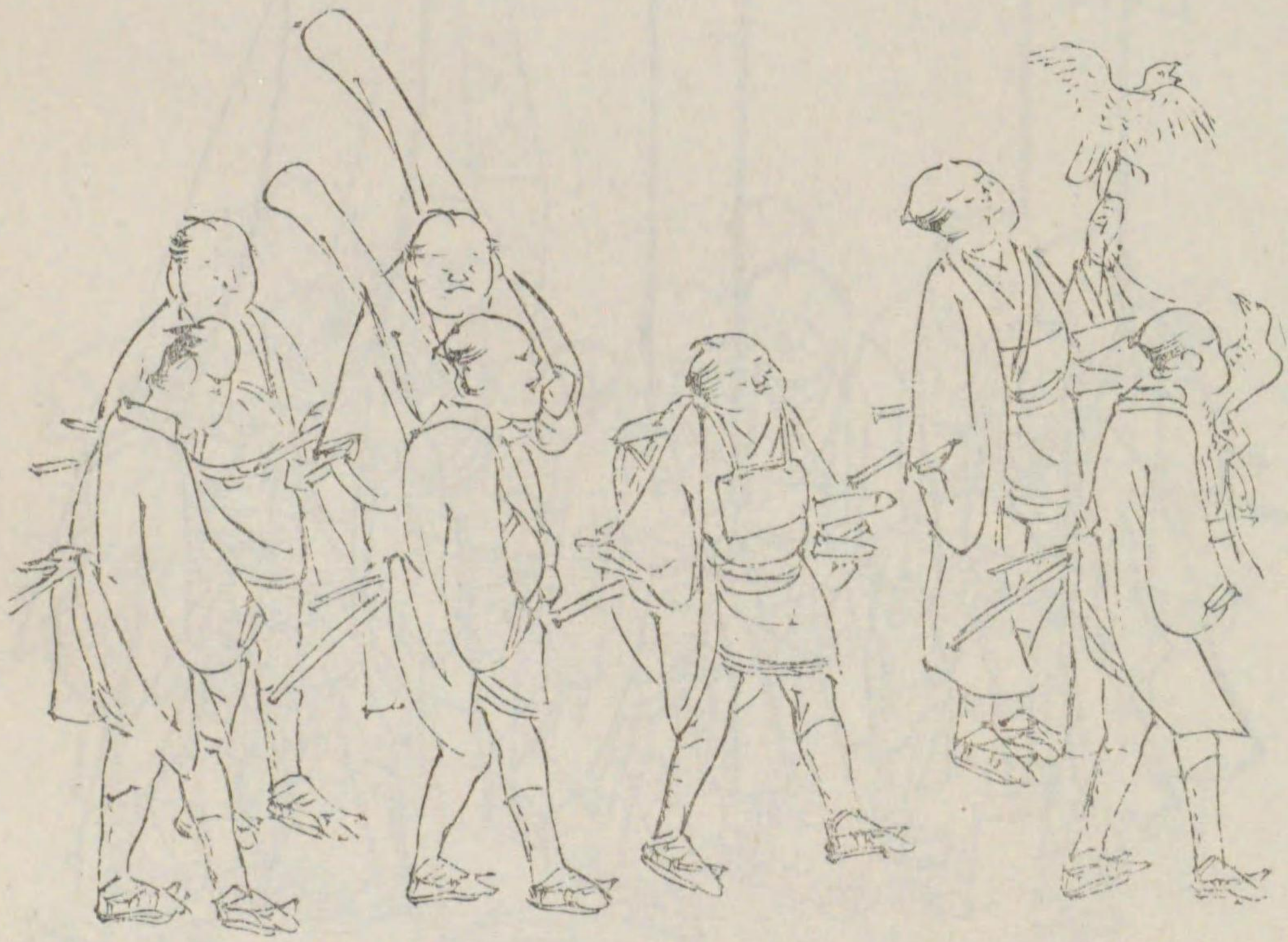




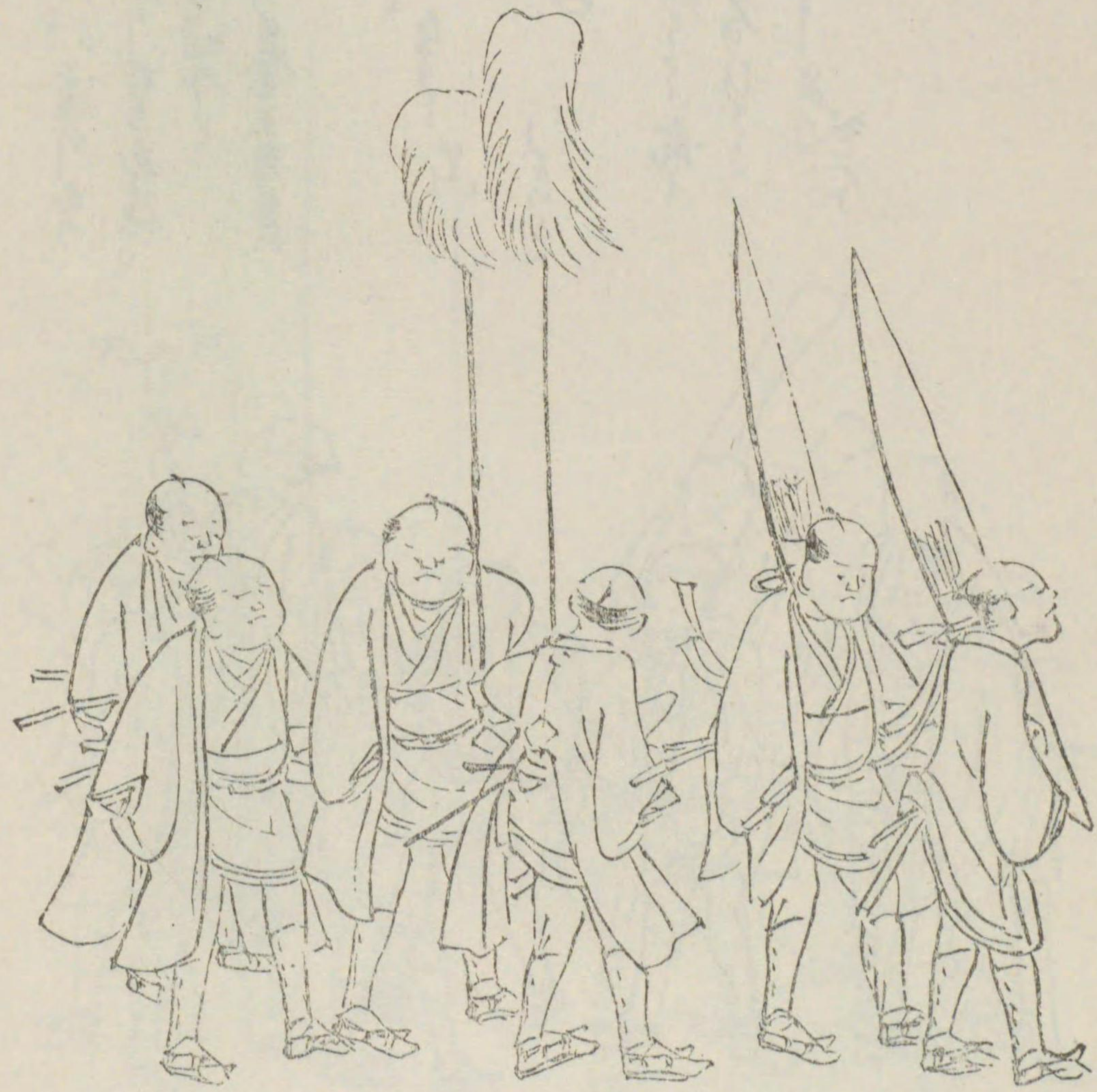
此放免のほもむれ大名の道のりなり  
とまのびま中ノ宿にありて宿ありま  
舞の地とて宿ありまむれとてあり  
おつとまむれ定家卿の宿三百貫の  
中なり。

かむれあり  
ありの宿あり  
ありの宿あり  
ありの宿あり  
ありの宿あり

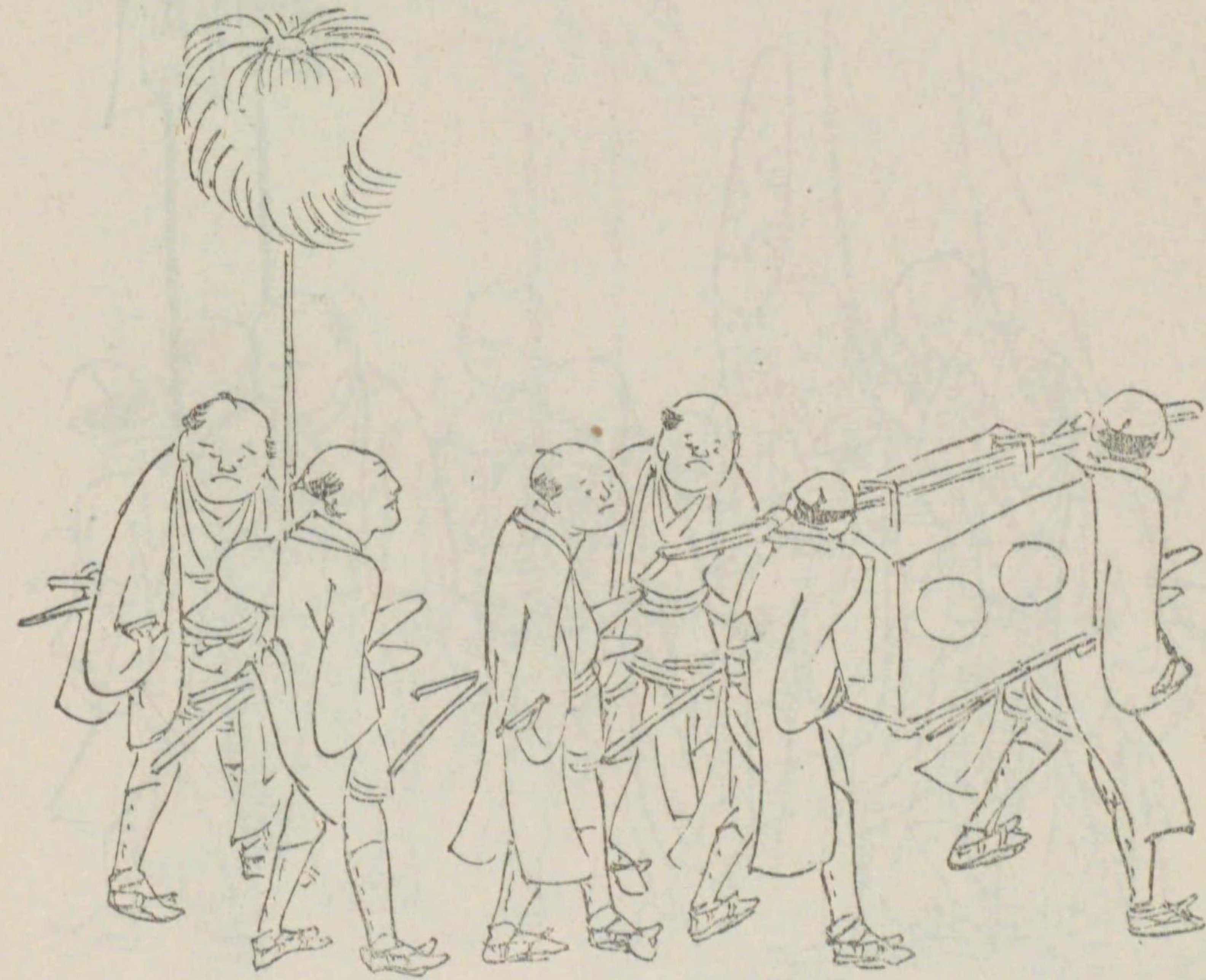
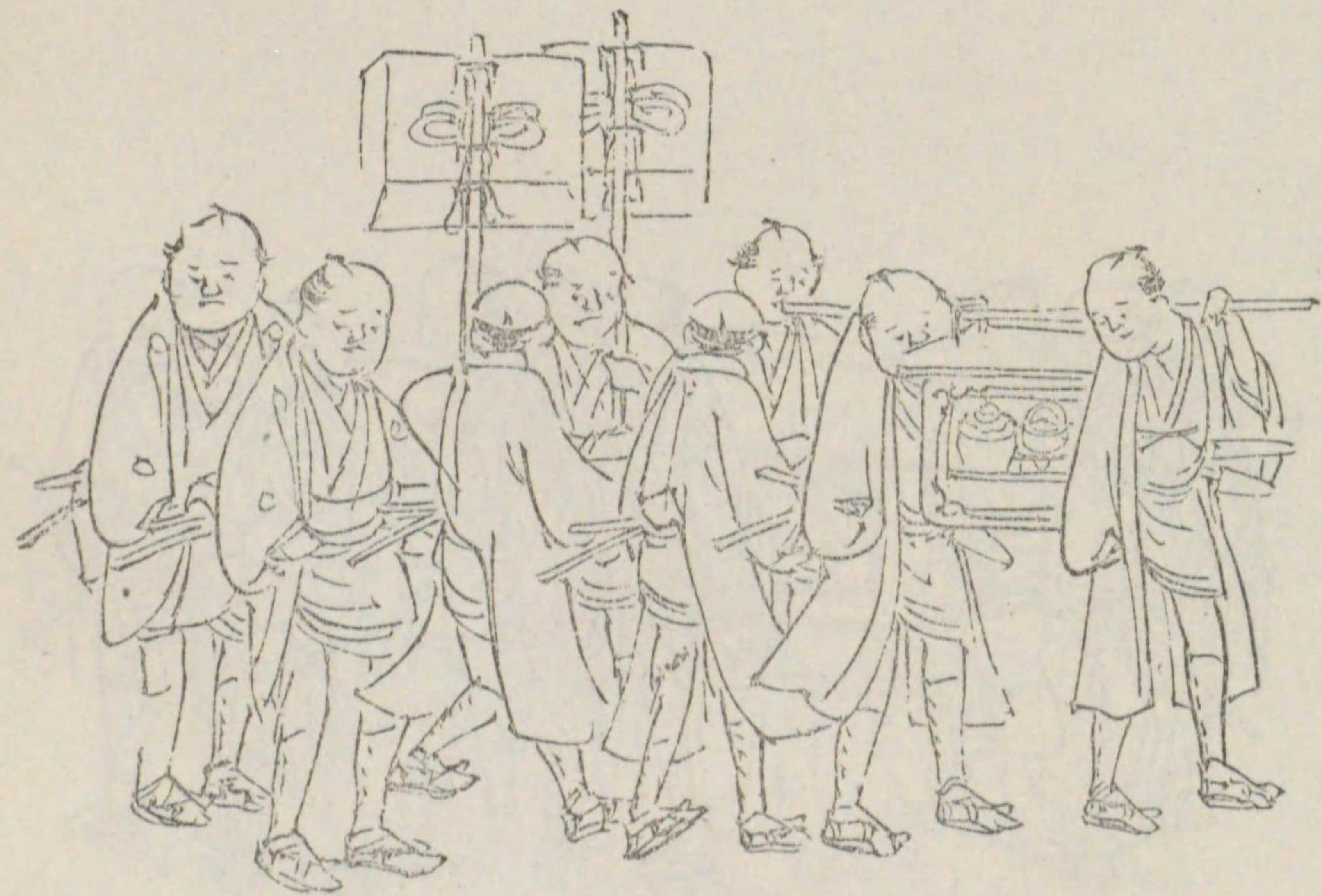
ありの宿あり  
ありの宿あり  
ありの宿あり



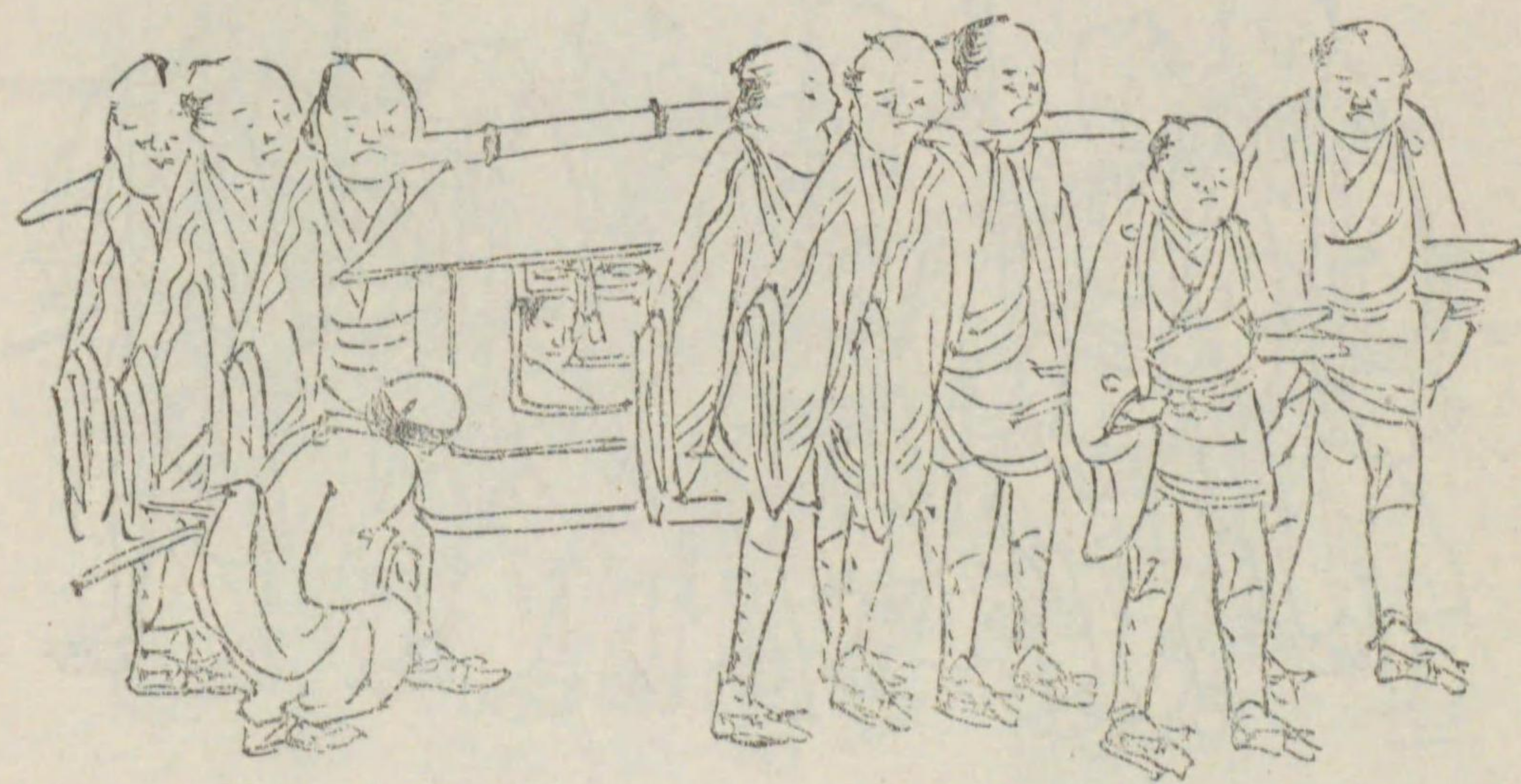
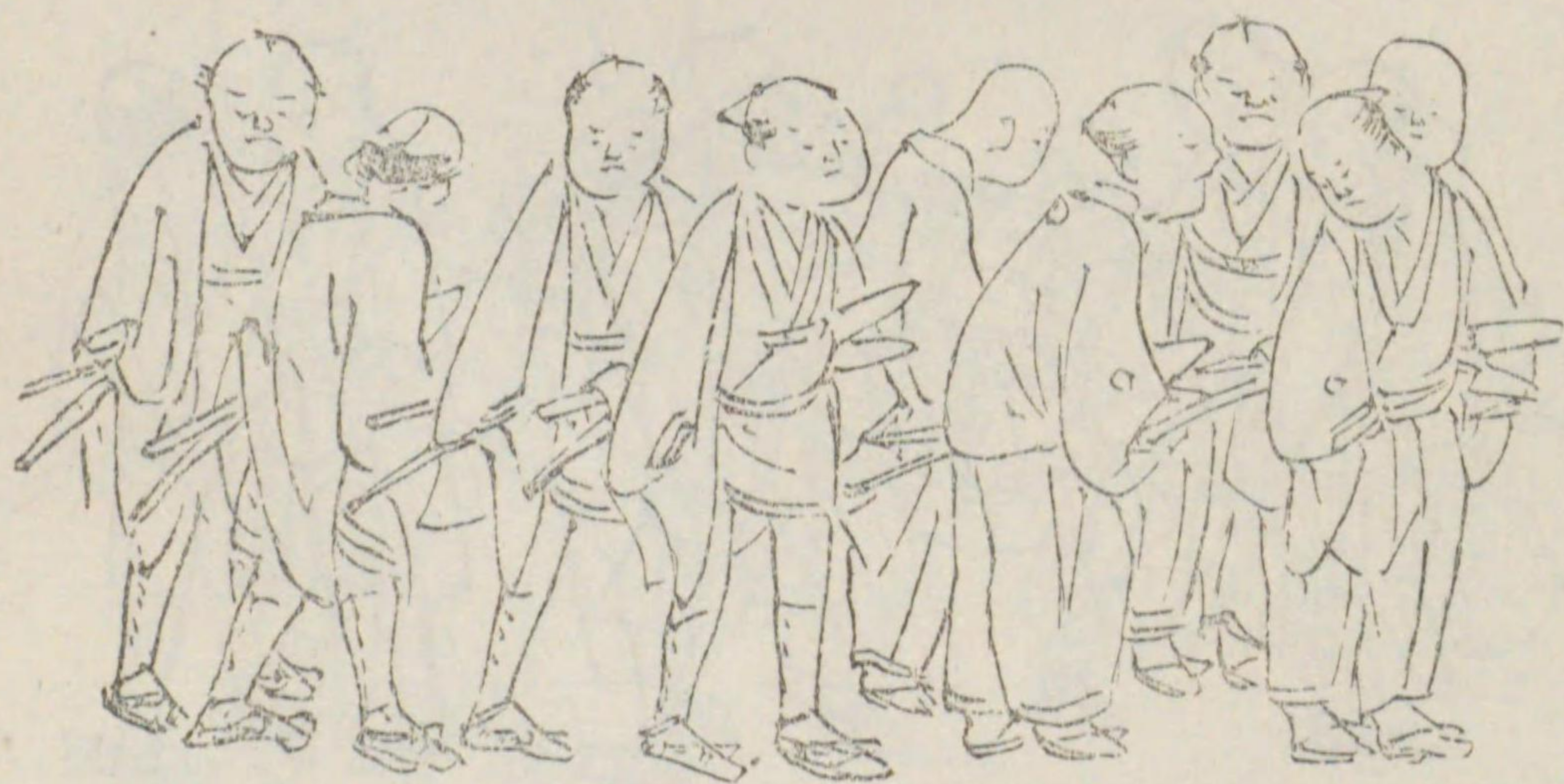




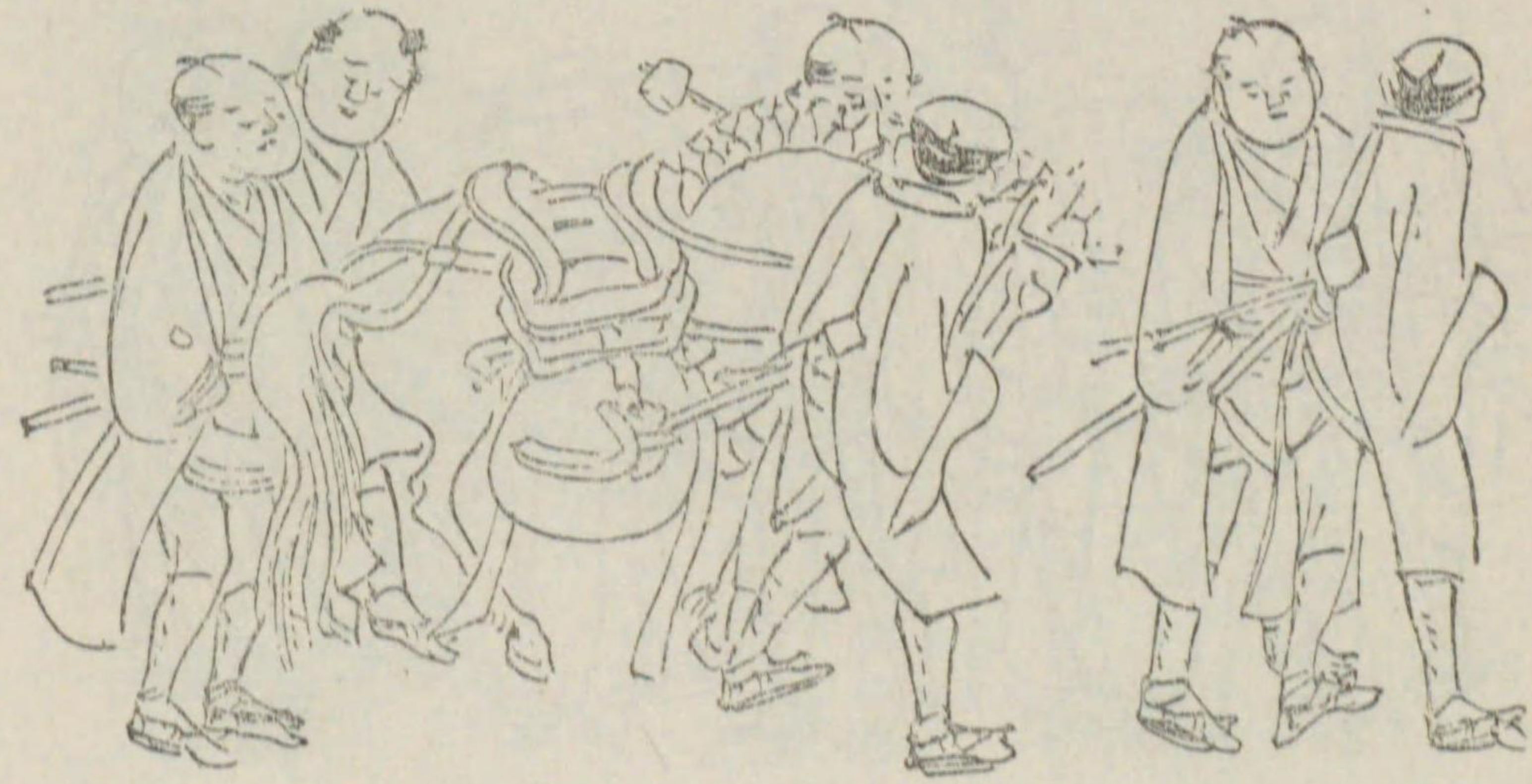












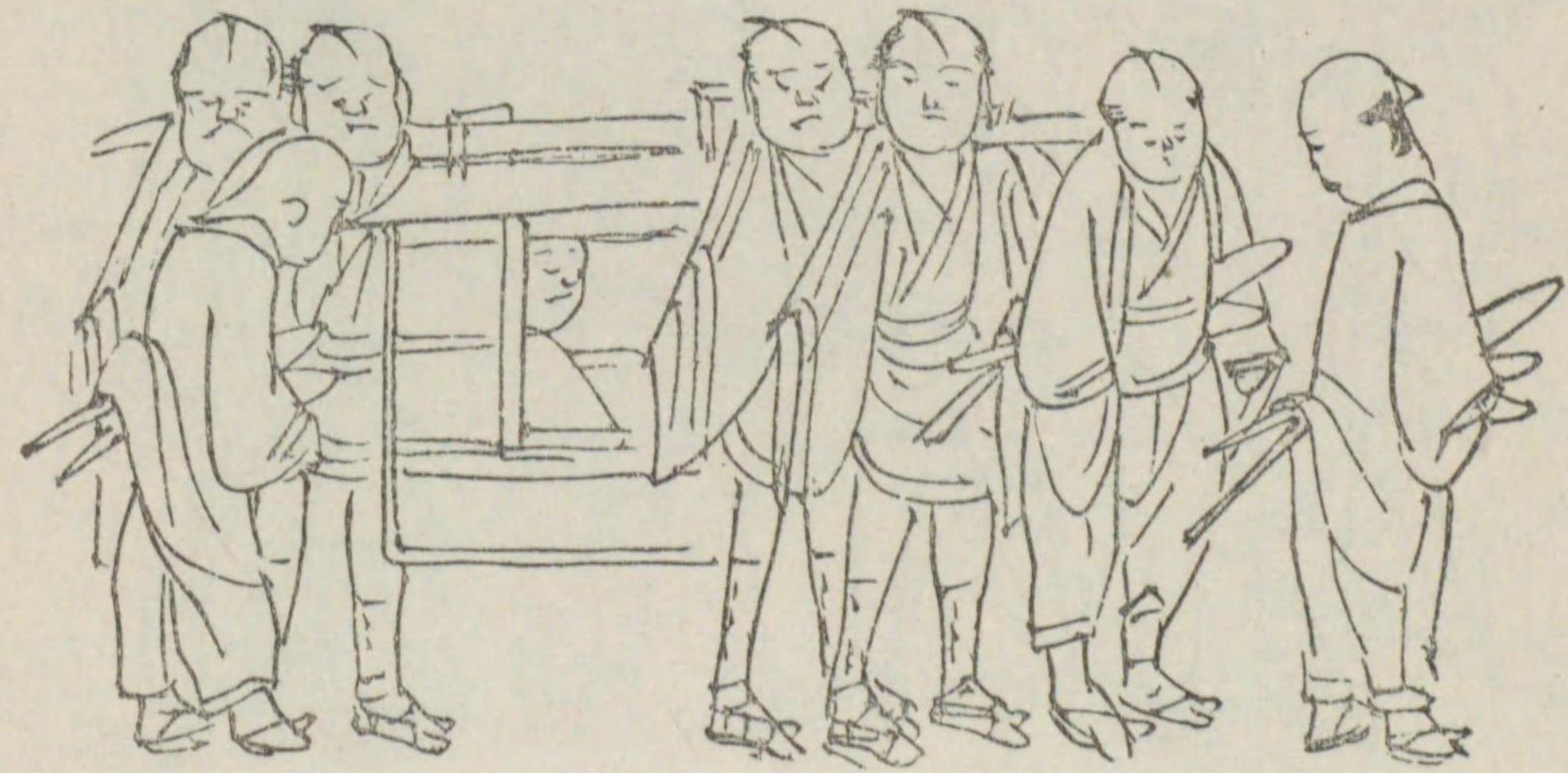
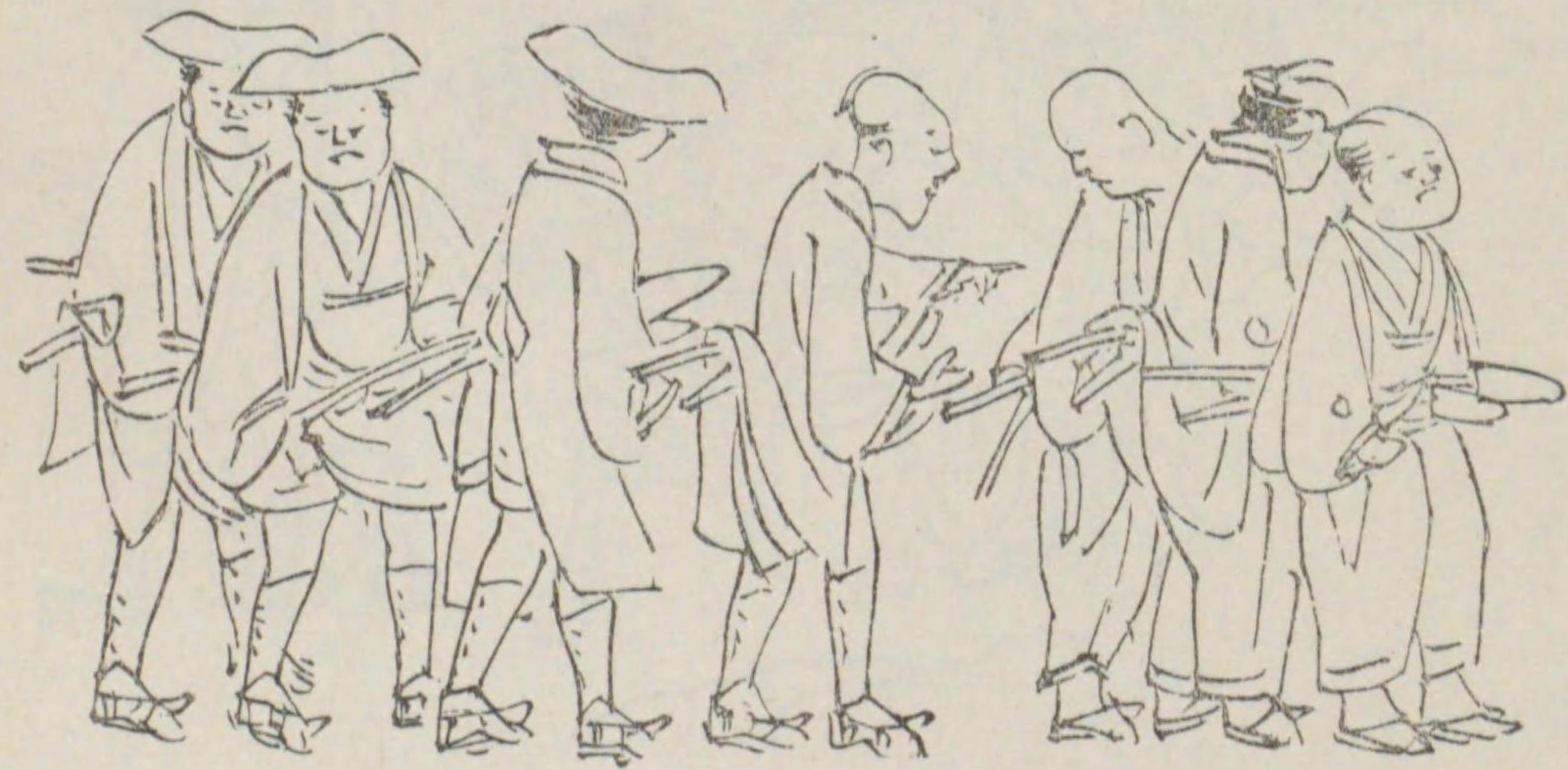




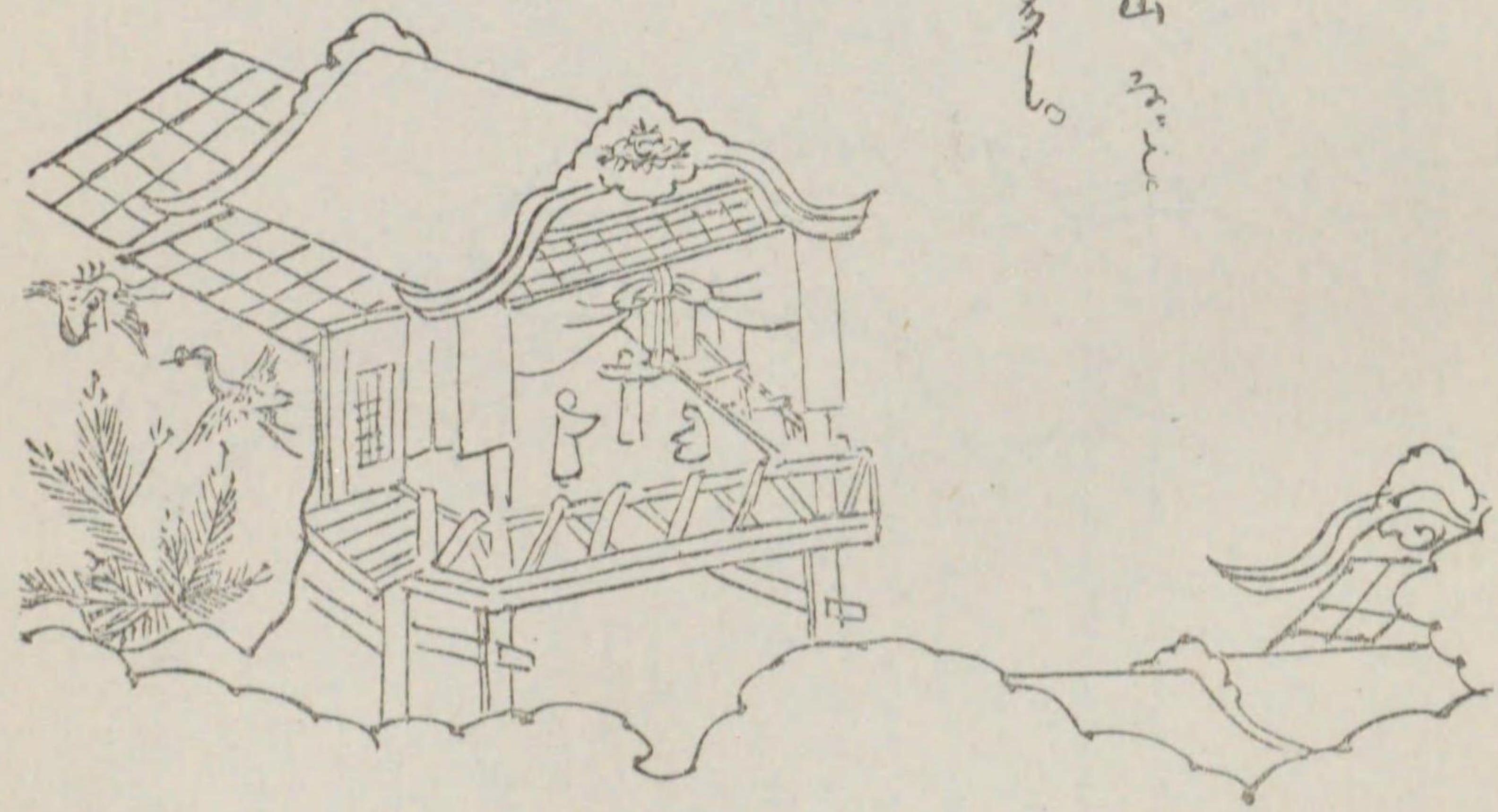




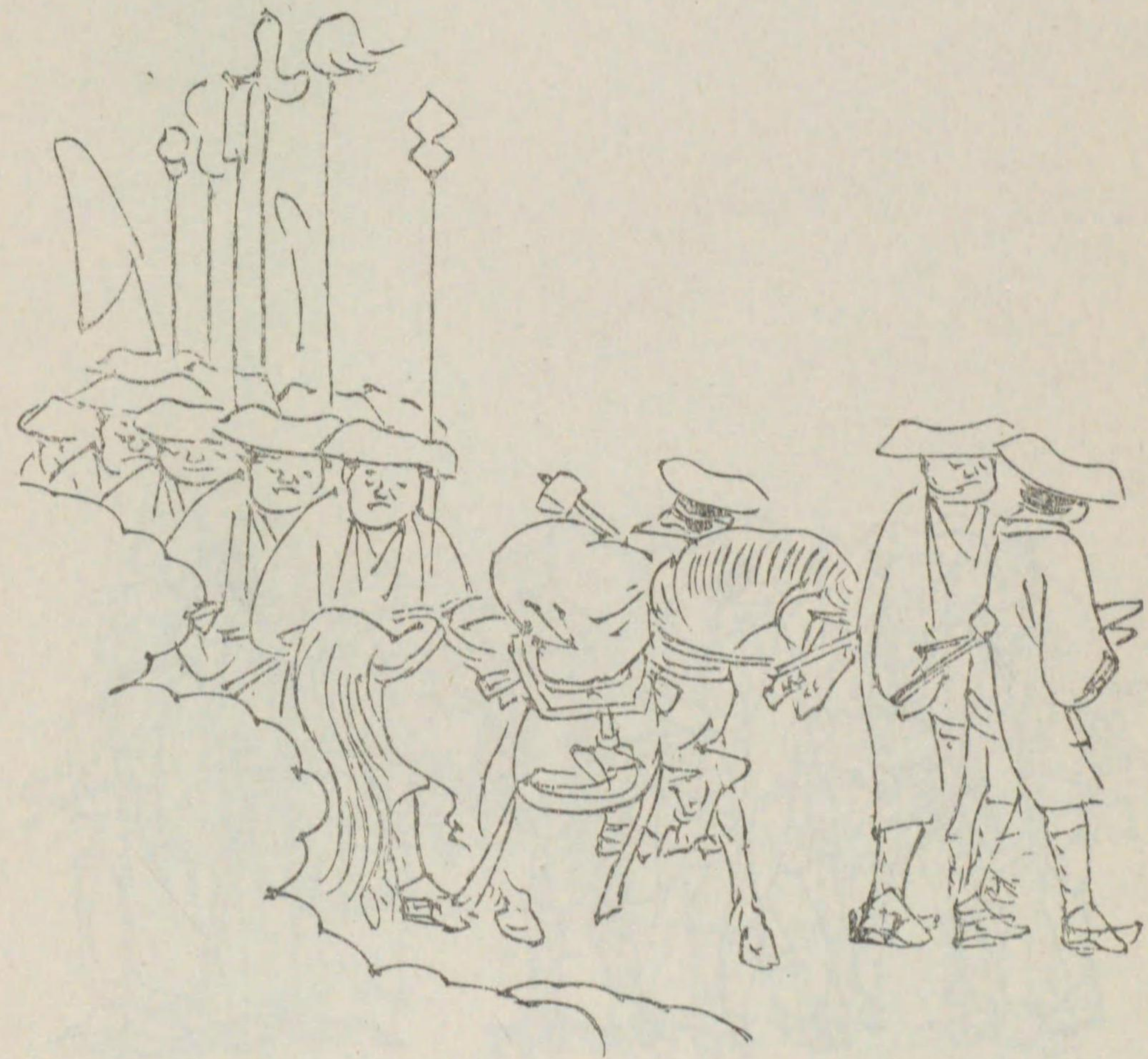




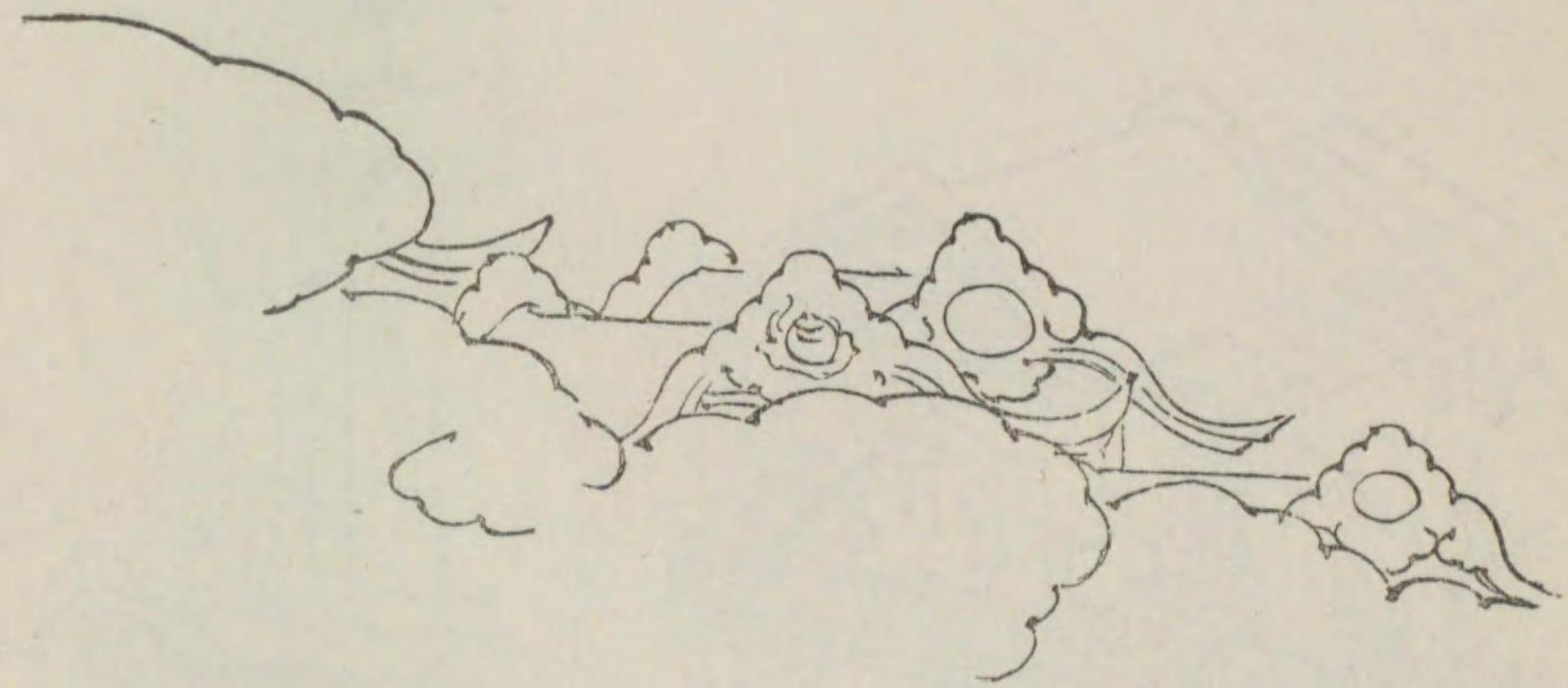
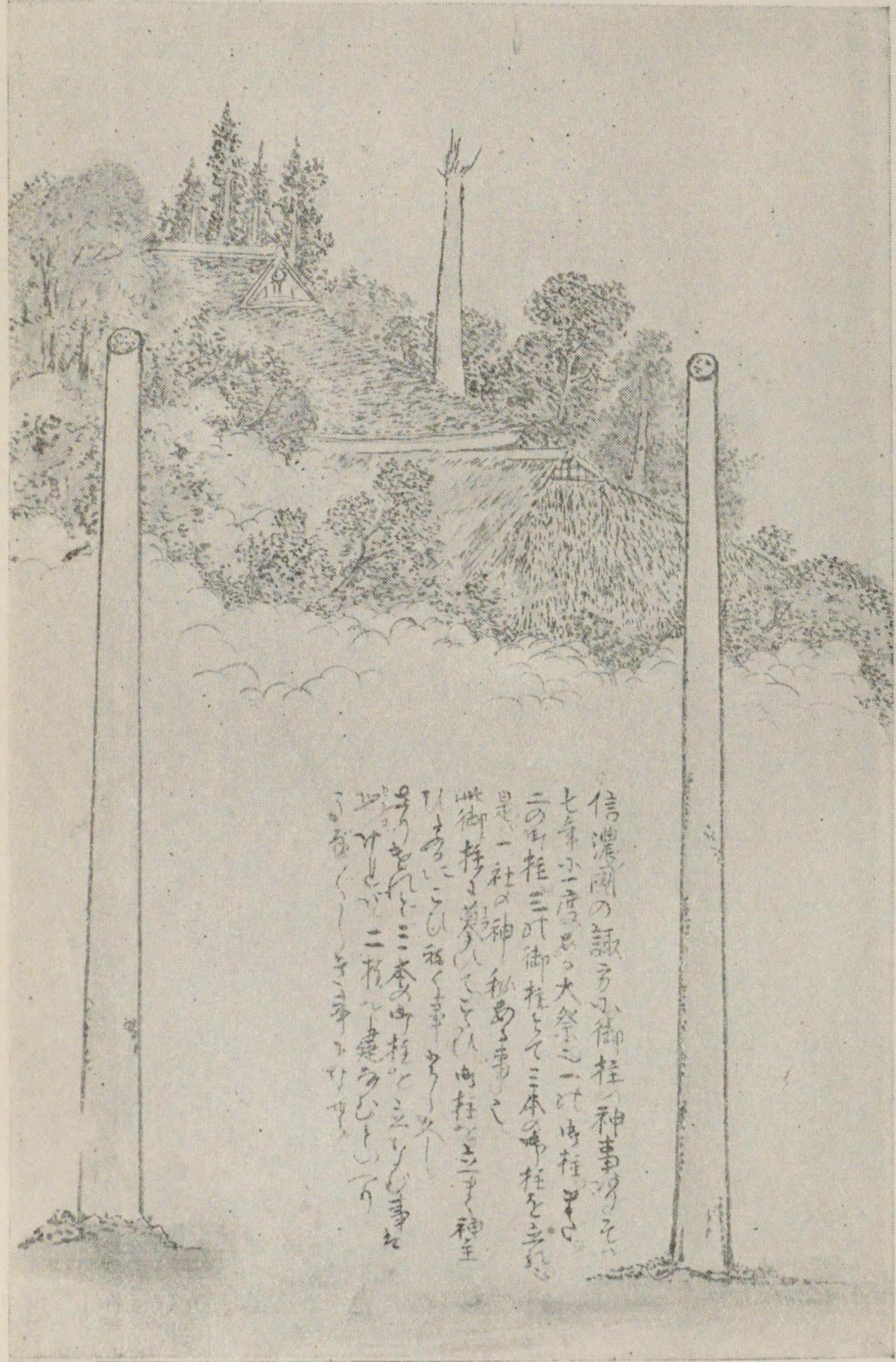




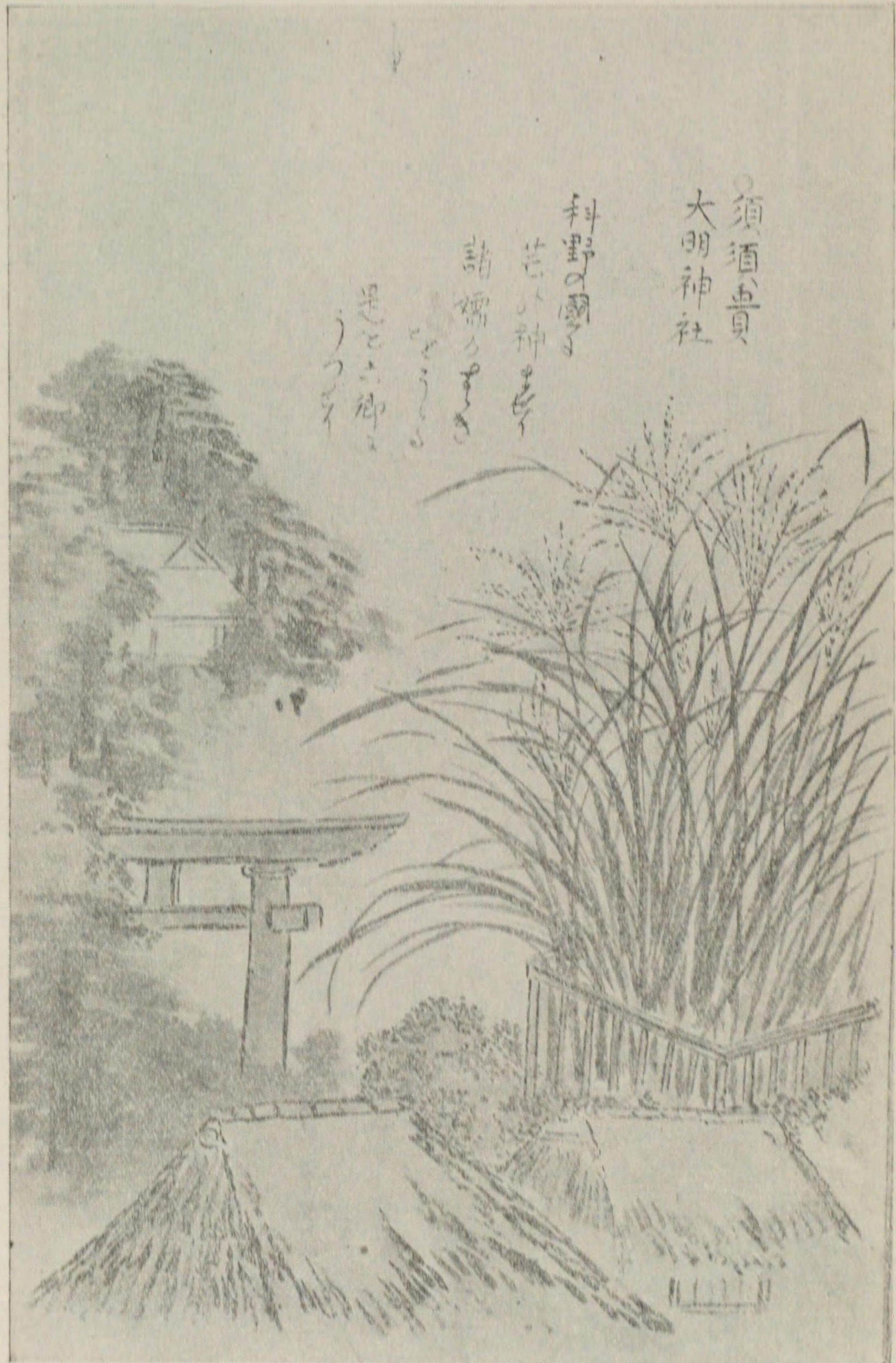
花車。能家形。踊山。多し。  
その品。こゝろ。い。い。し。も。と。く。多。し。











須酒貴  
大明神社  
科野の園  
是は神主  
諸神の  
是は神  
つて

月出羽路仙北郡  
主澤新西根本郷  
河津澤原上十七巻

仙北郡金澤郷 目錄

- あまべのみくさの巻 本郷金澤新西根邑 屬郷七箇村也
- |        |          |         |              |
|--------|----------|---------|--------------|
| 菊のした水  | ○金澤本町村   | おぼろの櫻   | ○金澤中野村       |
| 韓久陀    | ○金澤前郷村   | をそのふくろ  | ○金澤寺田村       |
| 野守のかさみ | ○飯詰村     | もりのしたかげ | ○安本村         |
| たぶての石  | ○金澤中野新田村 | もりの真榊   | ○榊の岡三浦氏神主の由來 |

○舊跡名所勝地之部

月出羽道(仙北郡十七)



- 厨 河 ○前郷村に在り、陸奥國に同名あり。厨は庖屋也、家の邊の名にや。
- 菊水の橋 ○本町村にあり、里民宿末の橋といふ、むかしは菊の多かりし流なりしよし。
- 矢立テの杉 ○中野村に在り、並ては権五郎景正が高名塚といへり、鎗射立しよしといへり。
- 物見山 ○同中野村にあり、いにしへ眺望の陣營ありし跡なるよしを語る。
- 犧の塚 ○同中野村に在り、十二種の犧を埋て十二牲の名を十二所と呼也。
- みのり塚 ○飯詰村にあり、もはら經塚といふ、石經埋し岡なるよしをいへり。
- 兜石 ○八幡宮の瑞籬の東にあり、石の形兜に似たりしゆゑをもていへり。
- 保侶衣石 ○同社の瑞籬の傍に在り、そのさまほろ親にやゝ似たる石也。
- 星兜石 ○同社神階の下に在り、義家朝臣の兜を此石の下に埋み給ひし地也。
- 神木古槻 ○同神山にいにしへより有る齋槻のよしをいへり、一山の古木也。
- 永徳の碑 ○長持山の古道に在りしを、近きころ中野村の端往復の側に立也。
- 臈の櫻また月影櫻の名あり ○中野村の湯の森にむかしありつるよし、ゆゑよし多し。
- 金あらひ水 ○同中野村に在り、由來なほその本行につばらかなり。
- 蛭藻の沼 ○中野新田村にあり、家衛生捕られしところなるよし。
- 韓櫃石 ○寺田山に在り、神變なる石也、由來神社の御縁起に見ゆ。

- 安ス本ト館 ○中野村にあり、いにしへゆゑある人の居館の跡とて残りぬ。
- 野守の寒水 ○飯詰村に在り、十三清水のそが中の好井也。
- 海陪あまべのしみづ ○同村に在り、そのゆゑよしは此邑のくだりに委曲なり。
- 諏訪の神山 ○寺田村の山に在り、いにしへ御射山祭せしみやどころの迹也。
- 弓ゆ楯だての岡 ○八幡宮の初御神門の傍に在る岩山也、往復の道に在り。
- 腰掛石 ○同御神門の内に在り、義家將軍の腰掛石といへり。
- 黒瀧山 ○前郷村と六郷東根ノ村吟也、近きとし此山より千體佛の銅像、また、ほくゑ經、また菩薩生地經など掘りうる事ありし。其經の卷末に爲散位安部定親女共二親と記したり。
- 鞍掛山 ○中野村の山に在り、並てくら石が澤といふ。その形鞞鞍に似たる石也、さるよしをもてしがいへり。
- 陣館岡 ○同村に在り、いにしへ八幡太郎義家將軍陣營の跡なるよしをもち語る。近きまで礎の跡など残りたるに寺どもを造テしが、其寺々も今はこと處に引うつせり。

天部能水草

○金澤新西根邑 (初)

里正 重

吉 照井氏也

○此村頭郷にして屬郷七箇村あり。そは安本、金澤中野新田、金澤中野、金澤本町、金澤前郷、金澤寺田、飯詰の七邑也。享保郡邑記に、「昔は此邑金澤西根新田とありしを今は金澤新西根村と改リぬ、また其傍に平鹿、郡仙北郡」云々と記せり。また、「古來金澤西根村ノ内新開出テ正保四年、御橋分候。南、横手川



古名旭川また朝倉川といふ際處、平鹿郡内下境村、畑當村、内古鍋子、淵惡戸入込候、依テ右在所押切ト申傳候。又横手河向淨圓村ト申ス當村候、家二軒田畑在り、上境ト入込郡畛候。横手川前ニ上境ノ内甘部村古名也、由來ト多き地也申村田畑家境也」と見ゆ。金澤西根新田邑古來本田村ともいひし家廿七軒也と見ゆ。枝郷、凡金澤西根村に同ジ○四屋村家十五軒今廿二戸○町田古八軒今四戸○糠、淵古五軒今三戸○蒜澤古八軒今四戸○牛ヶ墓古五軒今四戸○上谷地中二軒廢村○今泉古九軒今二戸○切上古二軒今二戸○万願寺村古一軒今二戸○下谷地中一軒廢村○釜蓋古二軒今二戸○石町古三軒今二戸○大久保古二軒今二戸○菅谷地古二軒今四戸○熊野堂村古一軒今一戸○淨圓惡戸古四軒今一戸○此金澤西根村に無キ枝郷は四ツ屋、牛ヶ墓、淨圓惡戸、三村也。此新西根邑の廻帳に「正保四年山北山本郡金澤新田村」、また慶安年中、舊記には「仙乏山本郡新西根村」と見えたり、山本郡と云ひつる證也。

○熊野三所大權現社 祭日六月八日、神主佐々木筑前正。すなはち熊野堂村に座り、そのいにしへは金澤西根村に齋奉りし御神ながら、今は金澤新西根村一郷、鎮守の神社にて、いごとく古よりにし神地也といへり。

○神官家さゝ木氏歴世

○上祖佐々木六太夫○二代同筑前正○三代同播磨正○四代同民彌○五代同筑前正、當代也。

○照井家來由

○梅津家長長給人照井治部安政の上祖は照井、太郎武久朝臣也といへり。陸奥平泉落城の後同國和賀、郡

に潜み、其末出羽の山本、郡に至り、西根といふ處に土着し新田を墾き、かくて横手の 主小野寺遠江守義道の代にて最上義光軍勢を催て來る、其時加勢して役内に出張す。また西馬音内勢起り押寄る、義道すべなく山に退きぬ、かくて役内の出張を引ぬといへり。はじめて山本、郡に來りつるは弘治元年の頃也といへり、舊記、家系譜等は落城の後焼捨たるよし云ひ傳ふ。慶長四年己亥四月照井、太郎武久、嫡子常陸と改名し武政といひ、また治部政吉と連綿せり。

○其後、平鹿郡横手川岸あまべ天部といふ處へ堰を堀り通し御田地開墾して、辛勞免高三拾石當村に於て拜領す。其後延寶五年、右辛勞免所務仕り梅津與左衛門家、給人となる。かくて寛文二年弓一張、馬具等獻上ス。同年六郷に於て拜領ノ品、御紋、御羽織。○信止といふ二字御筆、一軸、御紋付キたり。御弓、乘馬拜領ノ書記あり。○菅大臣、画像、御とし十二歳にて梅津の二字御紋、一軸。

右は寶永二年旦那より拜領也と日記に見えたり。

○勸修寺大納言經逸御筆一枚 半弓一張。

○紺紙金泥經文切 一枚 古記八枚。

右所藏ノ品也。

○此出羽ノ國に照井統落來りしは平鹿ノ郡筏村、善重郎、同郡土淵村の六之丞、此西根村の治部、安本村の滿榮寺、今一人はいづこの誰といふ事をしらすといへり。



此山麓澤西根村之西新築法之津也  
 比江之村中身著之田也之内江也  
 少給石下之志也  
 實為給部年  
 拾月十下  
 物津丹記  
 佐賀源嘉の面  
 津田之石橋  
 全法西根新築の集  
 首章の

滋谷喜右門所藏

大方能登屋  
 後國之接心  
 梅津卯記

牛澤西根新築の集  
 西根新築の集  
 子持之志  
 此山麓澤西根村之西新築法之津也  
 比江之村中身著之田也之内江也  
 少給石下之志也  
 實為給部年  
 拾月十下

心深部年  
 八  
 六日

感  
 志



○水一斗入の茶釜古物也 照井重吉所藏。此鐘子は平鹿郡上境村専光寺の堰堀りたる時此器を掘りうるなり、万治年中照井治右衛門照井治部の家なり方より分家のとき貰ひしといふ、古代のもの也。

○澁谷氏來由

○照井氏と同梅津家給人也。澁谷喜右衛門知新こもぎ上祖澁谷越前は横手城主小野寺遠江守家臣たり、小野寺家没落の後金澤西根邑に居住せり。澁谷知新まで九代に及びぬ。此村に○肝煎やしき○御藏やしき○小走やしき○風呂やしき○禰宜やしきとて古來よりあり。「澁谷元祖改名して大隅といひ、また改名して七代まで藤右衛門と呼ぶ、また藤右衛門といふ二代あり、今は喜右衛門と呼ぶ。五代目まで金澤西根開キ肝煎をつとむ、享保十一年に梅津家の給人となる也。古記録に云々、仙北郡金澤西根新田村に於て、當家先祖五代以前藤右衛門と申者郷高四ツ五步成り千二百石之處、御注進開辛勞免御高之内郷高五十石永代拜領被仰付候也。寛永十二年十二月梅津外記様、佐藤源右衛門様、須田主膳様御連名之御判紙頂戴仕候。」と見ゆ。

菊のした水

○金澤本町邑

新西根寄郷七ヶ村之一也

里正七郎兵衛小原氏也

○此あたりは金澤ノ莊ともいひつるにや、八幡宮の御山の號を金澤山こむたかせといひ、また中古は金澤八箇村と

いへり、その村々は○金澤本町○金澤中野○金澤前郷○金澤寺田○金澤東根○金澤西根○金澤新西根○金澤中野新田しかり。今は其世とは親郷寄郷も替かて、今いふ八ヶ村は金澤東根此村今は六郷村の屬村と成りぬ金澤西根此村今大曲ノ屬村たり此二村を除て、○飯詰○安本の兩村を算入るなり。享保郡邑記云々、金澤本町村家員八拾軒、驛馬也。田地無之、郷中除屋敷御高六拾五石二升三合役物成御免、後中野村より御物成之内四十石被下候。金澤中野村十五日替驛馬相勤申候。横手、一里卅二町卅二間、六郷、一里十五町二間云々と見えたり。枝郷○立石村本町五軒前郷五軒入交ッ村也。立石はいと多かる名也、かの續紀にいへる鷲座、楯座、楯石、澤とあるいづらならむか、最上郡立石寺りゅうしつじをはじめ立石の名ぞいと多かる。○川目村、此川目も所々に在り、家員古四軒、今七戸の村也。

此金澤本町は南北に往復二道あり、それに新小屋町、本町、荒町あり、こは東筋也。西に田町あり、田町に湊氏の栖家あり。また南の端に榊の栖家あり、八幡宮の神官三浦氏也、地は前郷村に屬といへり。○厨川橋栗矢川作れり 水上は金澤山の麓わたりにして此驛路に出づ、此橋、新小屋町と本町との間に挂る此あたりの大板橋也。厨川は陸奥にもあり。倭漢三才圖會に、出羽郡鳥海山權現、鳥海山祭神未詳云々麓有社、俗傳云鳥海彌三郎靈祠也、有川、鎌倉權五郎景政與鳥海彌三郎戰被射右眼、放答矢射殺敵、拔鏃到此川洗眼云々有黄類魚一眼眇也」と見えたり。此金澤にてしかいへり。栗矢河の橋は中野邑に屬橋也といへり。